

5章. 地域別構想

1. 地域別構想の役割と地域区分

1-1 地域別構想の役割

全体構想は、まちづくりの目標やまちづくりの方針について市全域を対象として定めており、各地域における日常的な生活や都市活動の視点から見ると身近に感じにくいところがあります。地域別構想では、市域を構成する各地域の特性や課題を踏まえ、地域住民の意見を反映することで、より地域の実情にあったまちづくりの目標や方針を設定します。

1-2 地域区分の考え方

地域別構想を策定する地域区分は、都市計画区域を含む地域を基本単位として、袖ヶ江地域、御祓地域、矢田郷地域、東湊地域、西湊地域、和倉地域、石崎地域、徳田地域、高階地域の9地域とします。

1-3 地域別構想の内容

本計画における地域別構想では、各地域において以下の4つの項目を定めます。

表 地域別構想に定める項目

①地域の現況	・ 地域の位置や人口の動向、特徴について整理
②地域の課題	・ 地域まちづくりの課題を整理
③復興まちづくりの基本方針	・ 地区別復興計画の復興まちづくりの基本方針を踏襲
④地域まちづくりの方針	・ 全体構想の都市づくりの方針を地域に展開 ・ 地域別の意見交換会での意見を反映



図 地域区分図

参考 地区別復興構想について

市内の各 15 地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。

策定にあたっては、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取り組み」に対して意見を伺いました。

今回の都市計画マスタープランは、復興まちづくりの動きを推進する目的があるため、地区別復興構想の方針を踏襲することとしました。

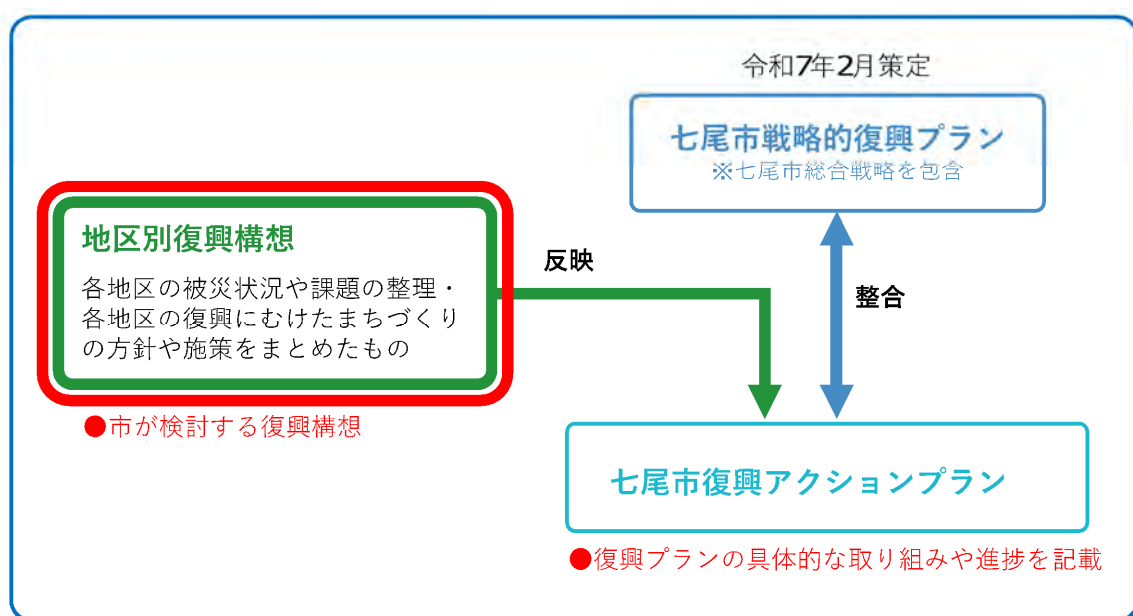


図 地区別復興構想の位置づけ

2. 地域別構想

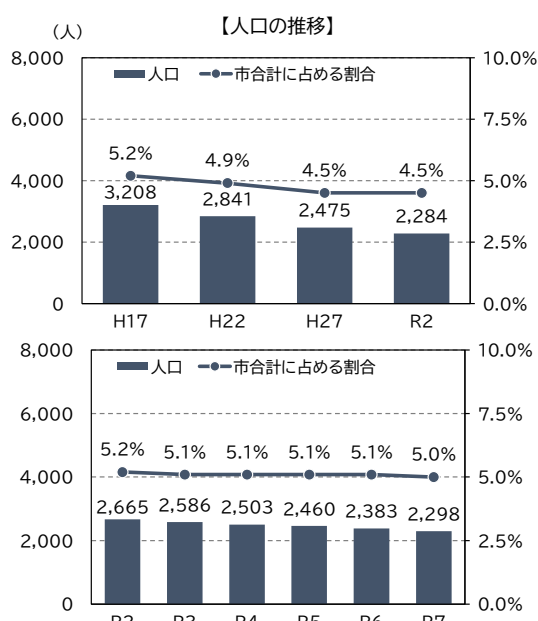
2-1 袖ヶ江地域

袖ヶ江地域は、御祓地域とともに七尾市の中心市街地を構成する地域であり、前田利家が築城した小丸山城の城下町の風情が残る地域です。

①地域の現況

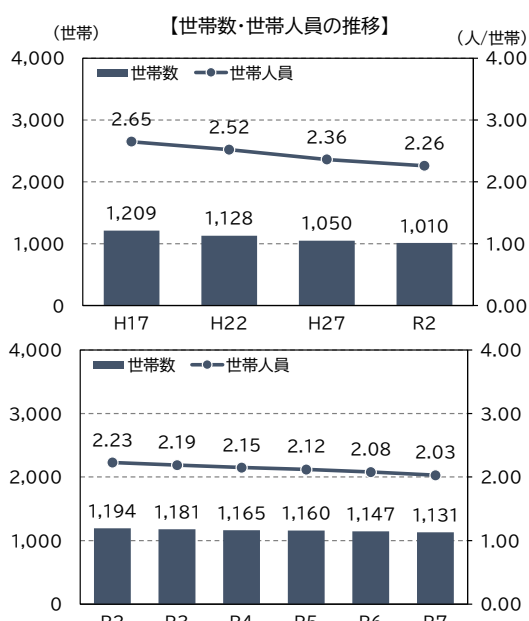
【都市構造・土地利用関連】

- ・国勢調査による令和2年までの人口、世帯数は、ともに減少しています。住民基本台帳の人口、世帯数をみると、令和2年以降についても減少しています。
- ・地域全体で高齢化率が40%以上となっており、七尾港周辺では高齢化率50%以上の箇所もみられます。
- ・七尾駅に近接した地域であり、市役所が立地するなど、七尾市の中心市街地として生活利便性が高い地域です。
- ・市役所や七尾マリナーパークなど多くの人が市内外から訪れる施設が立地しています。また、地域内の生活道路には商店街（中央通り、東部）があり、生活に密着した商業サービスが提供されています。
- ・地域北部の七尾港周辺は、臨港地区に指定されており、工業、生産物流など工業機能が集積しています。



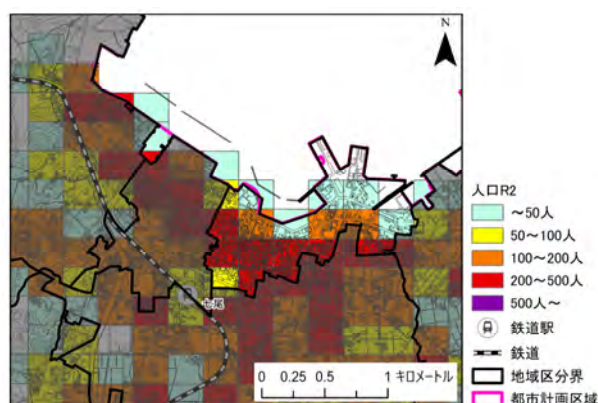
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 袖ヶ江地域の人口の推移



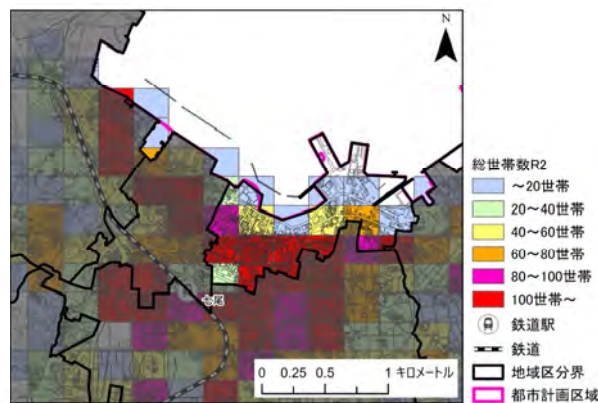
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 袖ヶ江地域の世帯数の推移



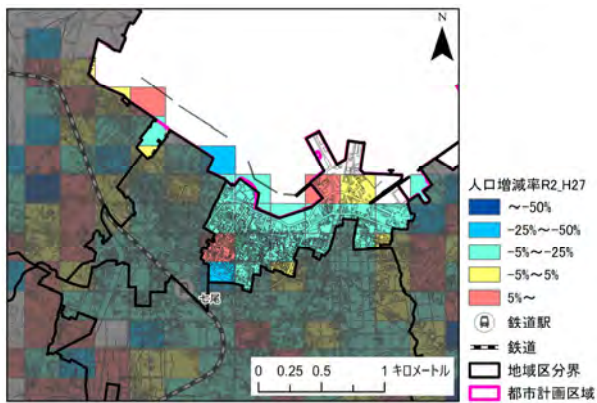
【資料：国勢調査(250mメッシュ)】

図 人口分布(令和2年)



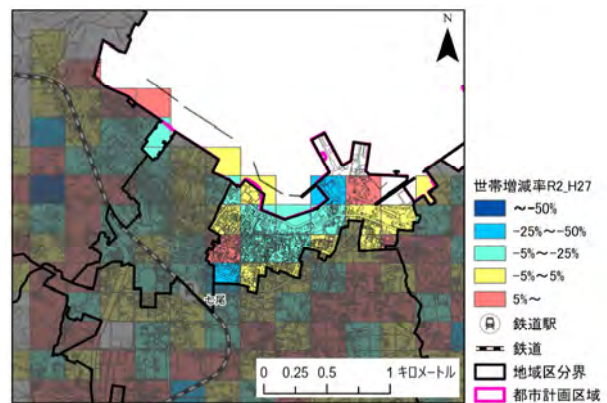
【資料：国勢調査(250mメッシュ)】

図 世帯分布(令和2年)



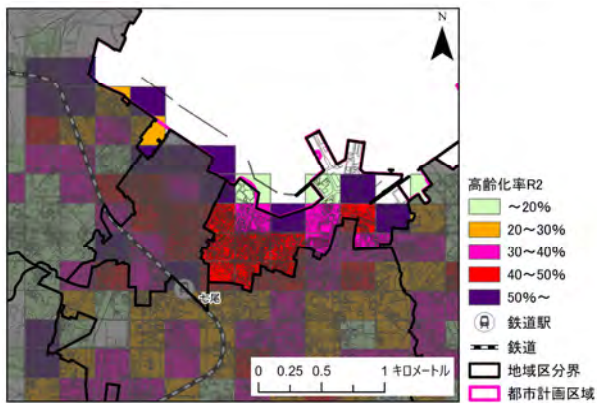
【資料:国勢調査(250mメッシュ)】

図 人口増減率(平成 27 年~令和2年)



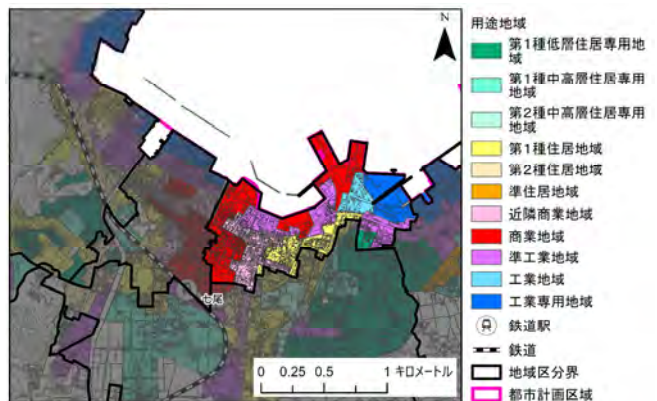
【資料:国勢調査(250mメッシュ)】

図 世帯数増減(平成 27 年~令和2年)



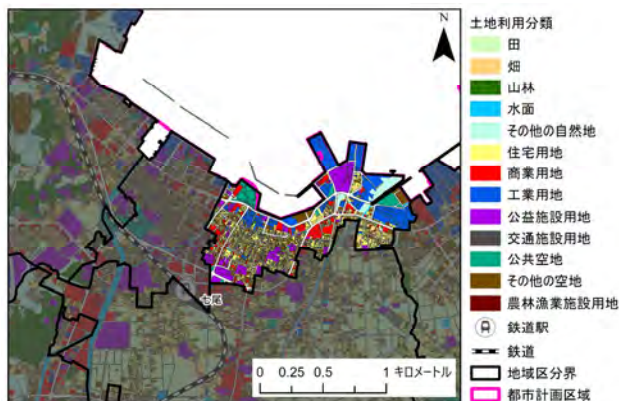
【資料:国勢調査(250mメッシュ)】

図 高齢化率(令和2年)



【資料:都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料:都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・ 国道 160 号や県道七尾輪島線、(都)府中七尾駅線、(都)臨港線が地域の骨格となる幹線道路網を形成しています。
- ・ 七尾市の顔となるシンボル道路として、七尾駅と七尾港を結ぶ(都)府中七尾駅線が御祓地域に跨って整備されています。
- ・ 地域に隣接する七尾駅と連結するルートでバスが運行されています。

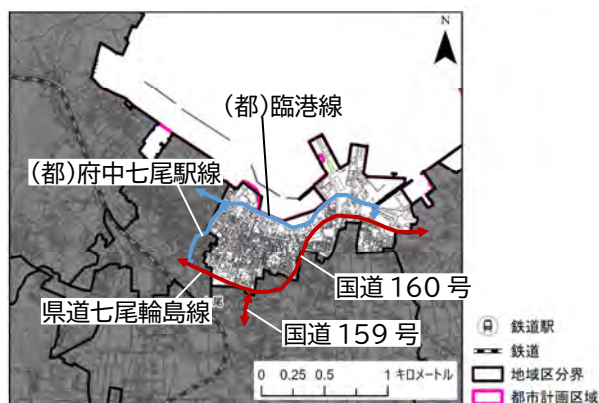
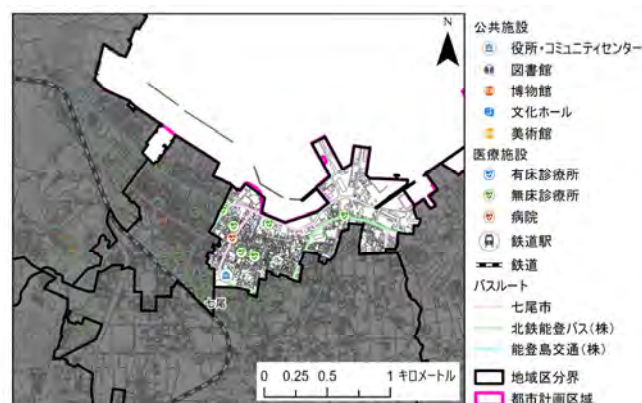


図 地域の幹線道路

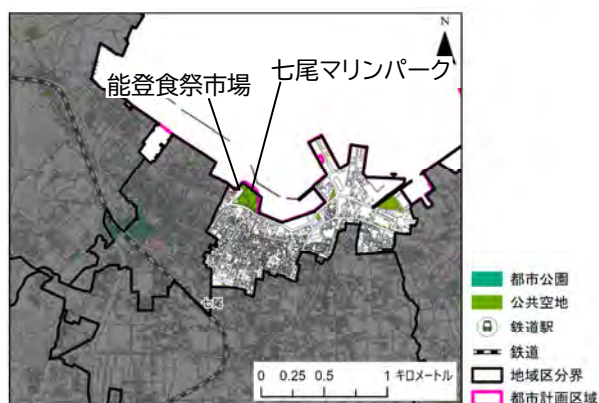


【資料:七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

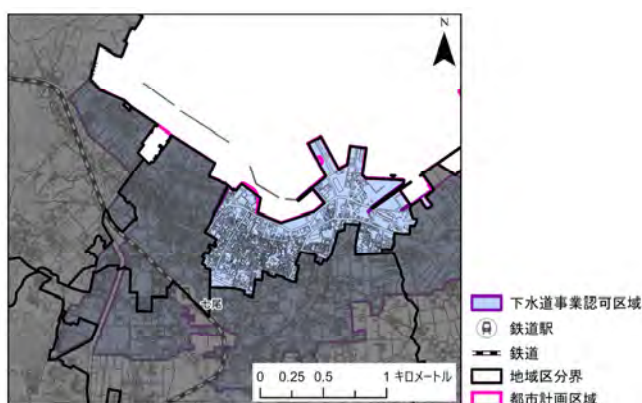
【環境】

- ・ 能登食祭市場や七尾マリンパーク周辺は、まちの個性となる水と緑の拠点として、市民や訪れる人のレクリエーション活動、癒しや憩いの場としての役割を担っています。
- ・ 御祓川の景観護岸と一体となった景観を形成しています。
- ・ 山車（でか山）が地域を巡行する国の重要無形民俗文化財「青柏祭」をはじめとする祭りが地域で、受け継がれ、地域が誇る歴史・文化として根付いています。
- ・ 地域全域が公共下水道の事業認可区域です。



【資料:都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

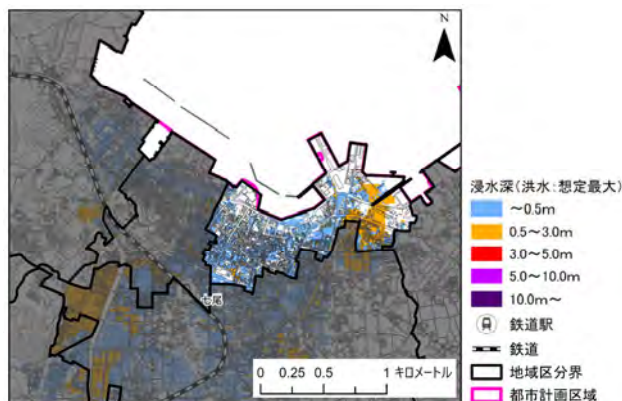


【資料:七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

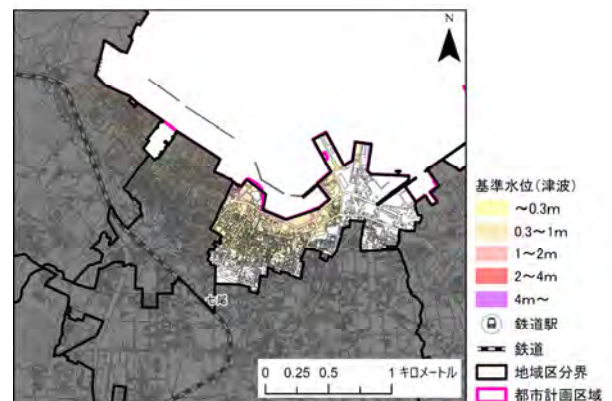
【防災】

- ・ 国道 249 号北側は、密集市街地が形成されており、狭あいな道路も多く、延焼の危険性や緊急車両の通行に対応した生活道路の整備が求められています。
- ・ 令和 6 年能登半島地震により、被災した住家の約 22%が半壊以上の被害を受けました。
- ・ 公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みです。
- ・ 七尾港周辺では液状化による土砂噴射や舗装亀裂などの被害を受けました。
- ・ 地域内の広い範囲で洪水による床下浸水相当の浸水深 0.5m未満の浸水が想定され、一部では床上浸水相当の浸水深 0.5m以上の浸水が想定される場所もみられます。
- ・ 地域の西側を中心に広い範囲で津波による浸水が想定されています。
- ・ 土砂災害の発生が想定される地域は、地域内ではみられません。
- ・ 地域東側の一部でため池浸水想定区域がみられます。



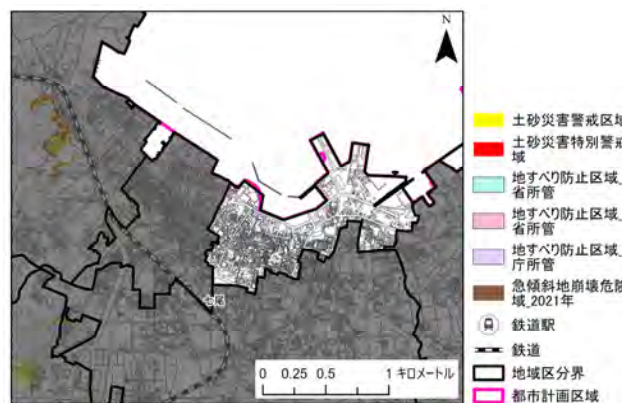
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



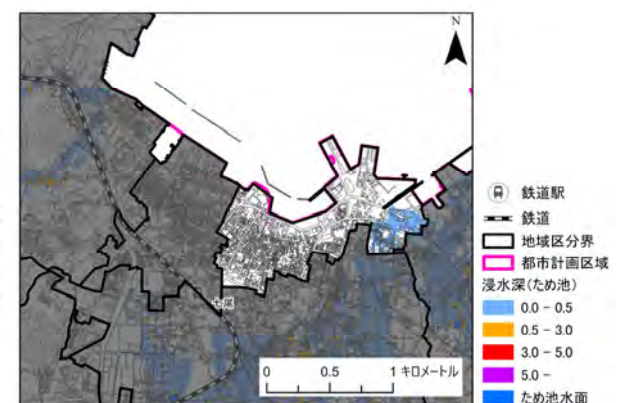
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

袖ヶ江地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】七尾市の中心市街地として魅力的な市街地形成

【交通】国道 249 号、(都)府中七尾駅線を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実

【環境】七尾港周辺の緑地や歴史的資源を活かした風格のある環境形成

【防災】想定される洪水や津波による浸水への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの現状を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組みます。特に復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保が重要です。
- ・さらに、今後増えることが想定される空き家・空き地などを有効に活用し、七尾市におけるまちなか居住を促進する住宅地形成に取り組みます。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要です。公共施設や食料品店、病院など、生活するうえで必要な施設の適正な配置を検討し、生活利便性の向上を目指します。
- ・また、まちなかへの飲食店などの立地を促すことで、地区住民の豊かな暮らしを支えます。
- ・地域に過度な負担がかからない持続可能なまちづくりに向けて、地域通貨を活用したまちづくりへの住民参加の仕組みや組織づくりを検討します。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧及び継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要です。
- ・また、空き家・空き店舗などの有効活用や歴史的な建造物などの地域資源を活用しながら地区内の回遊性を高める取り組みを検討します。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・将来の大規模な自然災害の備えとして、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保が重要な課題です。
- ・建物が多く分布している市街地においては、住宅などの耐震化や改修を促進し、安全に住み続けられる居住環境を構築します。また、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に指定されたエリアでは震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組みます。

<交通 | 交通の考え方>

- ・災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組みます。

④地域まちづくりの目標

袖ヶ江地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

歴史ある「港と祭礼のまち」を次世代へつなげる魅力的なまちづくり

城下町としての歴史や祭り等の地域の誇り・資源を、復興まちづくりの足掛かりとしながら、歴史資源が分布する市街地や七尾港周辺の交流機能を活かし、七尾市の中心市街地として賑わいがあり、魅力的なまちづくりを推進します。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・ 城下町としての歴史と風格を活かしたまちなか観光を推進するため、賑わいづくりや既存ストックを活かした観光駐車場の確保を進め、まちなかのにぎわい創出を図ります。
- ・ 工業系用途地域の一部では住居系土地利用との混在がみられるため、用途地域の見直しを行うとともに、低未利用地の活用を図ります。
- ・ まちなか居住を推進するため、U・I・J ターンなどの転入希望者の受皿づくりとして、空き家、空き地の有効活用を図ります。
- ・ 能登半島地震の影響による人口流出を少しでも低減するため復興公営住宅の整備を推進や土地の有効活用に向けた取り組みを促進します。

【交通】

- ・ 中心市街地の観光交流の促進に向けて、歩行者の安全性、回遊性の向上を図るとともに、山の寺寺院群等の他地域における観光資源との連携を図ります。
- ・ 地域間を連絡する道路として、一部未整備区間が残る(都)臨港線の整備を促進します。
- ・ 公共交通サービスや買い物支援などにより生活利便性の確保を図ります。

【環境】

- ・ (都)府中七尾駅線における、七尾の顔となる景観形成の充実を図ります。また、歴史的なまちなみを活かした景観づくりを図ります。
- ・ 七尾マリンパークの活用を図るとともに、身近な公園・緑地の質の向上を図ります。
- ・ 街区公園等の身近な公園・緑地は、適正な管理を行うとともに、必要に応じて遊具の更新やバリアフリー化などにより質の向上を図ります。
- ・ 多くの人が観光に訪れる「青柏祭」をはじめとする祭りや歴史・文化を継承・体験できる地域の取り組みを支援します。また、地域のこうした活動を後押しする各種施設について、地域と連携しながら整備・充実を図ります。

【防災】

- ・ 能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・ 想定される洪水・津波による浸水を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・ 能登半島地震の経験を活かした避難所の整備・充実を図ります。
- ・ 密集市街地において、狭あいな道路を延焼の危険性や緊急車両の通行に対応した生活道路の整備を図ります。
- ・ 低気圧時に潮位の上昇に伴い道路の冠水被害があるため、神戸川や毒見殿川の高潮対策を検討する。

【環境】

・七尾の顔となる景観形成の充実

【防災】

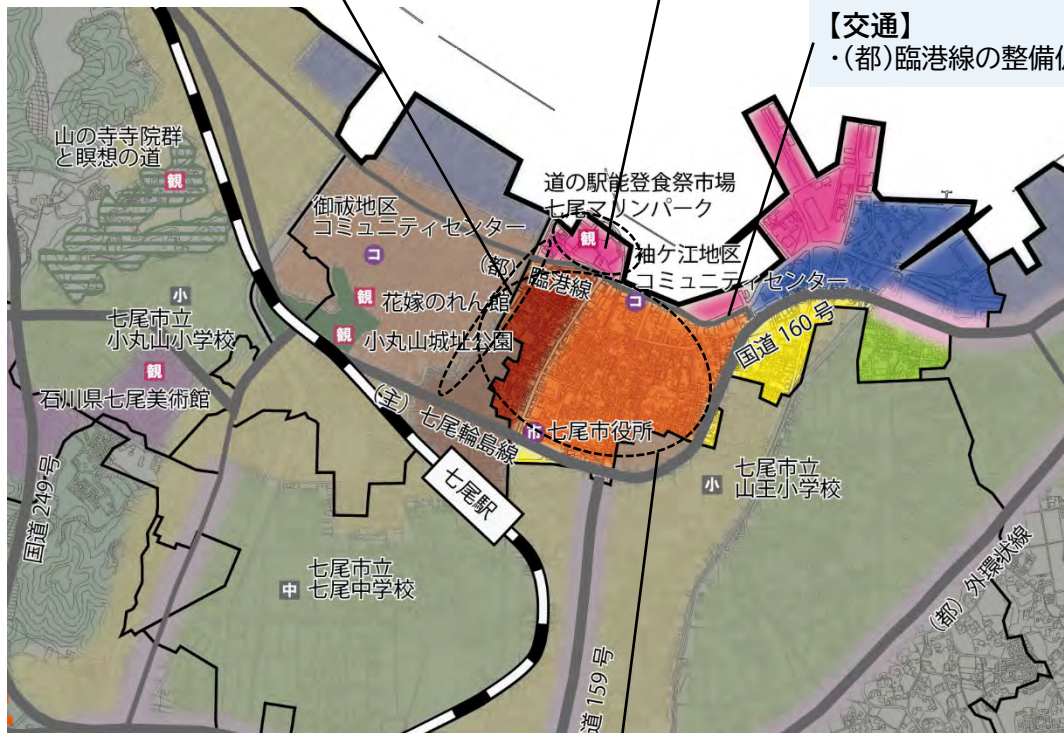
・避難所の整備・充実

【環境】

・七尾マリンパークの活用

【交通】

・(都)臨港線の整備促進



【都市構造・土地利用関連】

・賑わいづくりや既存ストックを活かした観光駐車場の確保
・空き家、空き地の有効活用
・復興公営住宅の整備を推進
・土地の有効活用に向けた取り組み促進

【交通】

・歩行者の安全性、回遊性の向上

地域全体

【交通】

・公共交通サービスや買い物支援などによる生活利便性の確保

【環境】

・身近な公園・緑地の質の向上
・街区公園等の身近な公園・緑地は、適正な管理

【防災】

・浸水を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援

 みなと文化交流ゾーン	 まちなかゾーン	 田園環境保全ゾーン
 ゆけむり文化交流ゾーン	 ゆとりの住宅地ゾーン	 森林環境保全ゾーン
 商業・業務ゾーン	 複合市街地ゾーン	 公園・緑地（近隣公園以上）
 沿道サービスゾーン	 工業・生産物流ゾーン	 風致地区
 生活文化福祉ゾーン		 行政区域

図 袖ヶ江地域まちづくり方針図

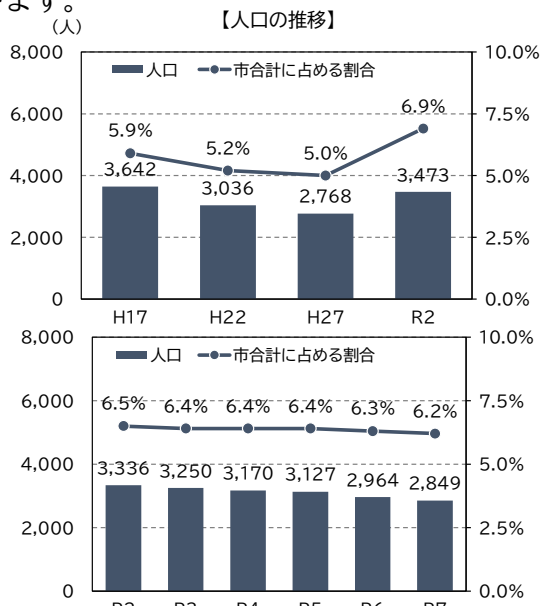
2-2 御祓地域

御祓地域は、袖ヶ江地域とともに七尾市の中心市街地を構成する地域であり、前田利家が築城した小丸山城の城下町の風情が残る地域です。

①地域の現況

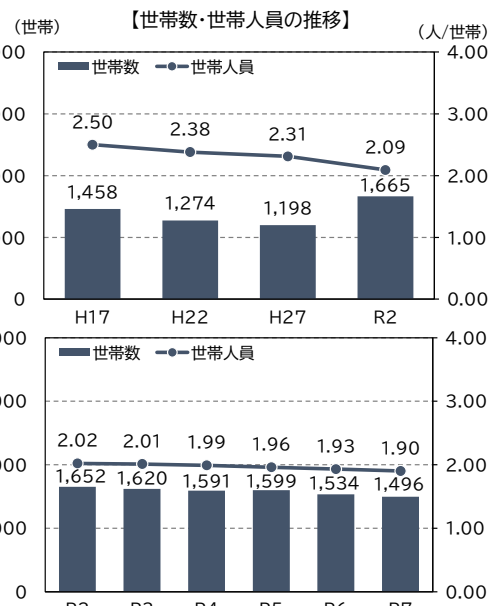
【都市構造・土地利用関連】

- ・国勢調査による令和2年までの人口、世帯数は、平成27年まで減少していましたが、令和2年に増加に転じています。住民基本台帳の人口、世帯数をみると、令和2年以降は減少傾向となっています。
- ・地域全体で高齢化率が40%以上となっており、七尾港周辺では高齢化率50%以上の箇所もみられます。
- ・七尾駅に近接した地域で、複合商業施設や商店街があり、七尾市の中心市街地として生活利便性が高い地域です。
- ・地域南部の七尾駅前に、複合商業施設「パトリア」と「ミナ・クル」があり、駅前の立地を活かした中能登地域における商業の中核機能としての役割を担っています。
- ・地域を東西に貫く一本杉通りなどの生活道路には商店街（中央通り、一本杉通り、リボン通り）があり、生活に密着した商業サービスが提供されています。
- ・地域北部の七尾港周辺は、臨港地区に指定されており、工業、生産物流など工業機能が集積しています。



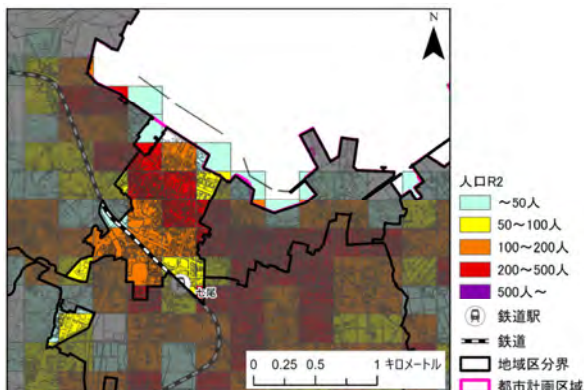
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 御祓地域の人口の推移



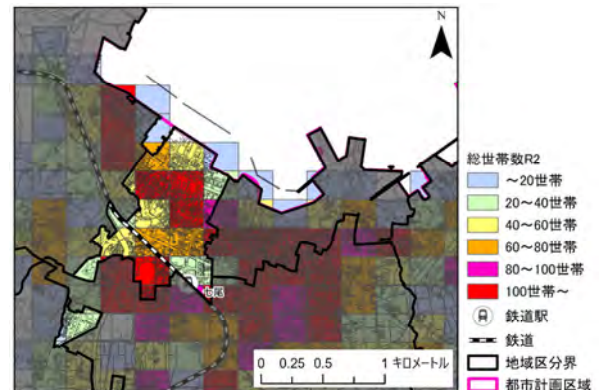
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 御祓地域の世帯数の推移



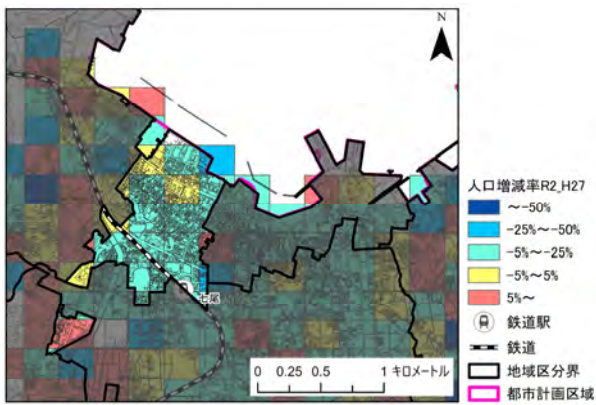
【資料：国勢調査(250mメッシュ)】

図 人口分布(令和2年)



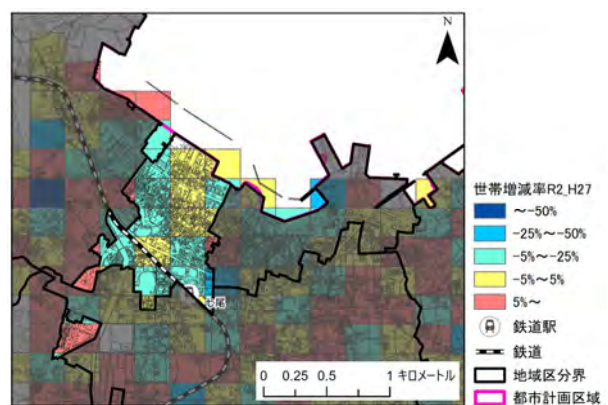
【資料：国勢調査(250mメッシュ)】

図 世帯分布(令和2年)



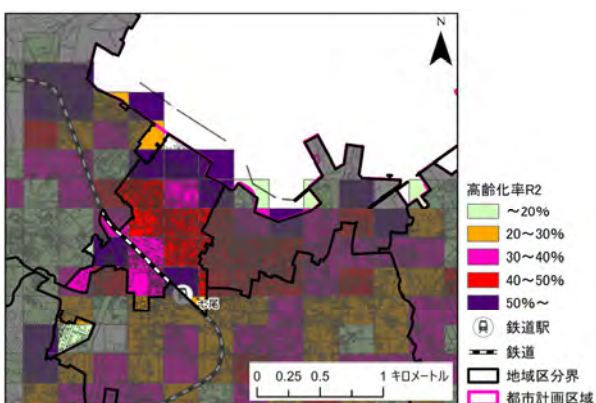
【資料:国勢調査(250mメッシュ)】

図 人口増減率(平成 27 年~令和2年)



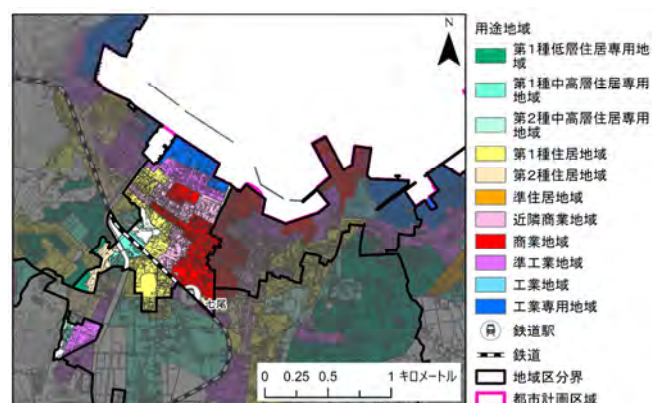
【資料:国勢調査(250mメッシュ)】

図 世帯数増減(平成 27 年~令和2年)



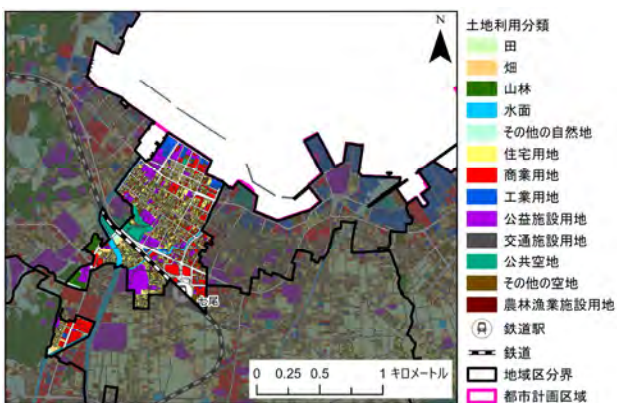
【資料:国勢調査(250mメッシュ)】

図 高齢化率(令和2年)



【資料:都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料:都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・ 県道七尾輪島線、(都)府中七尾駅線、(都)臨港線が地域の骨格となる幹線道路網を形成しています。
- ・ 七尾市の顔となるシンボル道路として、七尾駅と七尾港を結ぶ(都)府中七尾駅線が袖ヶ江地域に跨って整備されています。
- ・ 地域に隣接する七尾駅と連結するルートでバスが運行されています。

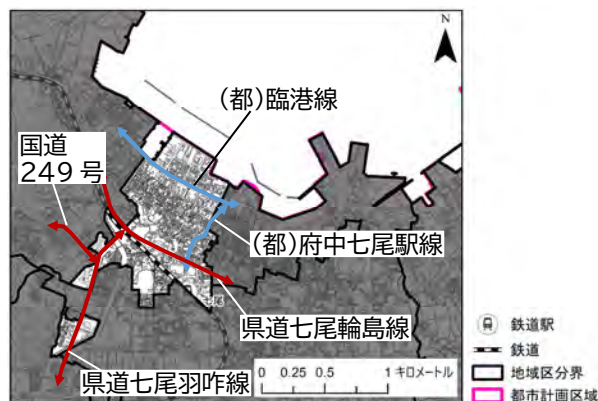
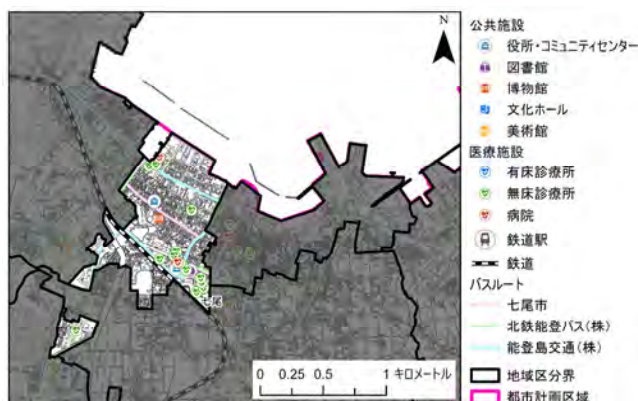


図 地域の幹線道路

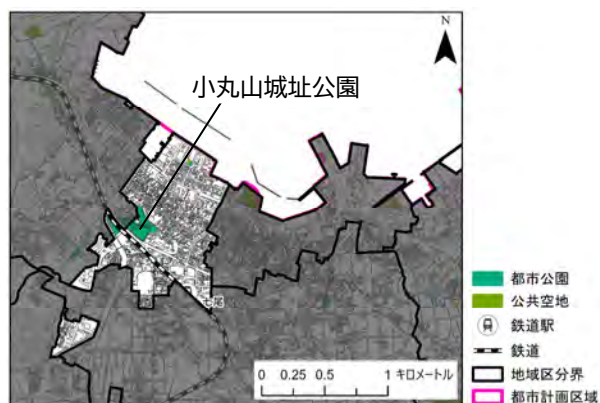


【資料:七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

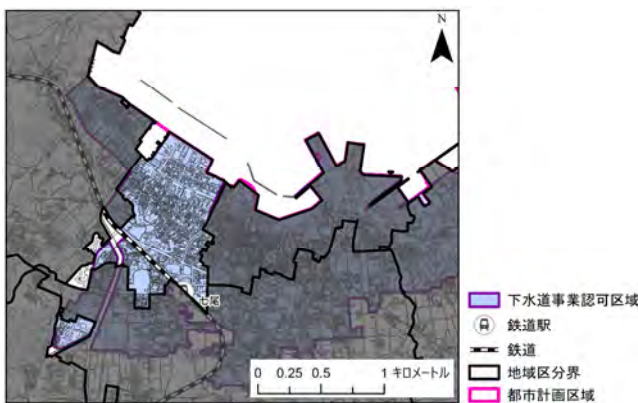
【環境】

- ・ 小丸山城跡に整備された小丸山城址公園には、桜やつつじなどの樹木があり、市民に親しまれています。
- ・ 御祓川の景観護岸と一体となった景観を形成しています。
- ・ 山車（でか山）が地域を巡行する国の重要無形民俗文化財「青柏祭」をはじめとする祭りが地域で、受け継がれ、地域が誇る歴史・文化として根付いています。
- ・ 地域全域が公共下水道の事業認可区域です。



【資料:都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

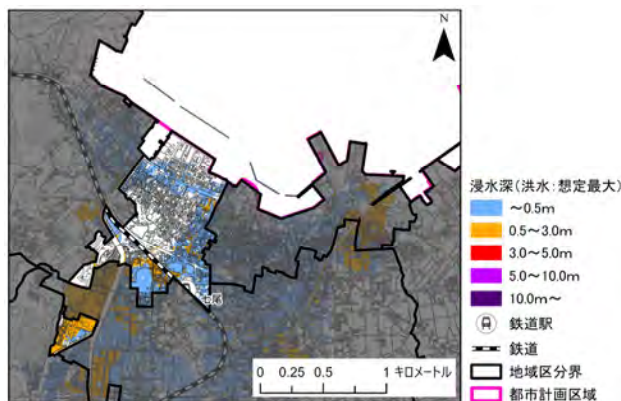


【資料:七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

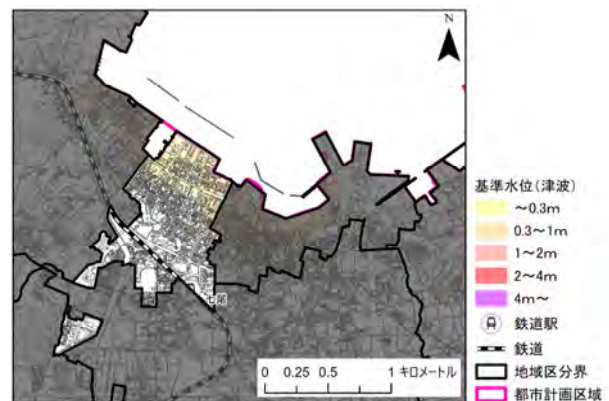
【防災】

- ・国道 249 号北側は、密集市街地が形成されており、狭い道路も多く、延焼の危険性や緊急車両の通行に対応した生活道路の整備が求められています。
- ・令和 6 年能登半島地震により、被災した住家の約 37%が半壊以上の被害を受けました。
- ・また、公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みです。
- ・七尾港周辺では液状化による土砂噴射や舗装亀裂などの被害を受けました。
- ・洪水による床下浸水相当の浸水深 0.5m未満の浸水が想定され、一部では床上浸水相当の浸水深 0.5m以上の浸水が想定される場所もみられます。
- ・七尾港に隣接する地域北部を中心に津波による浸水が想定されています。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が小丸山の斜面でみられます。
- ・地域内において、ため池浸水想定区域はほとんどみられません。



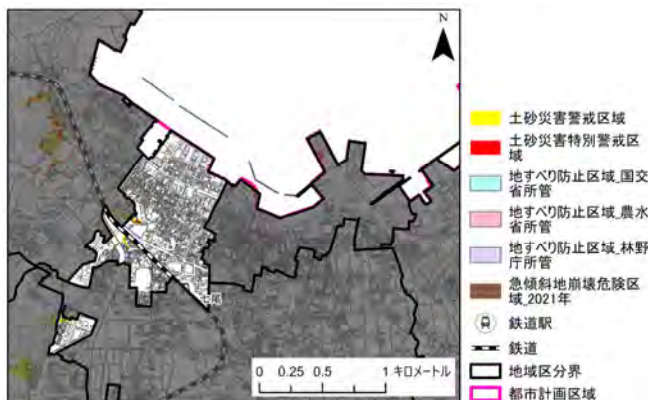
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域（想定最大規模）



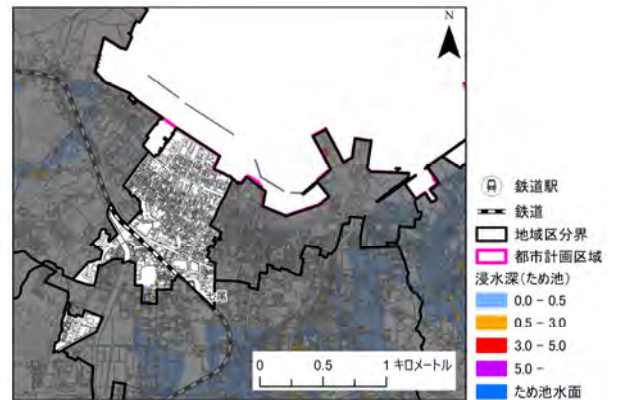
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域（基準水位）



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

御祓地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】七尾市の中心市街地として魅力的な市街地形成

【交通】県道七尾輪島線、(都)府中七尾駅線、(都)臨港線を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実

【環境】小丸山公園や歴史的資源を活かした風格のある環境形成

【防災】想定される洪水や津波による浸水への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの現状を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組みます。特に復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保が重要です。
- ・さらに、今後増えることが想定される空き家・空き地などを有効に活用し、七尾市におけるまちなか居住を促進する住宅地形成に取り組みます。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要です。公共施設や食料品店、病院など、生活するうえで必要な施設の適正な配置を検討し、生活利便性の向上を目指します。
- ・また、まちなかへの飲食店などの立地を促すことで、地区住民の豊かな暮らしを支えます。
- ・地域に過度な負担がかからない持続可能なまちづくりに向けて、地域通貨を活用したまちづくりへの住民参加の仕組みや組織づくりを検討します。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧及び継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要です。
- ・また、空き家・空き店舗などの有効活用や歴史的な建造物などの地域資源を活用しながら地区内の回遊性を高める取り組みを検討します。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・将来の大規模な自然災害の備えとして、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保が重要な課題です。
- ・建物が多く分布している市街地においては、住宅などの耐震化や改修を促進し、安全に住み続けられる居住環境を構築します。また、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に指定されたエリアでは震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組めます。

<交通 | 交通の考え方>

- ・災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組めます。

④地域まちづくりの目標

御祓地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

歴史・祭りが受け継がれ、七尾駅周辺の都市機能が集積した 賑わいのある魅力的なまちづくり

城下町としての歴史や祭り等の地域の誇りを、復興まちづくりの足掛かりとしながら、歴史資源が分布する市街地や七尾駅周辺の都市機能集積を活かし、中心市街地として関係人口も取り込みながら、賑わいがあり、魅力的なまちづくりを推進します。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・城下町としての歴史と風格を活かしたまちなか観光を推進するため、賑わいづくりや既存ストックを活かした観光駐車場の確保を進め、まちなかのにぎわい創出を図ります。
- ・地域の歴史・文化を活かして地域住民や観光客に憩いや学び等を提供する交流機能の導入について検討します。
- ・工業系用途地域の一部では住居系土地利用との混在がみられるため、用途地域の見直しを行うとともに、低未利用地の活用を図ります。
- ・まちなか居住を推進するため、U・I・J ターンなどの転入希望者の受け皿づくりとして、空き家、空き地の有効活用を図ります。
- ・能登半島地震の影響による人口流出を少しでも低減するため復興公営住宅の整備推進や土地の有効活用に向けた取り組みを促進します。

【交通】

- ・中心市街地の観光交流の促進に向けて、歩行者の安全性、回遊性の向上を図るとともに、和倉温泉や史跡七尾城跡、山の寺寺院群等の他地域における観光資源との連携を図ります。
- ・地域間を連絡する道路として、一部未整備区間が残る(都)臨港線の整備を促進します。
- ・公共交通サービスや買い物支援などにより生活利便性の確保を図ります。

【環境】

- ・(都)府中七尾駅線における、七尾の顔となる景観形成の充実を図ります。また、歴史的なまちなみを活かした景観づくりを図ります。
- ・街区公園等の身近な公園・緑地は、適正な管理を行うとともに、必要に応じて遊具の更新やバリアフリー化などにより質の向上を図ります。
- ・多くの人が観光に訪れる「青柏祭」をはじめとする祭りや歴史・文化を継承・体験できる地域の取り組みを支援します。また、地域のこうした活動を後押しする各種施設について、地域と連携しながら整備・充実を図ります。

【防災】

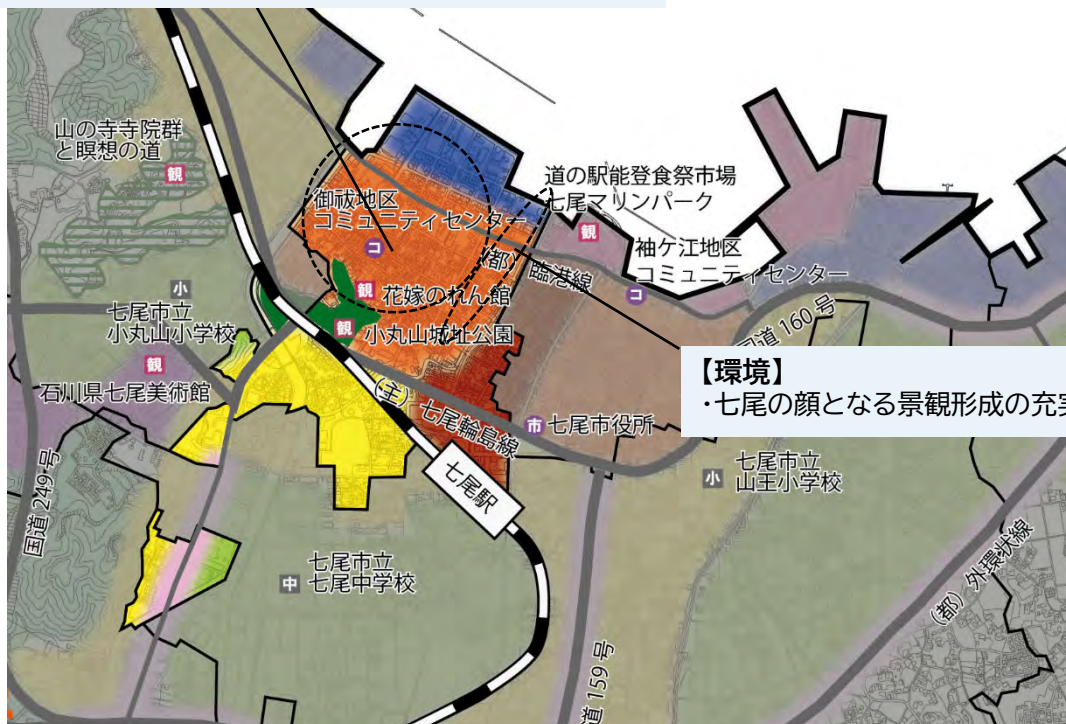
- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される洪水・津波による浸水を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。

【都市構造・土地利用関連】

- ・賑わいづくりや既存ストックを活かした観光駐車場の確保
- ・交流機能の導入を検討
- ・空き家、空き地の有効活用
- ・復興公営住宅の整備を推進
- ・土地の有効活用に向けた取り組み促進

【交通】

- ・歩行者の安全性、回遊性の向上



【環境】

- ・七尾の顔となる景観形成の充実

地域全体

【都市構造・土地利用】

- ・復興公営住宅の整備を推進
- ・土地の有効活用に向けた取り組みを促進

【交通】

- ・公共交通サービスや買い物支援などによる生活利便性の確保

【環境】

- ・身近な公園・緑地の質の向上
- ・街区公園等の身近な公園・緑地は、適正な管理

【防災】

- ・浸水を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援

 みなと文化交流ゾーン	 まちなかゾーン	 田園環境保全ゾーン
 ゆけむり文化交流ゾーン	 ゆとりの住宅地ゾーン	 森林環境保全ゾーン
 商業・業務ゾーン	 複合市街地ゾーン	 公園・緑地（近隣公園以上）
 沿道サービスゾーン	 工業・生産物流ゾーン	 風致地区
 生活文化福祉ゾーン		 行政区域

図 御祓地域まちづくり方針図

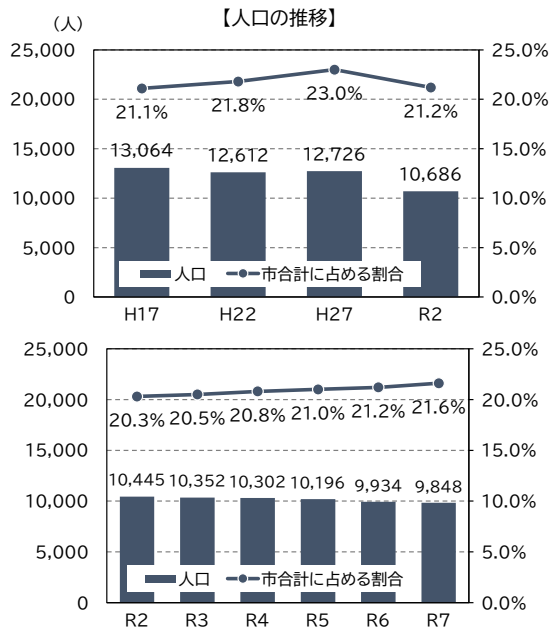
2-3 矢田郷地域

矢田郷地域は、中心市街地の南部に位置し、七尾城跡のある地域南部の城山の麓に広がっています。9地域の中で最も人口規模が大きい地域です。

①地域の現況

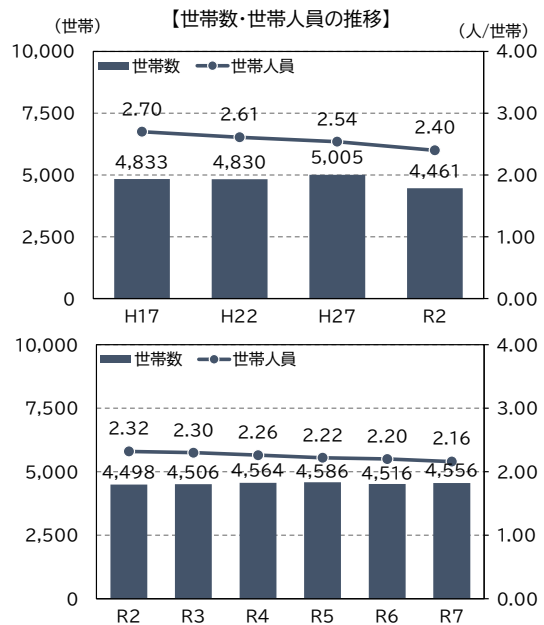
【都市構造・土地利用関連】

- ・国勢調査による令和2年までの人口、世帯数は、平成27年に一時増加したものの、減少傾向にあります。住民基本台帳の人口、世帯数をみると、令和2年以降も人口は減少していますが、世帯数は増加傾向にあります。
- ・高齢化率は、20～30%、30～40%の箇所が分布し、袖ヶ江地域や御祓地域の40%以上の箇所が多い中心市街地と比較すると高齢化率は低い傾向にあります。
- ・市街地内の国道159号、(主)七尾羽咋線の沿道には沿道サービス施設が多く立地しています。
- ・現在、(都)外環状線(藤橋バイパス)の整備が進められており、整備に伴い沿道の開発圧力の高まりが想定されます。
- ・市街地では面的な基盤整備は行われておらず、一団の農地が残存する地区があります。また、開発行為等による住宅の立地が進んでいます。



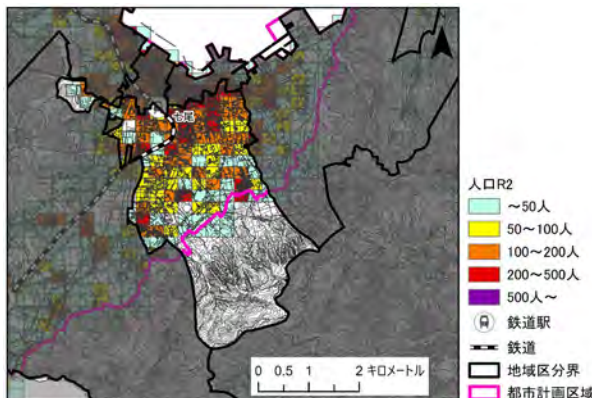
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 矢田郷地域の人口の推移



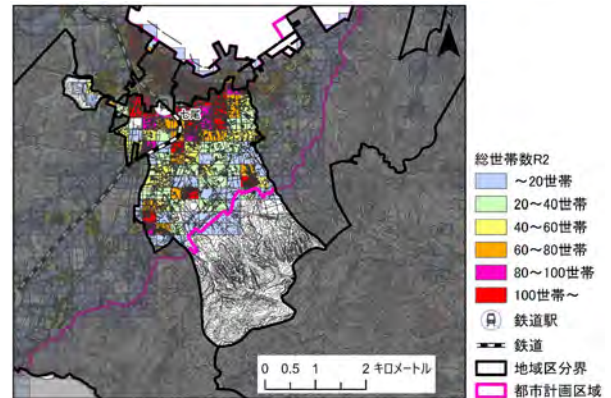
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 矢田郷地域の世帯数の推移



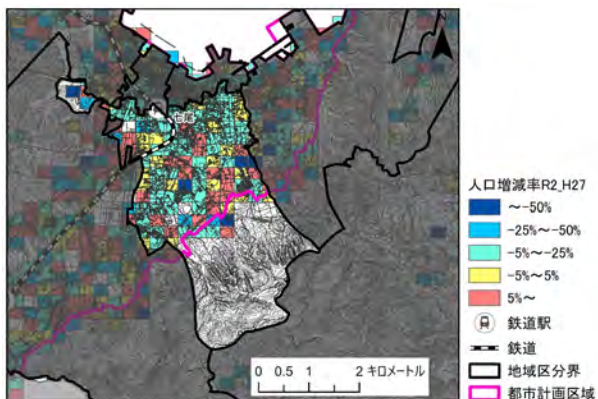
【資料：国勢調査 (250mメッシュ)】

図 人口分布(令和2年)



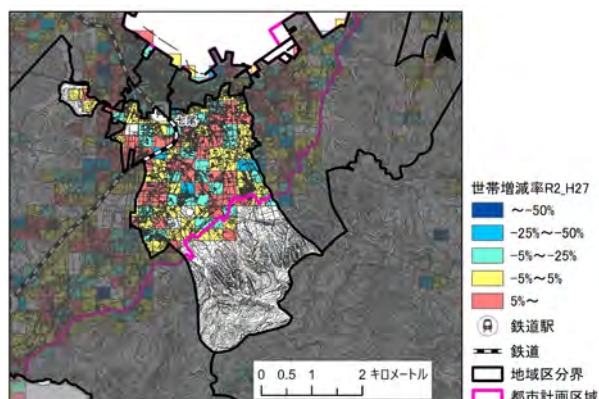
【資料：国勢調査 (250mメッシュ)】

図 世帯分布(令和2年)



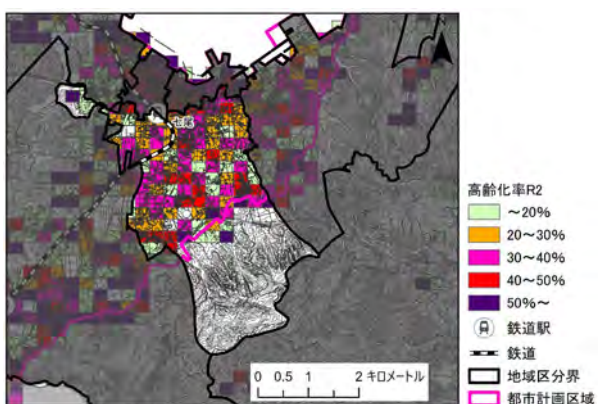
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口増減率(平成 27 年～令和2年)



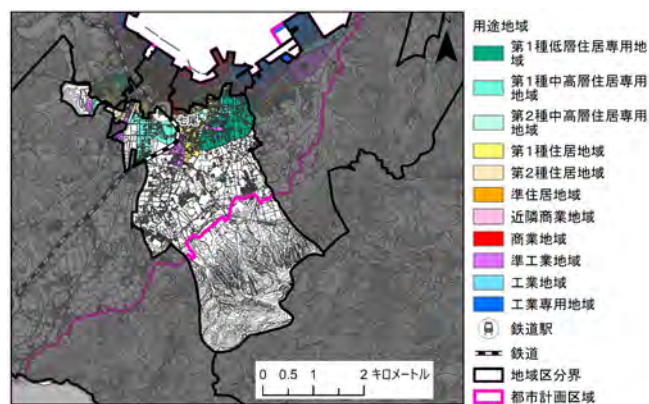
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯数増減(平成 27 年～令和2年)



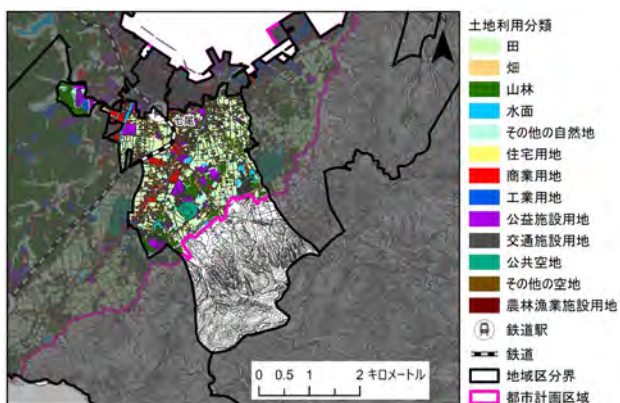
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 高齢化率(令和2年)



【資料：都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料：都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・南北に整備された国道 159 号、東西に整備が進められている(都)外環状線を中心とした幹線道路網が形成しています。(都)外環状線(藤橋バイパス)の整備が進められており、七尾港方面・東湊地域とのつながりが、さらに強化されます。
- ・都市計画道路等による幹線道路が未整備な状況にあり、既存集落やこれらの住宅地では、十分な幅員のある生活道路が不足しています。
- ・地域に隣接する七尾駅と連結するルートで七尾市によりバスが運行されています。また、路線バスが七尾駅と中能登町方面を結ぶルートで運行されています。

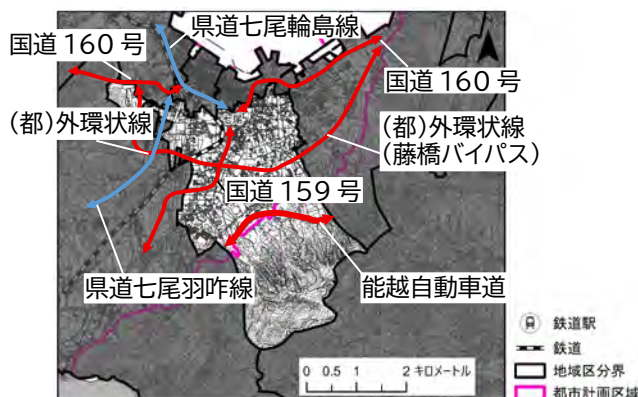
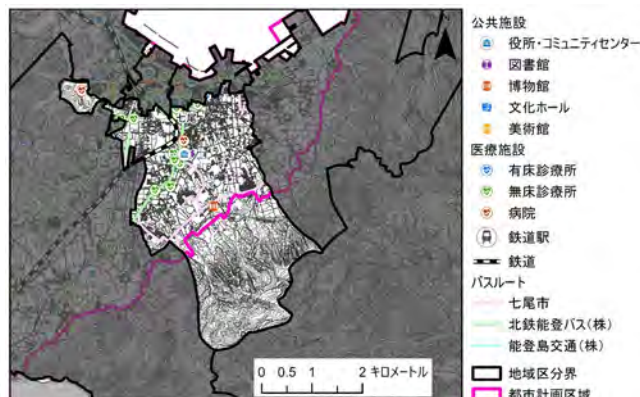


図 地域の幹線道路

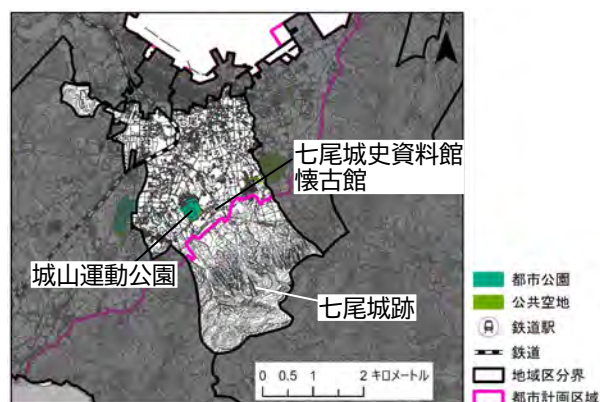


【資料：七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

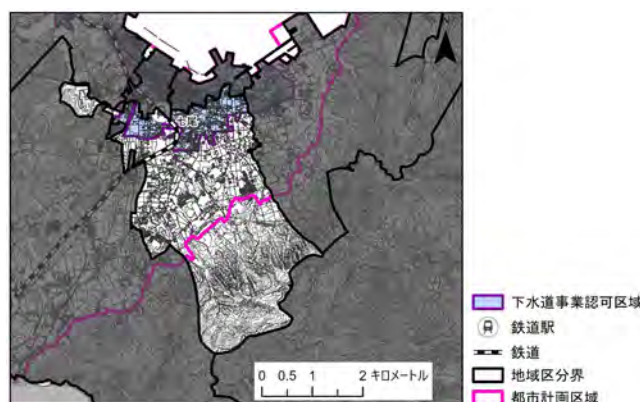
【環境】

- ・地域の中央部には城山運動公園があり、陸上競技場や野球場、体育館、プールが整備されています。
- ・城山には七尾城跡や城山展望台などの良好な眺望景観があり、その麓には七尾城史資料館や懐古館があります。また、その山頂と麓の間には戦国巨大山城の道が整備されており、市民や観光客の散策路として親しまれています。
- ・地域北部の一部が公共下水道の事業認可区域です。



【資料：都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

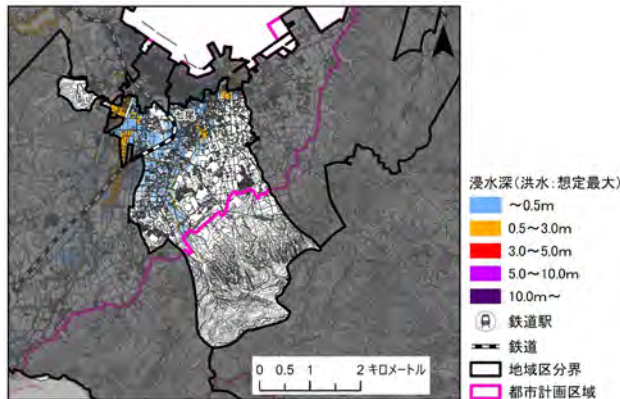


【資料：七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

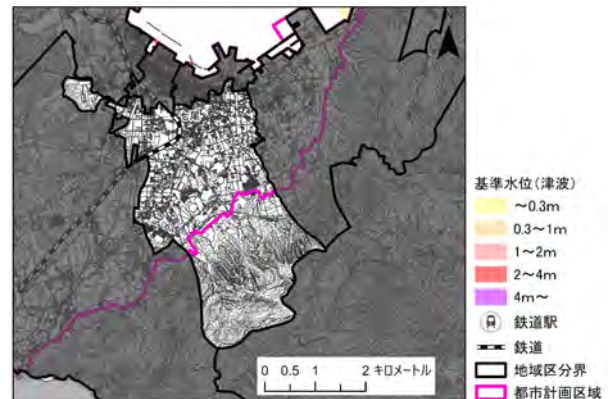
【防災】

- ・令和6年能登半島地震により、被災した住家の約17%が半壊以上の被害を受けました。
- ・また、公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みです。
- ・洪水による床下浸水相当の浸水深0.5m未満の浸水が地域北部で想定され、一部では床上浸水相当の浸水深0.5m以上の浸水が想定される場所もみられます。
- ・津波による浸水は現時点で想定されていません。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が中央部の都市計画区域境界周辺でみられます。
- ・地域北部の広い範囲がため池浸水想定区域になっています。



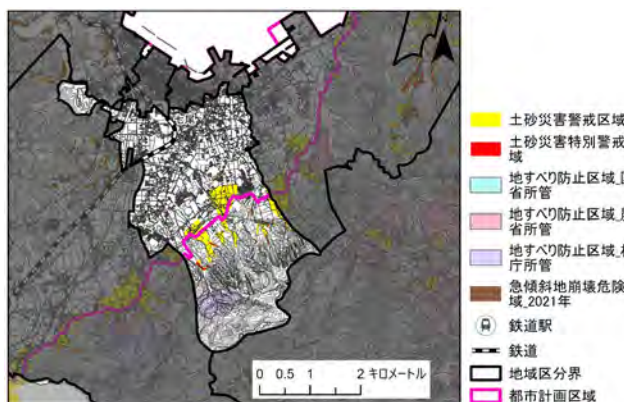
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



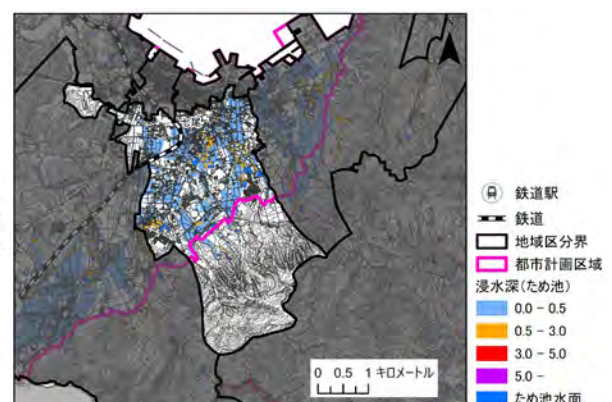
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

矢田郷地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】農地等の自然環境と調和した暮らしやすい市街地形成
【交通】国道159号、(都)外環状線を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実
【環境】城山、七尾城跡をはじめとする歴史的資源や恵まれたスポーツ施設の立地を活かした環境形成
【防災】想定される洪水による浸水や土砂災害への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの状況を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けた取り組みを進めていきます。
- ・復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保も重要です。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要です。公共施設や食料品店、病院などの生活する上で必要な施設の適正な配置を検討し、生活利便性の向上を目指します。
- ・地域通貨の導入など、他地区と連携した施策の検討を進めます。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要です。
- ・地域主体で「七尾城プロジェクト」や「YATAGOU ビレッジセカンド大学」の取り組みを進めており、地域の観光交流資源の活用や、首都圏などの関係人口の確保や企業との関わりを創出する取り組みについて検討しており、地域と連携して経済の活性化を図ります。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・将来の大規模な自然災害の備えとして、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保が重要な課題です。
- ・木造家屋の密集するエリアでは、住宅などの耐震化や改修を促進し、安全に住み続けられる居住環境を構築します。
- ・洪水や土砂災害などの危険性の高いエリアでは、震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組めます。

<交通 | 交通の考え方>

- ・七尾市および能登地域の交通の要衝であり、災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組めます。
- ・高齢者だけでなく若年層などの幅広い地域住民のニーズを踏まえ、地域の実情に合った公共交通サービスの充実を検討します。

④地域まちづくりの目標

矢田郷地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

七尾城跡の裾野に広がる田園景観と調和した快適で 安全・安心な居住環境を形成するまちづくり

城山、七尾城跡等の地域が誇る歴史資源を活かした観光交流を促進するまちづくりを進めます。また、七尾城跡の裾野に広がる田園をはじめとする農地等を保全するとともに、こうした自然環境と調和した住環境を形成するまちづくりを進めます。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・良好な田園環境やまちの骨格となる森林の保全などにより、コンパクトな市街地形成を図ります。田園環境地域では、無秩序な開発を抑制し、点在する既存集落の生活環境を保全します。
- ・国道 159 号、(都)外環状線、(主)七尾羽咋線の沿道では、生活サービス施設等の誘導により市民の日常生活の利便性向上、周辺環境との調和を図ります。
- ・市街地内の住宅地では、優良な新規開発の誘導や住民主体の地区計画の設定により、良好な住宅地の形成を図ります。

【交通】

- ・中能登地域内の広域的な交流を支え育むため、広域交流道路である能越自動車道 I C との連絡を強化します。
- ・市街地における円滑な交通処理を行うとともに、良好な市街化を誘導することで生活環境の向上を図る補助幹線道路を配置します。また、生活道路の確保により防災性・安全性の向上を図ります。
- ・既存の歩行者空間の不連続間の整備や安全施設の適切な配置により、主要な生活関連施設を結ぶ歩行者空間のネットワークを確保します。

【環境】

- ・城山、七尾城跡は、まちの個性となる水と緑の拠点であり、特色を活かした整備により、広域的な観光交流資源としてまちづくりに活用します。
- ・城山運動公園は、市民の健康やスポーツの拠点となっており、県と連携しながら、施設の維持・充実を促進します。
- ・街区公園等の身近な公園・緑地は、適正な管理を行うとともに、必要に応じて遊具の更新やバリアフリー化などにより質の向上を図ります。

【防災】

- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される洪水・津波による浸水を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。

【交通】

- ・市街地における円滑な交通処理
- ・生活環境の向上を図る補助幹線道路を配置
- ・生活道路の確保による防災性・安全性の向上
- ・既存の歩行者空間の不連続間の整備や安全施設の適切な配置

【環境】

- ・街区公園等の身近な公園・緑地は、適正な管理

【都市構造・土地利用】

- ・生活サービス施設等の誘導により市民の日常生活の利便性向上、周辺環境との調和

【環境】

- ・市民の健康やスポーツの拠点として城山運動公園における施設の維持・充実

地域全体

【都市構造・土地利用】

- ・良好な田園環境やまちの骨格となる森林の保全
- ・点在する既存集落の生活環境を保全

【交通】

- ・能越自動車道ICとの連絡を強化します。

【環境】

- ・身近な公園・緑地の質の向上

【防災】

- ・浸水、土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援

【環境】

- ・城山、七尾城跡は、特色を活かした整備により、広域的な観光交流資源としてまちづくりに活用

	みなと文化交流ゾーン		まちなかゾーン		田園環境保全ゾーン
	ゆけむり文化交流ゾーン		ゆとりの住宅地ゾーン		森林環境保全ゾーン
	商業・業務ゾーン		複合市街地ゾーン		公園・緑地（近隣公園以上）
	沿道サービスゾーン		工業・生産物流ゾーン		風致地区
	生活文化福祉ゾーン				行政区画

図 矢田郷地域まちづくり方針図

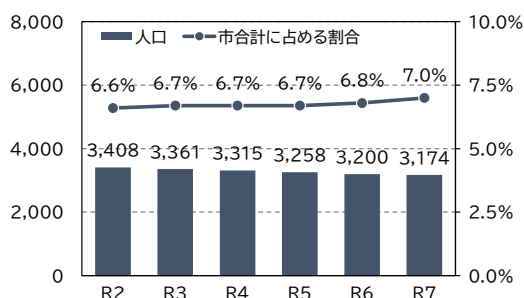
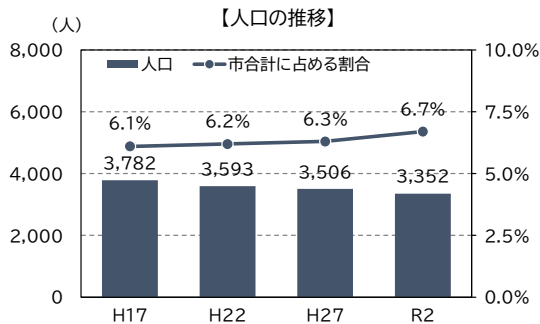
2-4 東湊地域

東湊地域は、都市計画区域の東部に位置し、地域北部は七尾港に面しています。また、地域南部には田園環境が広がっています。

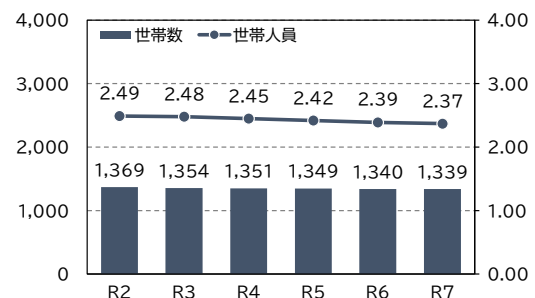
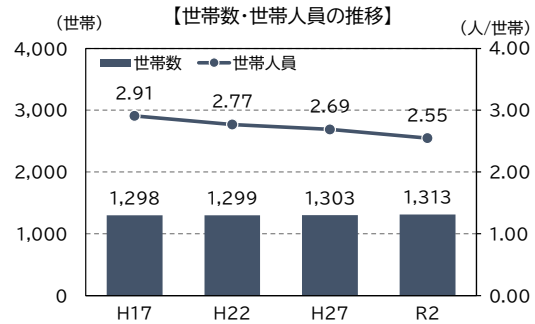
①地域の現況

【都市構造・土地利用関連】

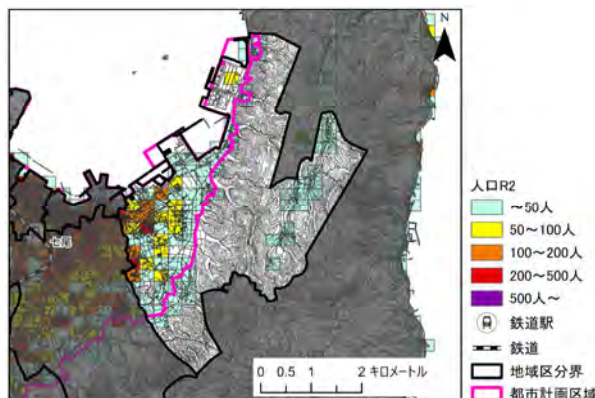
- ・国勢調査による令和2年までの人口は、減少が続いていますが、市全体を占める人口の割合は増加しています。また、世帯数は平成22年以降増加しています。住民基本台帳の人口、世帯数をみると、令和2年以降、減少しています。
- ・高齢化率は、地域北部の万行地区周辺で高齢率20%未満の箇所が見られるなど、高齢化率が低い傾向にある一方、地域南部については、高齢化30～40%の箇所が多い傾向にあります。
- ・大田地区には、公設地方卸売市場をはじめとした青果、水産物を扱う加工、物流業の作業場や倉庫などの生産物流機能が集積しています。また、その北東には七尾大田火力発電所が稼働しています。
- ・市街地は、万行地区で土地区画整理事業によって面的に基盤が整備され、新たな人口の受け皿となっています。
- ・市街地内の国道160号の沿道には商業、業務施設や住宅、工場など多様な土地利用が行われています。国道160号南側の工業系用途指定地区は、工業地と住宅地が混在した地区があり、都市基盤も未整備で一団の未利用地が残されています。



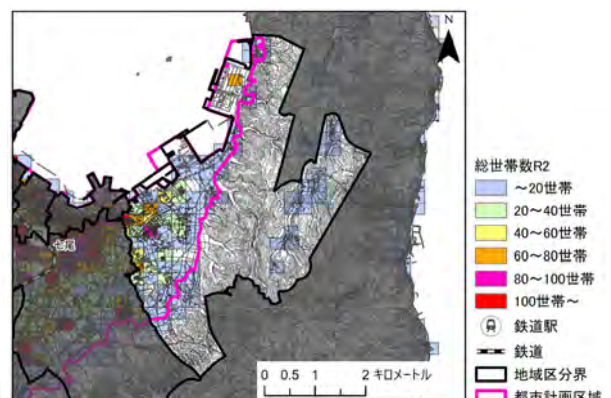
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】
図 東湊地域の人口の推移



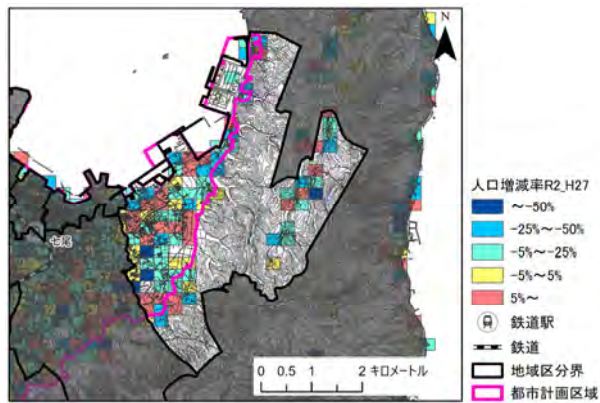
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】
図 東湊地域の世帯数の推移



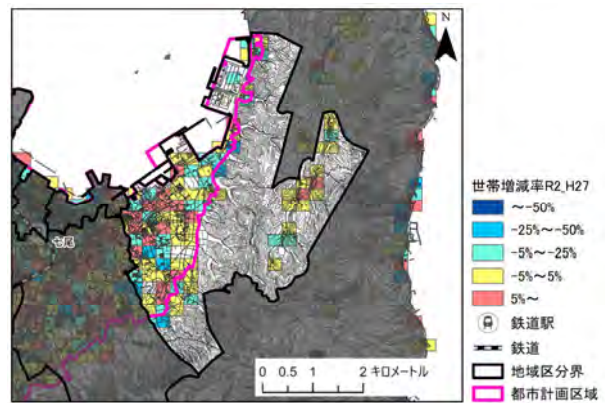
【資料：国勢調査 (250mメッシュ)】
図 人口分布(令和2年)



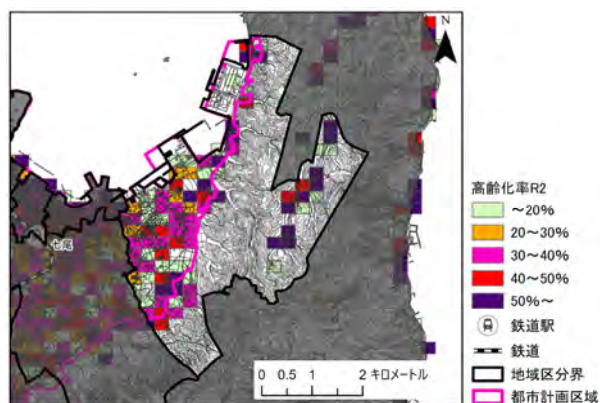
【資料：国勢調査 (250mメッシュ)】
図 世帯分布(令和2年)



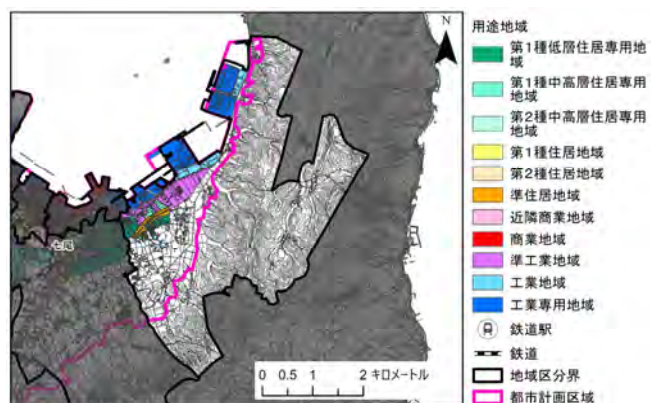
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】
図 人口増減率(平成 27 年～令和2年)



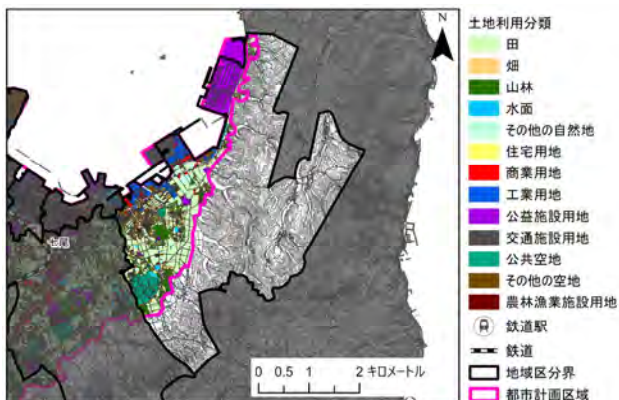
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】
図 世帯数増減(平成 27 年～令和2年)



【資料：国勢調査（250mメッシュ）】
図 高齢化率(令和2年)



【資料：都市計画基礎調査】
図 用途地域指定状況



【資料：都市計画基礎調査】
図 土地利用現況

【交通】

- ・東西に整備された国道 160 号や県道庵鷺浦大田新線等を中心とした幹線道路網が形成しています。さらに、(都)外環状線の整備が進められています。
- ・都市計画道路等による幹線道路が未整備な状況にあり、既存集落やこれらの住宅地では、十分な幅員のある生活道路が不足しています。
- ・市民サービス施設である七尾市文化ホールや小中学校に接続する歩行者空間が不十分な状況です。
- ・地域に隣接する七尾駅と連結するルートでバスが七尾市により運行されています。また、七尾駅と富山方面を結ぶ路線バスが運行されています。

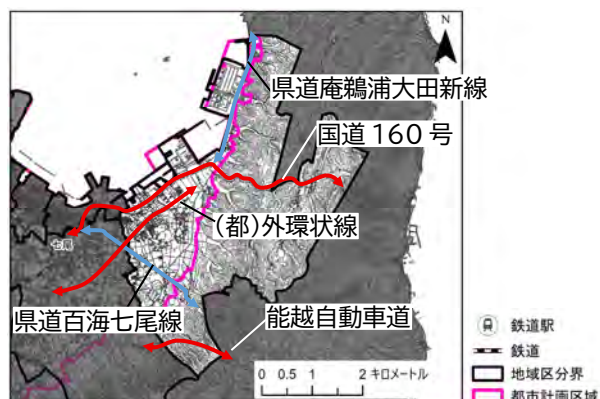


図 地域の幹線道路

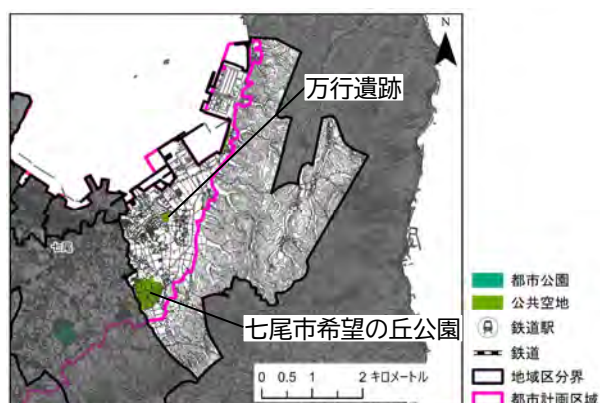


【資料：七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

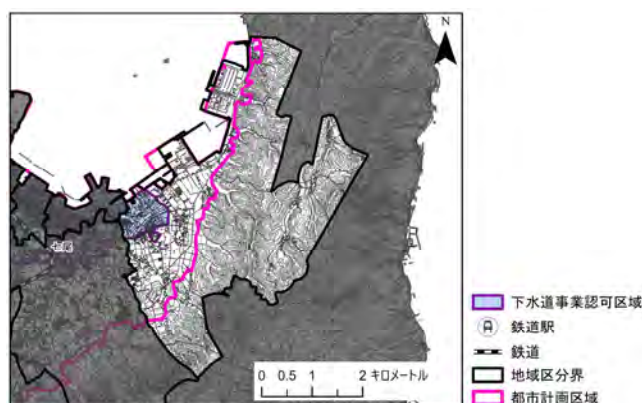
【環境】

- ・国指定史跡の万行遺跡は、七尾市の個性と魅力を伝える重要な歴史資源となっています。
- ・地域南部の七尾市希望の丘公園は、市民の休息、遊戯、運動など場として利用されています。
- ・都市計画区域外に位置する上沢野、栢戸等の集落は、公共交通の利用が困難な公共交通空白地域（バス停から 500m 以上離れた地域）になっています。
- ・地域北西部の一部が公共下水道の事業認可区域となっています。



【資料：都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

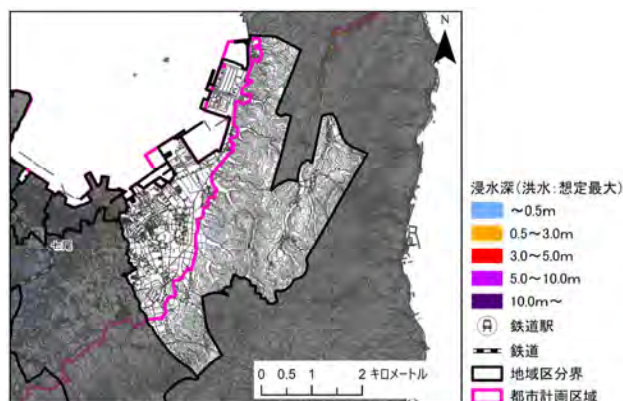


【資料：七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

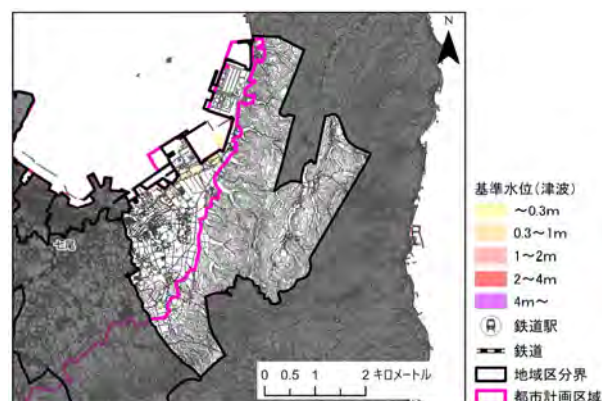
【防災】

- ・令和6年能登半島地震により、被災した住家の約21%が半壊以上の被害を受けました。
- ・また、公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みです。
- ・洪水による浸水は現時点で想定されていません。
- ・七尾港に隣接する地域の一部で津波による浸水が想定されています。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が都市計画区域境界周辺や東部の山間部においてみられます。
- ・地域西部の都市計画区域内でため池浸水想定区域がみられます。



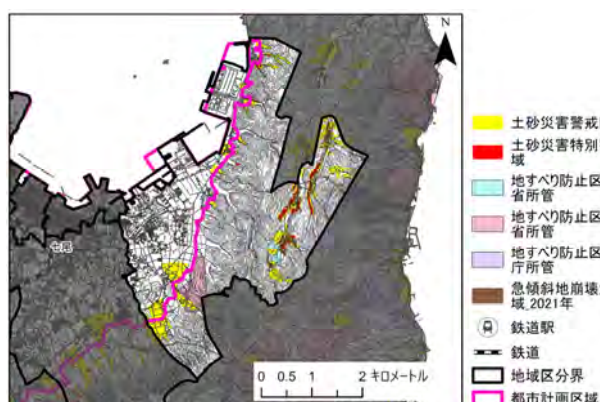
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



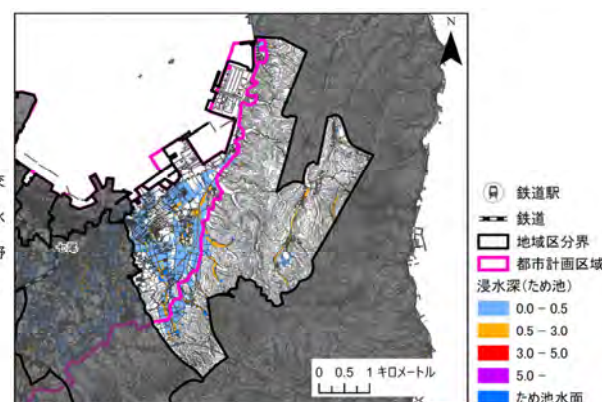
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

東湊地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】 中心市街地に隣接する便利な市街地形成と自然環境と農地等と調和した集落地形成

【交通】 国道160号、県道庵鶴浦大田新線等を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実

【環境】 希望の丘公園や万行遺跡等の歴史や緑を活かした環境形成

【防災】 想定される津波による浸水や土砂災害への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの現状を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組めます。特に復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保が重要です。
- ・さらに、今後増えることが想定される空き家・空き地などを有効に活用し、七尾市におけるまちなか居住を促進する住宅地形成に取り組めます。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要です。公共施設や食料品店、病院などの生活する上で必要な施設の適正な配置を検討し、移動販売や買い物支援サービスの充実など時代のニーズに合った生活利便性の確保を図ります。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧及び継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要です。
- ・大田町の埋立地などにおいては、石川県と連携しながら企業立地に向けた取り組みを行います。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・将来の大規模な自然災害の備えとして、迅速な避難所開設などの地域の初動体制強化や各避難所・集会施設の機能充実などを図るとともに、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保が重要な課題です。
- ・住宅などの耐震化や改修を促進し、安全に住み続けられる居住環境を構築します。土砂災害の危険性の高いエリアでは、震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組めます。

<交通 | 交通の考え方>

- ・災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組めます。
- ・バス停から離れた地域における住民の移動手段の確保に向けた地域乗合交通の導入検討など、地域の実情に合った公共交通サービスを検討します。

④地域まちづくりの目標

東湊地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

物流を中心とする産業と住環境が共生する活力のあるまちづくり

七尾湾沿岸に物流機能をはじめとする産業集積が進む一方、中心市街地に隣接しています。こうした地域の立地特性を活かした産業集積の維持・充実と合わせて道路・公園整備等による良好な住環境形成を進め、産業と住環境が共生する活力のあるまちづくりを進めます。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・工業・生産物流ゾーンでは、港湾を活かした工業・生産物流機能の増進を図るとともに、低未利用地を活用し、工業・生産物流機能と連携した土地利用を図ります。
- ・土地区画整理事業が施行された地区での良好な市街化の促進、良好な田園環境やまちの背景となる森林の保全などにより、コンパクトな市街地形成を図ります。
- ・無秩序な開発を抑制し、点在する既存集落の生活環境を保全します。
- ・国道160号や整備が進められている(都)外環状線の沿道では、生活サービス施設等の誘導により市民の日常生活の利便性向上、周辺環境との調和を図ります。
- ・工場と住宅地が混在する地区では、住民主体の地区計画の導入等により住宅を基本とした土地利用への純化を図ります。
- ・七尾港における埋立地の有効な土地利用を図るため、石川県と連携した企業誘致を促進します。

【交通】

- ・工業・生産物流機能の向上を図るため、広域交流道路である能越自動車道ICとの連絡を強化します。
- ・生活環境の改善に向けて、補助幹線道路、生活道路を整備します。
- ・既存の歩行者空間の不連続間の整備や安全施設の適切な配置により、主要な生活関連施設を結ぶ歩行者空間のネットワークを確保します。
- ・公共交通サービスや買い物支援などにより、高齢者等の生活利便性確保を図ります。
- ・地域乗合交通の導入検討など、地域の実情に合った公共交通サービスの導入に向けた地域の取り組みを支援します。

【環境】

- ・貴重な歴史遺産である国指定の万行遺跡をまちづくりに活用します。
- ・安全で安心のある生活環境づくりとして、沿岸部の安全性の向上を図ります。
- ・希望の丘公園の更なる魅力化に向けた取り組みを推進します。

【防災】

- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される津波による浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。

地域全体

【交通】

- ・能越自動車道ICとの連絡強化
- ・主要な生活関連施設を結ぶ歩行者空間ネットワークの確保
- ・公共交通サービスや買い物支援などによる生活利便性の確保
- ・公共交通サービスの導入に向けた地域の取り組み支援

【環境】

- ・身近な公園・緑地の質の向上
- ・街区公園等の身近な公園・緑地は、適正な管理

【防災】

- ・浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援

【都市構造・土地利用関連】

- ・港湾を活かした工業・生産物流機能の増進
- ・低未利用地を活用
- ・石川県と連携した企業誘致(大田地区)

【都市構造・土地利用関連】

- ・良好な市街化の促進(万行地区)

【都市構造・土地利用関連】

- ・生活サービス施設等の誘導

【環境】

- ・七尾市希望の丘公園の更なる魅力化

【都市構造・土地利用関連】

- ・住民主体の地区計画の導入等による住宅基本の土地利用への純化

【環境】

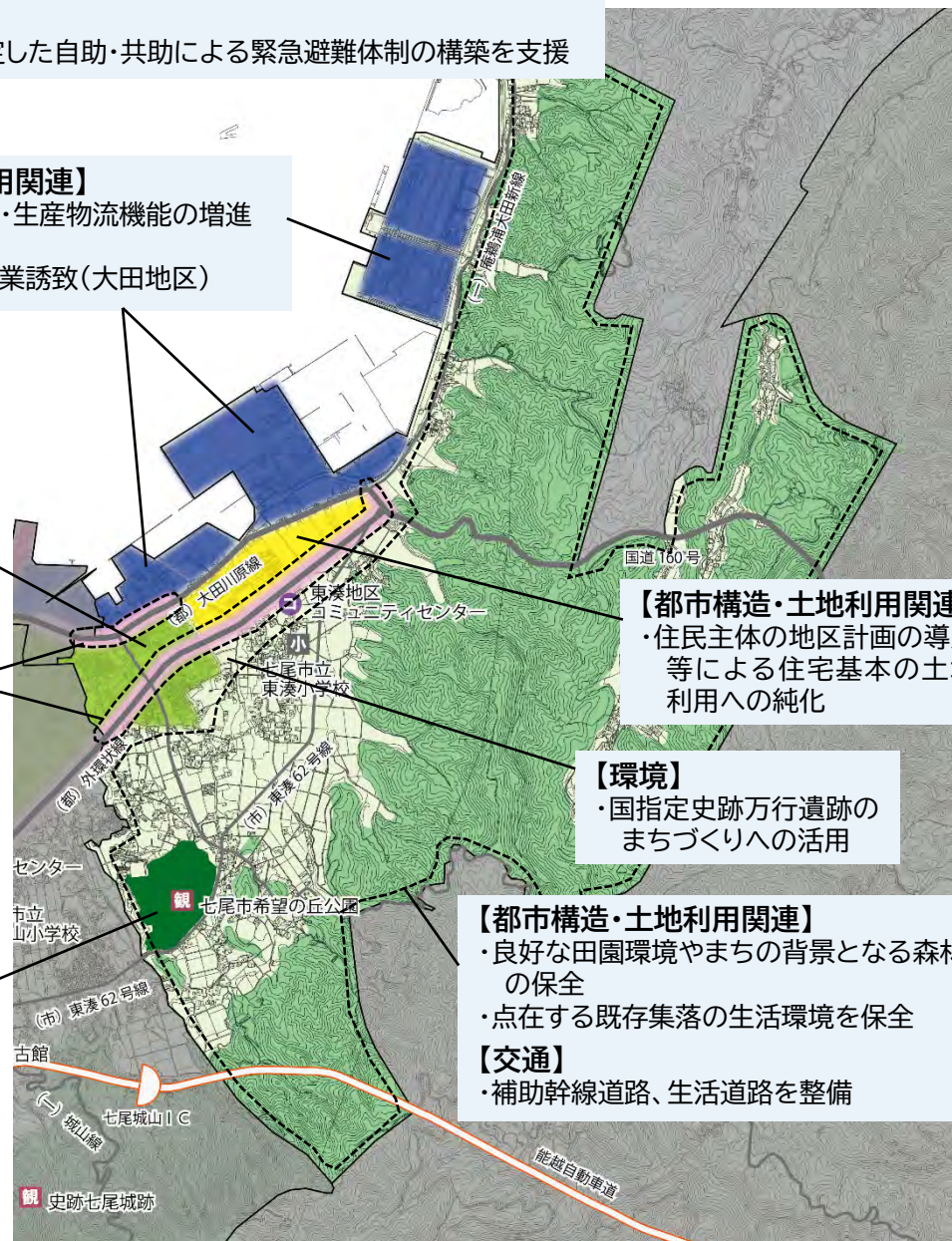
- ・国指定史跡万行遺跡のまちづくりへの活用

【都市構造・土地利用関連】

- ・良好な田園環境やまちの背景となる森林の保全
- ・点在する既存集落の生活環境を保全

【交通】

- ・補助幹線道路、生活道路を整備



みなと文化交流ゾーン	まちなかゾーン	田園環境保全ゾーン
ゆけむり文化交流ゾーン	ゆとりの住宅地ゾーン	森林環境保全ゾーン
商業・業務ゾーン	複合市街地ゾーン	公園・緑地(近隣公園以上)
沿道サービスゾーン	工業・生産物流ゾーン	風致地区
生活文化福祉ゾーン		行政区域

図 東湊地域まちづくり方針図

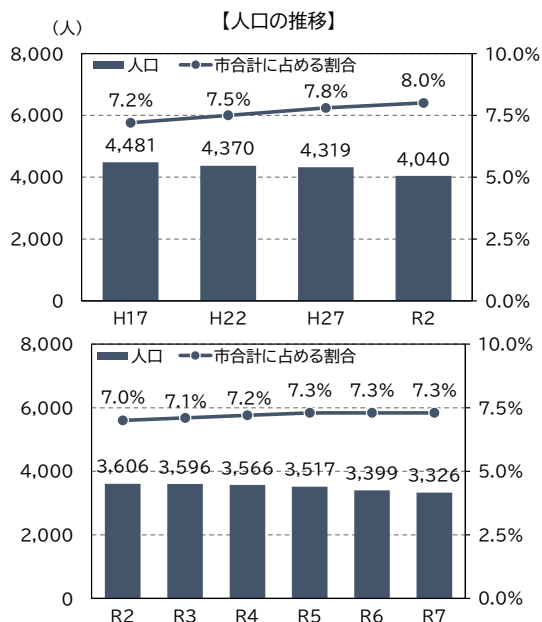
2-5 西湊地域

西湊地域は都市計画区域の北西に位置し、北側は七尾南湾に接しており、地域の中央には赤浦潟があります。

①地域の現況

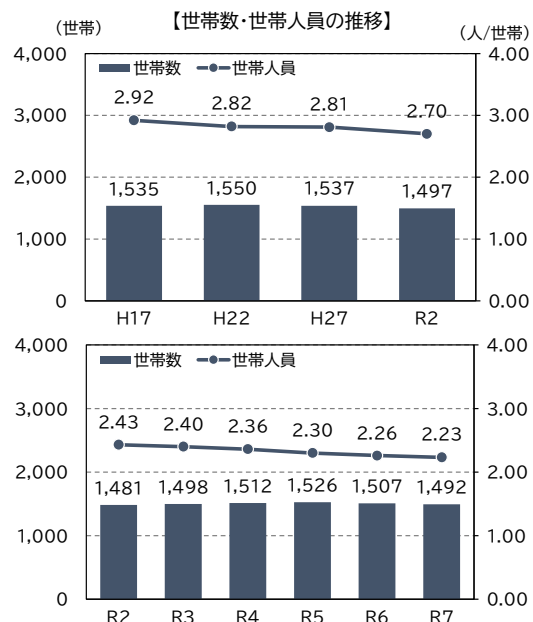
【都市構造・土地利用関連】

- ・国勢調査による令和2年までの人口、世帯数は、減少しています。住民基本台帳の人口、世帯数をみると、令和2年以降も人口は減少していますが、世帯数は令和2年から令和5年まで増加し、その後減少に転じています。
- ・高齢化率は、地域東部では海側で高齢化率が高くなる傾向があります。地域西部では高齢化率40%以上の箇所が大半となっており、特に赤浦潟周辺は高齢化率50%以上となっています。
- ・地域東部の御祓地域に隣接した地域に人口が集積しています。
- ・公立能登総合病院や石川県七尾美術館、総合体育館・武道場等の公共公益施設が地域東部に多く立地しています。



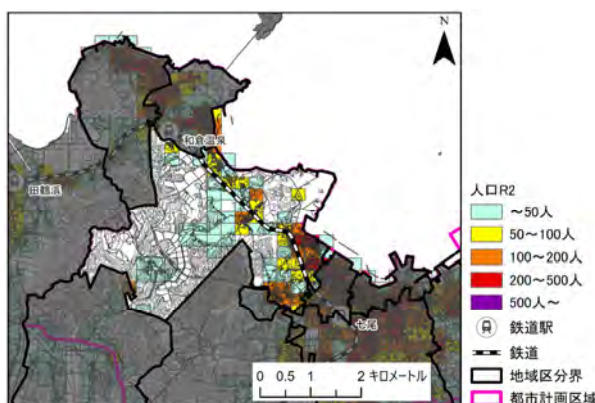
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 西湊地域の人口の推移



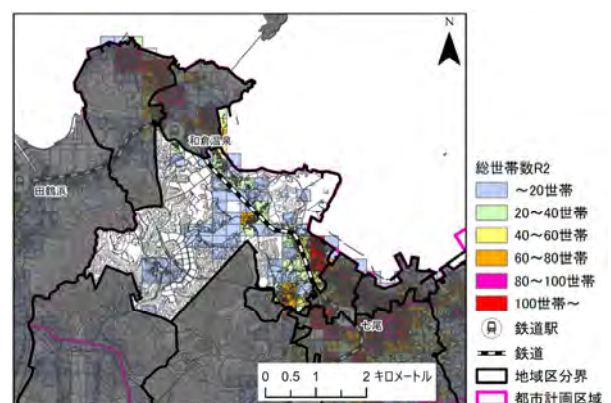
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 西湊地域の世帯数の推移



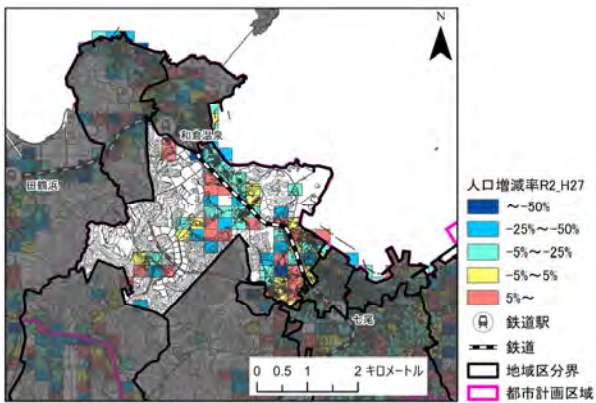
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口分布（令和2年）



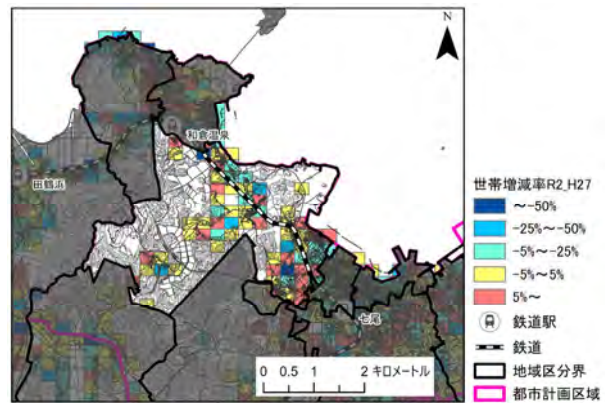
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯分布（令和2年）



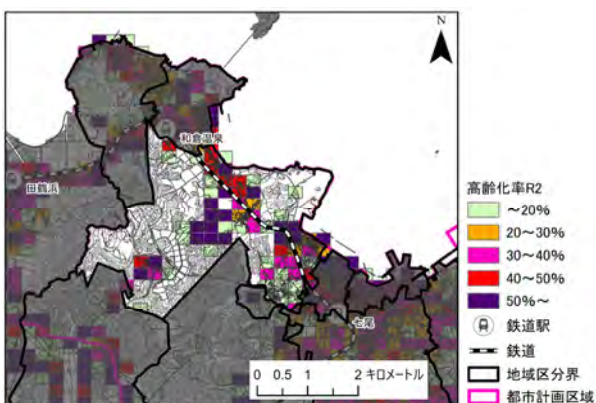
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口増減率(平成 27 年～令和2年)



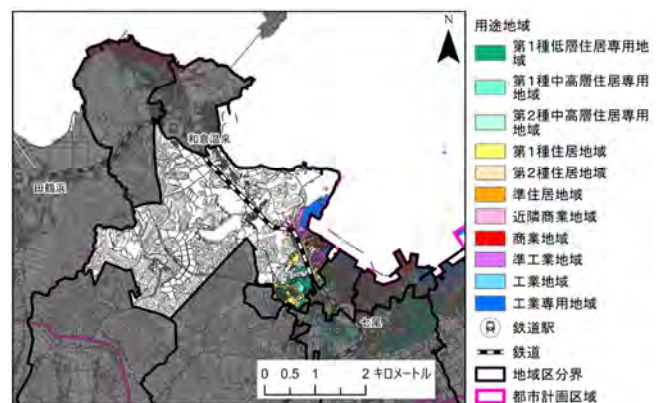
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯数増減(平成 27 年～令和2年)



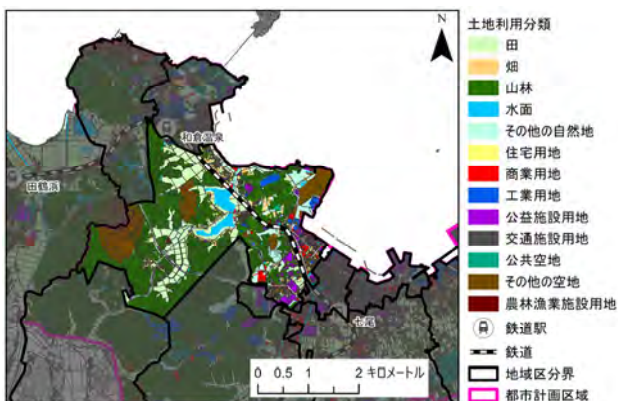
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 高齢化率(令和2年)



【資料：都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料：都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・国道 249 号、(主)七尾輪島線が地域を横断し、田鶴浜方面と七尾市街地を結んでおり、県道末吉七尾線が地域を縦断し、地域南部の直津 I C を結んでいます。
- ・地域東部には市街地の外郭となるとともに、国道 249 号と県道七尾輪島線を連絡する(都)外環状線が、整備される計画となっています。
- ・地域に隣接する七尾駅と連結するルートでバスが運行されています。地域東部については、バス路線が密に設定されています。

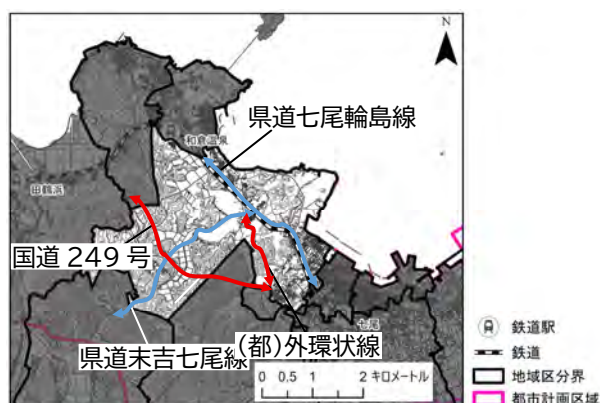
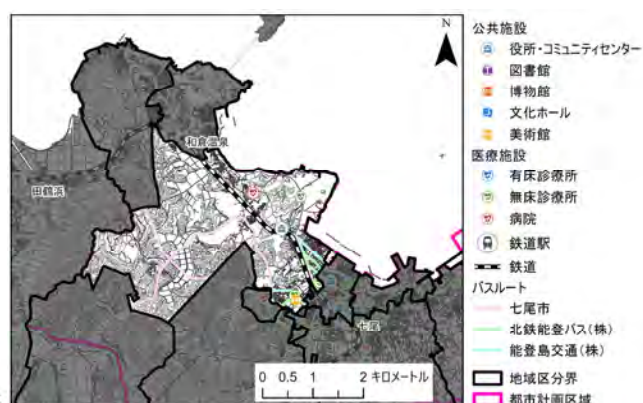


図 地域の幹線道路

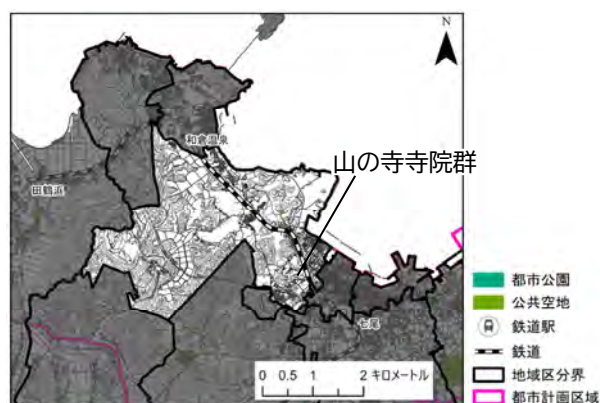


【資料：七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

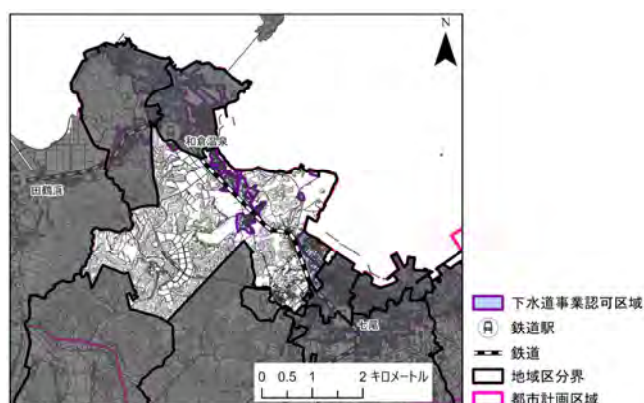
【環境】

- ・地域南東部には風致地区に指定されている「山の寺寺院群」があり、寺院間を結ぶ山道は「瞑想の道」と呼ばれ、観光散策コースになっています。
- ・赤浦潟は、観光レクリエーション拠点としての活用が期待されており、水質の改善が求められています。
- ・七尾港周辺や鉄道沿線の一部が公共下水道の事業認可区域です。



【資料：都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

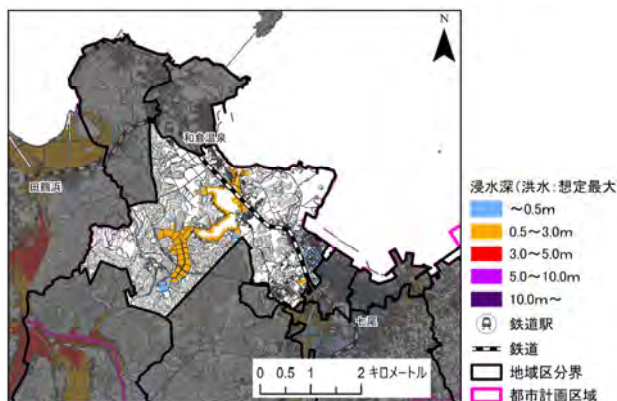


【資料：七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

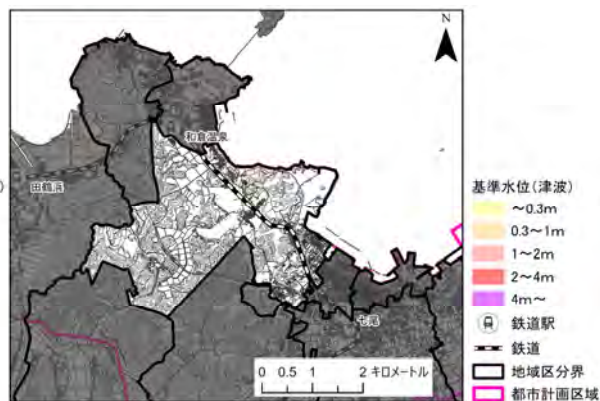
【防災】

- ・令和6年能登半島地震により、被災した住家の約33%が半壊以上の被害を受けました。
- ・また、道路や護岸などの被害が発生しています。さらに、山の寺院群・瞑想の道においても甚大な被害が発生しています。
- ・洪水による浸水は赤浦潟周辺で床上浸水相当の浸水深0.5m～3.0mの浸水が想定されています。
- ・七尾港および石崎港に隣接する地域の一部で津波による浸水が想定されています。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が赤浦潟周辺や山間部等においてみられます。
- ・地域の一部でため池浸水想定区域がみられます。



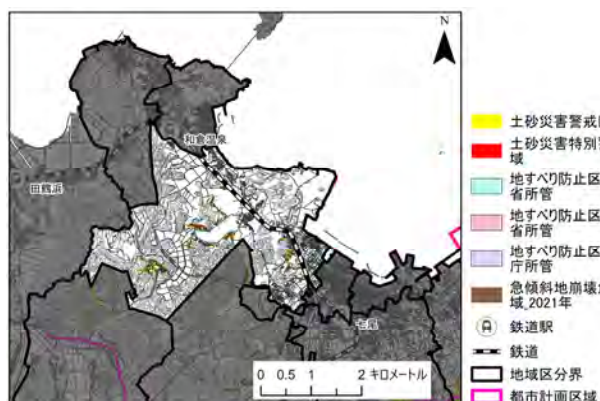
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



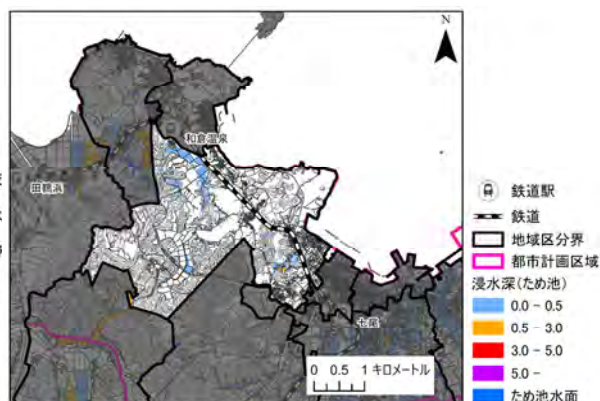
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

西湊地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】充実した公共公益施設の立地を活かした市街地形成と自然環境の保全
【交通】国道 249 号、県道七尾輪島線を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実
【環境】山の寺寺院群や赤浦潟等の自然・歴史的資源を活かした環境形成
【防災】想定される洪水や津波による浸水や土砂災害への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの現状を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組みます。本地区では、復興公営住宅の整備など生活再建に必要な住居の確保、耐震改修に取り組みます。
- ・今後、空き地・空き家の増加が見込まれることから、地域と行政で連携した空き家バンク制度の活用促進などを目指します。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるために、中心市街地に隣接する立地を活かしながら、一部集落におけるアクセス向上に努め、地区全体として生活利便性の確保を目指します。
- ・また、子どもが安心して遊べ、教育を受けられる環境整備に努め、移住・定住の促進を図ります。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が重要です。
- ・地区の観光資源を発信していくうえで、周辺の和倉地区や能登島地区との連携を検討します。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・地域の自助・共助を強化しながら、地域単位の安全・安心の確保を目指します。
- ・住まいの再建や耐震改修により防災性の向上を図り、地区全体としての防災力向上を実現します。

<交通 | 交通の考え方>

- ・運行時間や間隔など、適切な公共交通の運行について検討します。
- ・七尾とその周辺地区を結ぶ能越自動車道の整備など、主要な通行機能の確保に引き続き取り組みます。

④地域まちづくりの目標

- ・西湊地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

山の寺寺院群や赤浦潟の歴史・自然と調和した 良好な居住環境を形成するまちづくり

地域は山の寺寺院群等の歴史資源や赤浦潟等の豊かな自然環境を有し、美術館、体育館等の公共施設も集積しています。これら地域資源等の復旧・復興を進めつつ、こうした地域の立地特性を活かした住環境を形成するまちづくりを進めます。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・良好な田園環境やまちの背景となる森林の保全などにより、コンパクトな市街地形成を図ります。
- ・耕作放棄地の管理により営農環境の維持・向上を図るとともに、無秩序な開発を抑制し、点在する既存集落の生活環境を保全します。

【交通】

- ・都市間交流道路である(都)外環状線、地域間連携道路である(一)末吉七尾線の整備を促進し、地域の連携強化と安全性の向上を図ります。
- ・地域資源を活かした観光交流を促進するため、山の寺寺院群と美術館、まちなかを連携する歩行者空間ネットワークづくりを進めます。
- ・通学路の機能強化に向けて、狭あい道路の解消、安全施設の適切な配置を図るとともに、歩車分離による歩行者の安全確保を図ります。

【環境】

- ・特色ある自然と歴史環境を活かした豊かな生活環境の形成に向けて、赤浦潟の水質改善、土砂採取場の環境影響の低減、埋立地の居住環境の改善を図ります。
- ・山の寺周辺では、施設充実に向けた地域の取り組みを支援し、地域資源として保全・活用します。さらに、山の寺周辺や七尾湾に面する海岸部では、住民主体の景観ルールを設定を図ります。

【防災】

- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される洪水・津波による浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。

地域全体

【都市構造・土地利用関連】

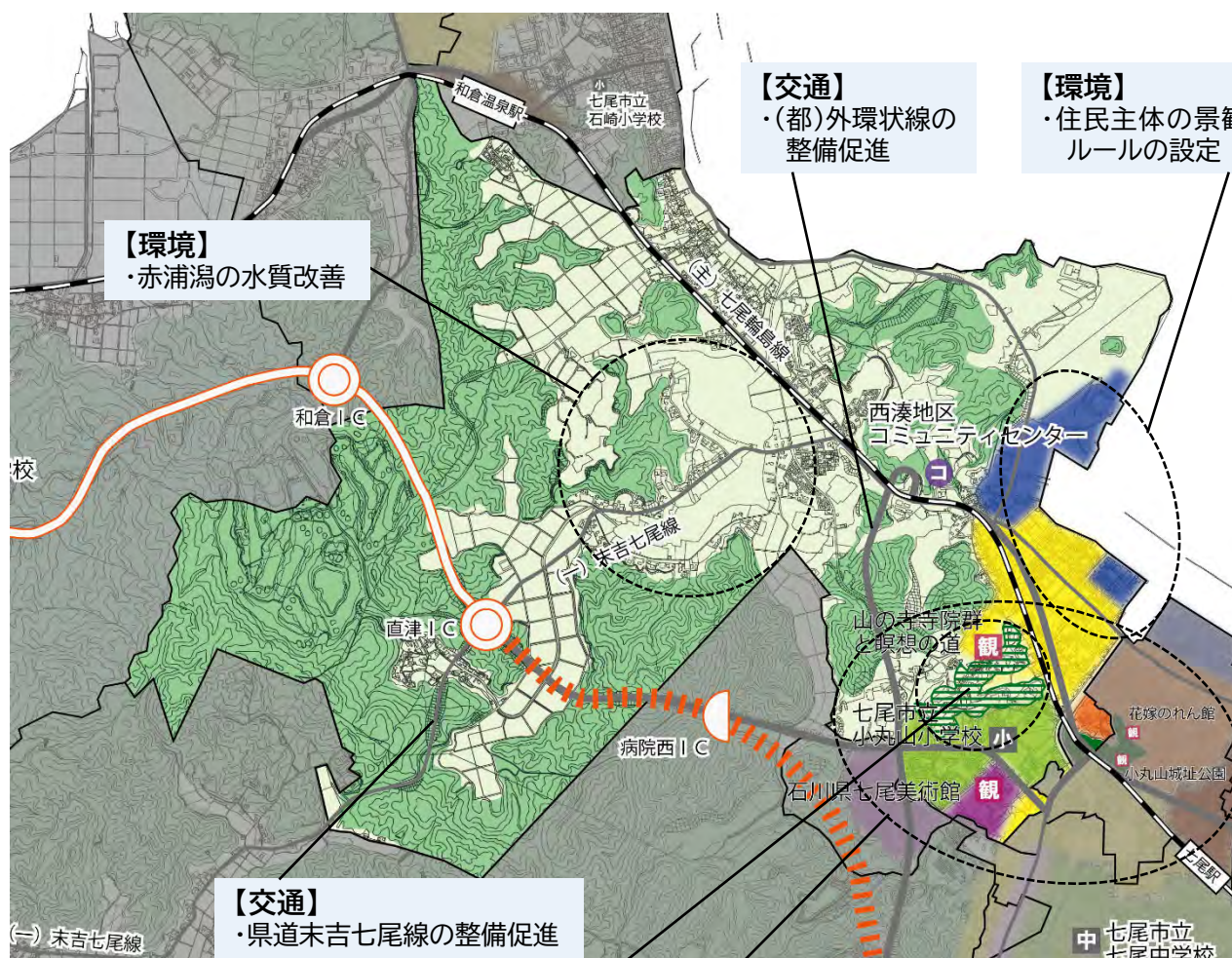
- ・良好な田園環境やまちの背景となる森林の保全
- ・耕作放棄地の管理による営農環境の維持・向上

【交通】

- ・狭あい道路の解消、安全施設の適切な配置

【防災】

- ・浸水を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援



【交通】

- ・(都)外環状線の整備促進

【環境】

- ・住民主体の景観ルールの設定

【環境】

- ・赤浦潟の水質改善

【交通】

- ・県道末吉七尾線の整備促進

【環境】

- ・施設充実に向けた地域の取り組み支援
- ・住民主体の景観ルールの設定

【交通】

- ・山の寺寺院群と美術館、まちなかを連携する歩行者空間ネットワークづくり

みなと文化交流ゾーン	まちなかゾーン	田園環境保全ゾーン
ゆけむり文化交流ゾーン	ゆとりの住宅地ゾーン	森林環境保全ゾーン
商業・業務ゾーン	複合市街地ゾーン	公園・緑地（近隣公園以上）
沿道サービスゾーン	工業・生産物流ゾーン	風致地区
生活文化福祉ゾーン		行政区域

図 地域まちづくり方針図

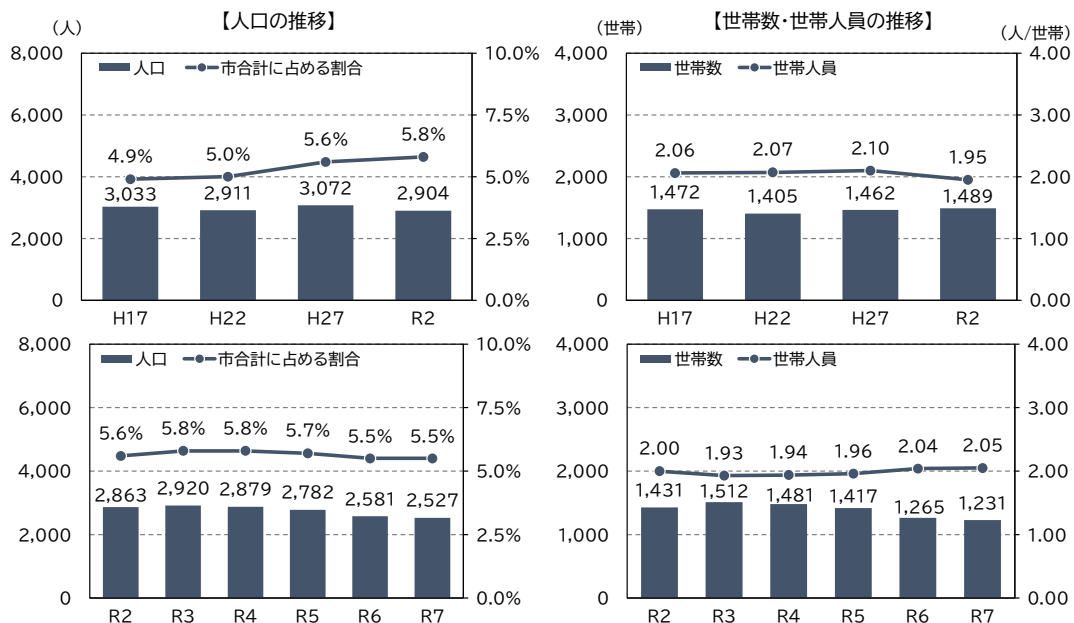
2-6 和倉地域

和倉地域は、都市計画区域の北西に位置し、北側は七尾南湾に接しています。地域北部の七尾湾に面して全国的に有名な和倉温泉街があります。

①地域の現況

【都市構造・土地利用関連】

- ・国勢調査による令和2年までの人口、世帯数は増減を繰り返しながら推移しており、直近の平成27年から令和2年にかけては減少しています。住民基本台帳の人口、世帯数をみると、令和2年から令和3年にかけて増加しましたが、その後は減少しています。
- ・高齢化率は、地域北東部の土地区画整理事業が施行された箇所では高齢化率20～30%となっているのに対して、和倉温泉街や鉄道沿線の地域では高齢化40%以上と高い傾向にあります。
- ・和倉温泉駅から和倉温泉街にかけて人口が集積しています。
- ・和倉温泉街は商業地域が指定され、宿泊施設や商業施設用地として土地利用が進んでいます。
- ・市街地には、面的に基盤整備された地区（土地区画整理事業等）に住宅地が形成されていますが、一部未利用地も残っています。

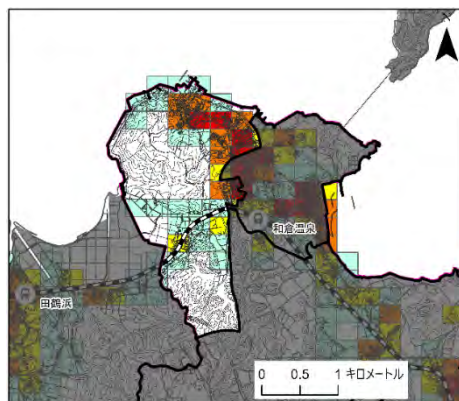


【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 和倉地域の人口の推移

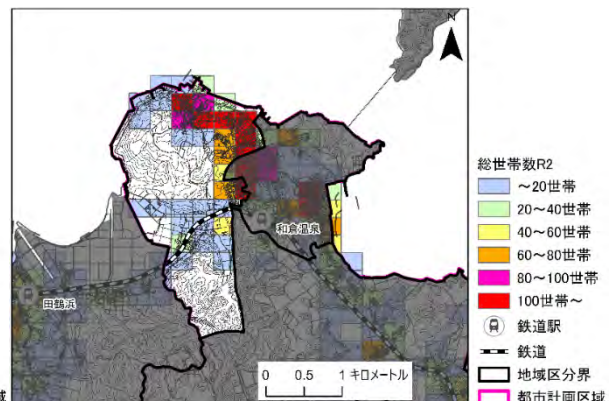
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 和倉地域の世帯数の推移



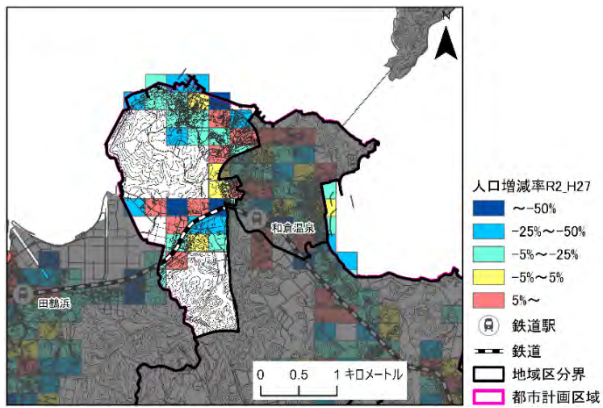
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口分布(令和2年)



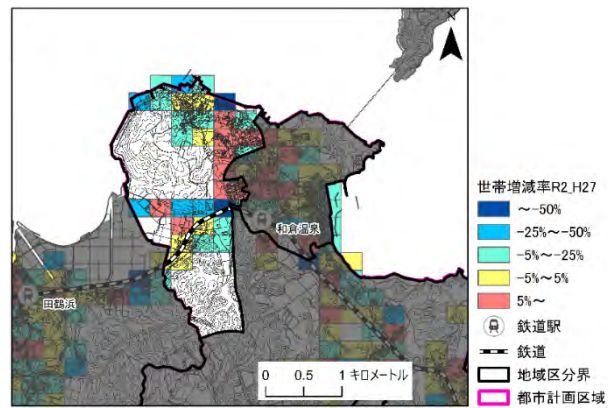
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯分布(令和2年)



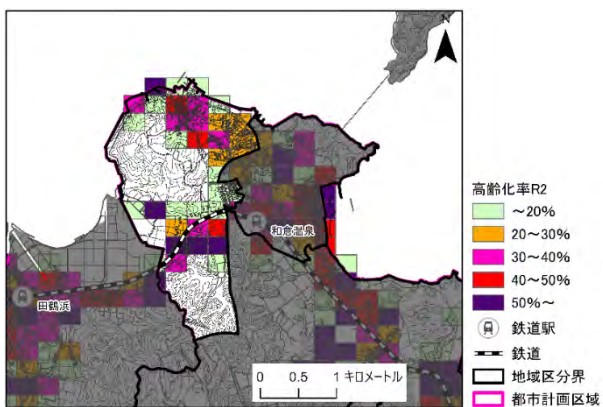
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口増減率(平成 27 年～令和2年)



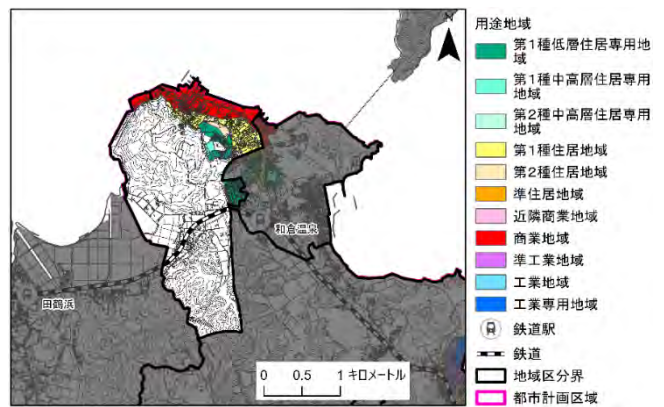
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯数増減(平成 27 年～令和2年)



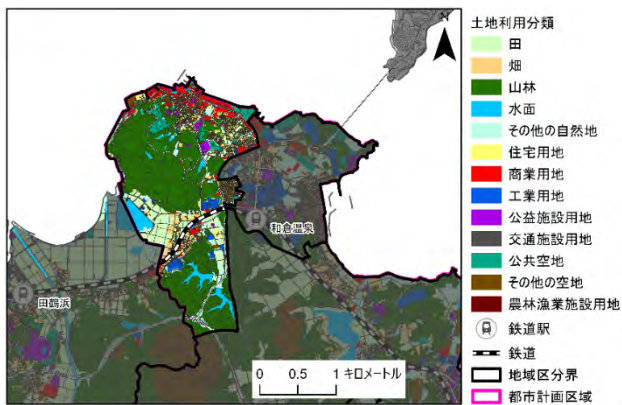
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 高齢化率(令和2年)



【資料：都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料：都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・ 県道七尾輪島線が地域を横断し、田鶴浜方面と七尾市街地を結んでおり、県道七尾能登島公園線が地域を縦断し、地域南部の和倉 I C と和倉市街地を結んでいます。また、県道七尾能登島公園線は、能登島大橋によって、和倉地域と能登島を結んでいます。
- ・ 和倉温泉駅を中心にバス路線が設定されています。鉄道に沿う形で、バス交通により周辺市街地との連絡が図られています。

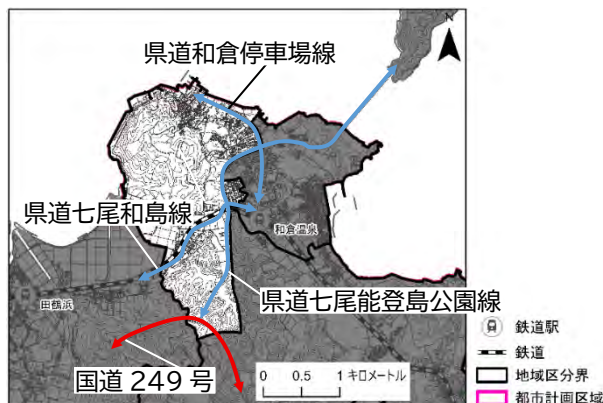
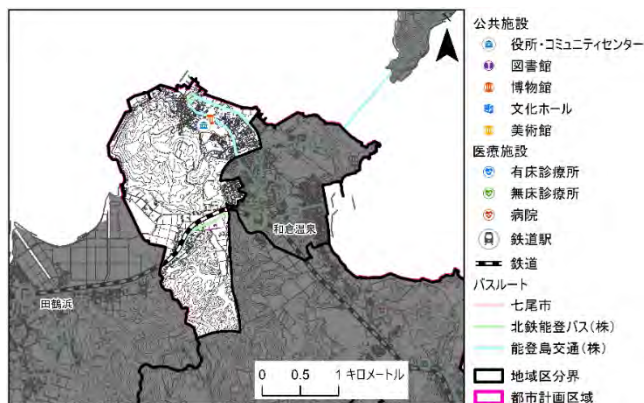


図 地域の幹線道路

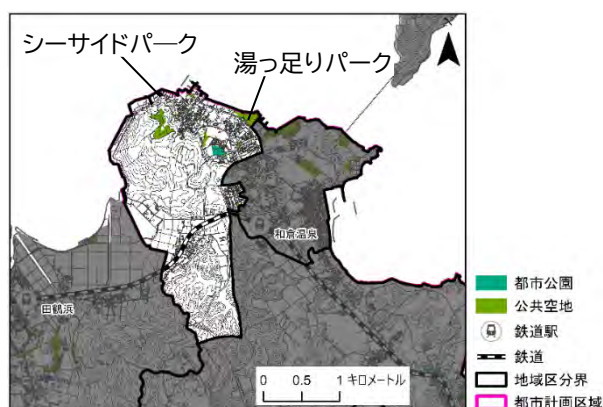


【資料：七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

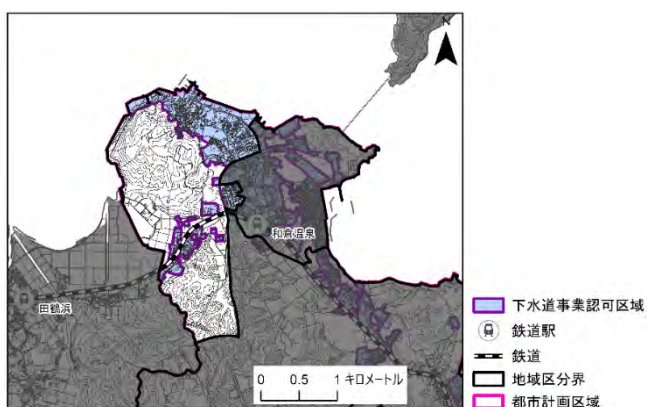
【環境】

- ・ 七尾市を代表する観光地である和倉温泉があり、新型コロナウイルス感染症の流行以前は年間 80 万人以上が訪れていましたが、令和 2 年に大きく減少した後、回復傾向にあります。令和 5 年時点では約 60 万人となっています。
- ・ 景観協定によるまちなみの形成などにより賑わいの再生が進められています。
- ・ 和倉温泉街では湯っ足りパーク等の公園が七尾湾に面して整備されています。また、閉園した和倉温泉シーサイドパーク跡も海に面して立地しています。
- ・ 温泉街の背後の森林は、能登半島国定公園に指定されています。
- ・ 和倉温泉街及びその周辺や鉄道沿線の一部が公共下水道の事業認可区域です。



【資料：都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

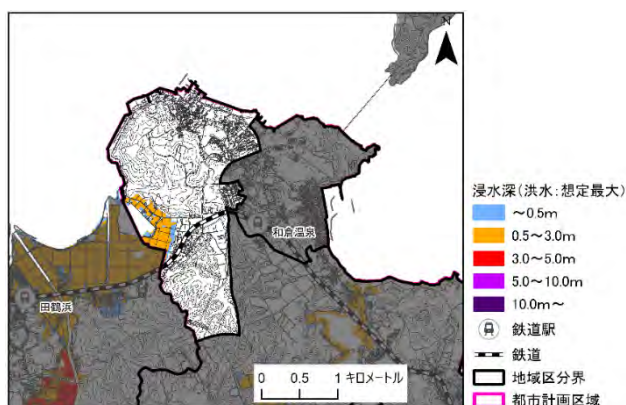


【資料：七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

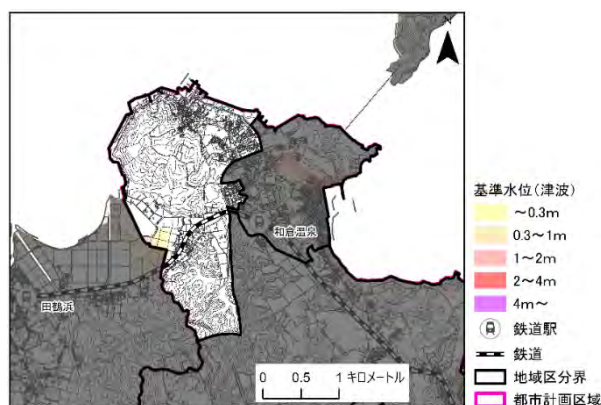
【防災】

- ・令和6年能登半島地震により、被災した住家の約24%が半壊以上の被害を受けました。
- ・また、上下水道や道路、護岸などの被害が発生しています。
- ・奥原町を中心に液状化現象が発生し、建物が沈下するなど様々な被害が発生しています。
- ・洪水による浸水は奥原町周辺で床上浸水相当の浸水深0.5m～3.0mの浸水が想定されています。
- ・奥原町周辺において、津波による浸水が想定されています。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が和倉温泉街に隣接した箇所や鉄道沿線等においてみられます。
- ・鉄道周辺の農地や和倉温泉街等でため池浸水想定区域がみられます。



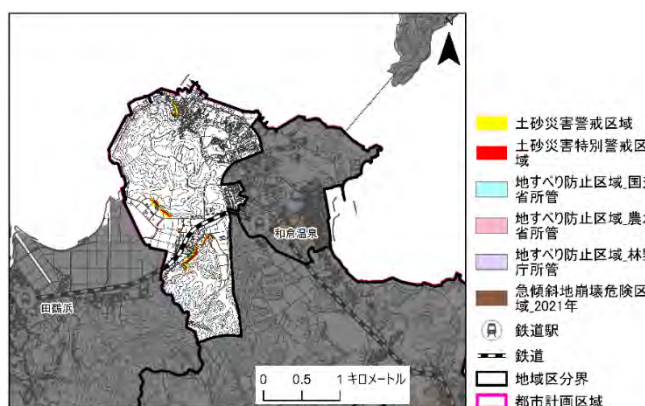
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



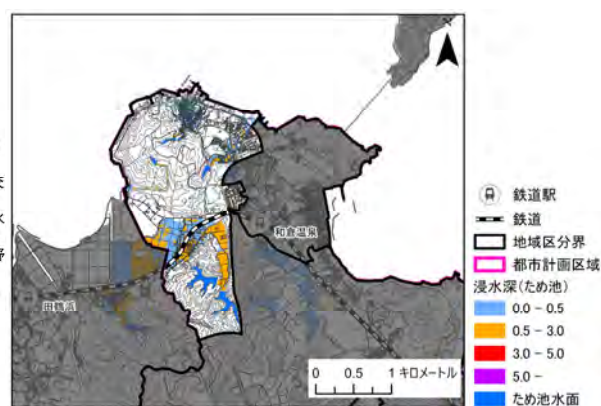
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

和倉地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】和倉温泉街復興と魅力的で暮らしやすい市街地形成

【交通】県道七尾輪島線、県道七尾能登島公園線、県道と倉和倉停車場線を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実

【環境】海に面した立地を活かした市民や観光客が楽しめる環境形成

【防災】想定される洪水や津波による浸水や土砂災害への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、生活の再建に向けた住まいの確保、心のケアなどに取り組みます。
- ・復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援・耐震改修など生活再建に必要な住居の確保も重要です。今後は、建物の解体が進み空き家が増えることが見込まれるため、空き地の一時利用といった低未利用地の活用推進に努めます。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、生活利便性の向上が必要です。観光客だけが利用するのではなく、店舗併用型住宅など地域住民の日常生活と観光業を共存させることが求められます。復興まちづくりにおいては、住みたくなるまちなかの機能誘導・拠点施設の整備に取り組み、子育て施設の確保や域外からの移住支援など、多世代が住みやすい地区の実現を目指します。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた雇用機会の創出および支援が必要です。特に、七尾市や奥能登のハブとして機能してきた旅館業の復興が急務です。観光施設などの早期復旧や機能強化により、地域の要である観光業のいち早い復興を目指し、七尾全体の活性化を目指します。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・地域(旅館など)と行政が連携して、安全なまちづくりの考え方を整理する必要があります。避難動線の確保や備蓄品の整備、どのように避難経路や避難所運営を想定するかといった多岐にわたる検討が必要です。県や市の防災計画の整備と地域や事業者が緊密に連携を図り、震災の経験を継承し発信しながら、地区の防災力向上を目指します。

<交通 | 交通の考え方>

- ・災害発生時の物資輸送機能の維持および緊急時の道路ネットワークの強化などのため、土砂災害に対する被害抑制など幹線道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に、国や県と連携し取り組みます。また、日常時には地区内の生活利便性を向上させる移動手段の確保に努めます。

④地域まちづくりの目標

和倉地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

温泉街の再生から広がる、にぎわいと暮らしやすさを両立するまちづくり

和倉温泉街の復興を進めることで地域全体の魅力を向上します。さらに、観光客に限らず、地域住民が利用できる公園整備や歩行者等の回遊性向上、公共交通の充実等により良好な住環境を形成するまちづくりを進めます。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・和倉温泉を中心としたゆけむり文化交流ゾーンでは、現在進んでいる復興事業と連携して、温泉を活かした賑わいづくりを進めるための魅力ある商業地の形成を図ります。
- ・土地区画整理事業による基盤整備が施行された地区での良好な市街化の促進、良好な田園環境やまちの背景となる森林の保全などにより、コンパクトな市街地形成を図ります。
- ・奥原では、既存のコミュニティを活用して生活環境の改善を図ります。

【交通】

- ・ゆけむり文化交流ゾーンにおける賑わいを再生するため、快適で魅力的な回遊性のある歩行者空間の充実を図ります。
- ・(都)湯元和倉温泉駅線は、景観にも配慮したシンボル軸として、無電柱化を促進します。
- ・既存ストックを活用したまちづくりとして、公園間を結ぶ道路整備により公園の連携強化と利用促進を図ります。

【環境】

- ・和倉温泉の快適性や魅力を向上させるため、湯っ足りパークやシーサイドパークの整備を図ります。
- ・公共下水道の整備により、排水環境の向上を図ります。

【防災】

- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される洪水・津波による浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。
- ・安全で安心な生活環境づくりとして、通学路やバス路線の確保を促進するとともに、地域ルールの設定・運用により防災道路を確保し、防災性の向上を図ります。

地域全体

【都市構造・土地利用】

・良好な田園環境やまちの背景となる森林の保全

【交通】

・(都)湯元和倉温泉駅線の無電柱化
・通学路やバス路線確保の促進

【環境】

・公共下水道の整備

【防災】

・浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援
・地域ルールの設定・運用による防災道路の確保

【都市構造・土地利用】

・復興事業と連携した魅力ある商業地の形成

【交通】

・快適で魅力的な回遊性のある歩行者空間の充実

【環境】

・シーサイドパークの再整備

【環境】

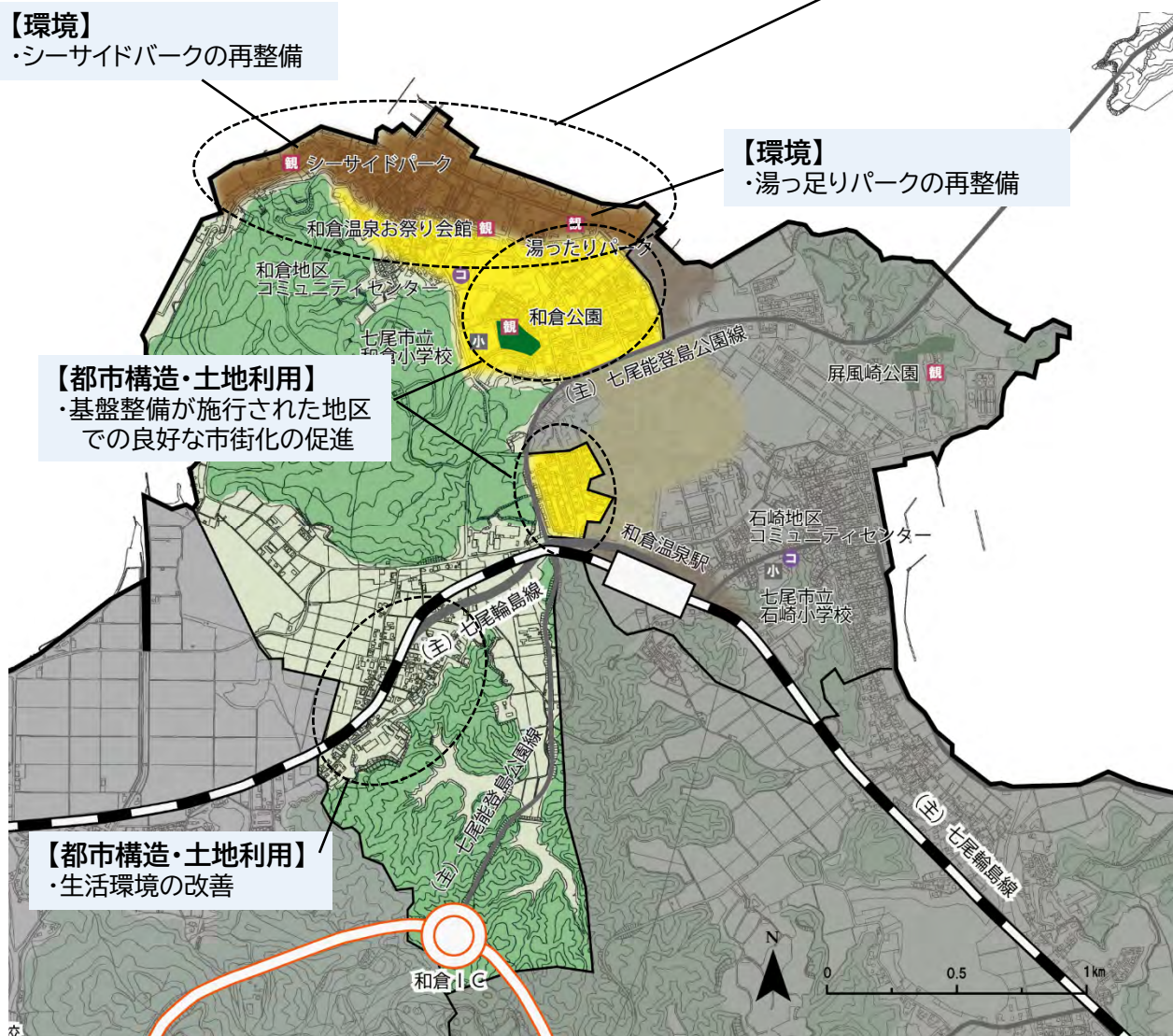
・湯っ足りパークの再整備

【都市構造・土地利用】

・基盤整備が施行された地区での良好な市街化の促進

【都市構造・土地利用】

・生活環境の改善



みなと文化交流ゾーン	まちなかゾーン	田園環境保全ゾーン
ゆけむり文化交流ゾーン	ゆとりの住宅地ゾーン	森林環境保全ゾーン
商業・業務ゾーン	複合市街地ゾーン	公園・緑地（近隣公園以上）
沿道サービスゾーン	工業・生産物流ゾーン	風致地区
生活文化福祉ゾーン		行政区域

図 地域まちづくり方針図

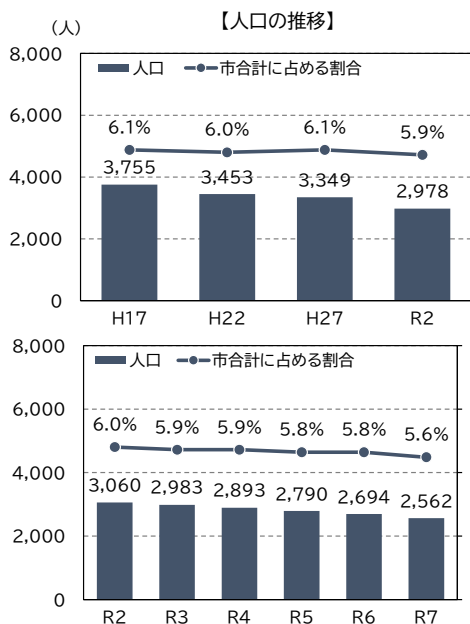
2-7 石崎地域

石崎地域は、都市計画区域の北西に位置し、北側は七尾南湾に接しています。能登島大橋により能登島とつながっています。

①地域の現況

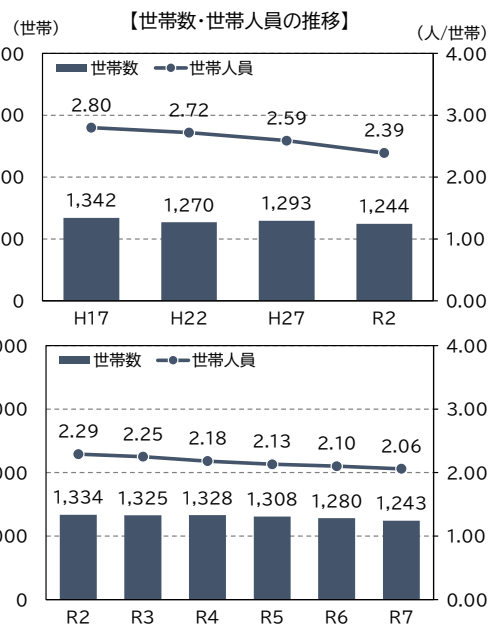
【都市構造・土地利用関連】

- ・ 国勢調査による令和2年までの人口は減少しています。世帯数は平成22年から平成27年にかけて増加し、その後減少しています。住民基本台帳の人口、世帯数をみると、令和2年以降、減少傾向となっています。
- ・ 高齢化率は、地域北西部の土地区画整理事業が施行された箇所では高齢化率が30%未満となっているのに対して石崎漁港周辺等では高齢化率40%以上と高い傾向にあります。
- ・ 石崎漁港周辺や土地区画整理事業が施行された地区で人口が集積しています。
- ・ 市街地に隣接して、特産である七輪等を製造する大規模工場が複数立地しています。
- ・ 石崎漁港周辺には、住宅を中心に建物が密集した集落があります。



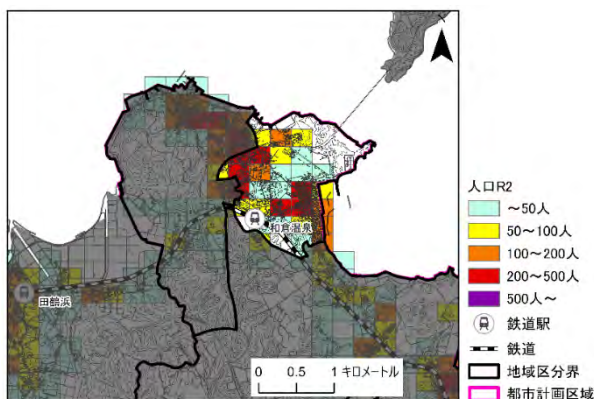
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 石崎地域の人口の推移



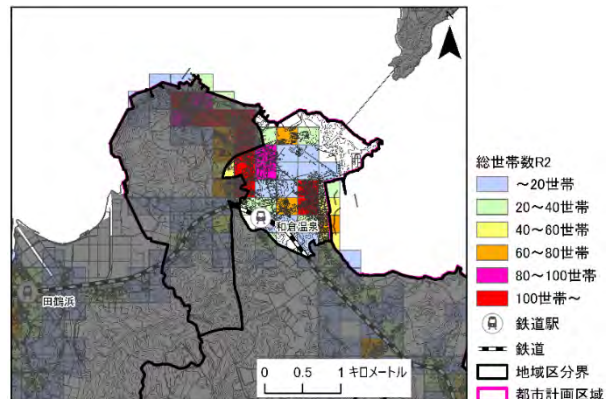
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 石崎地域の世帯数の推移



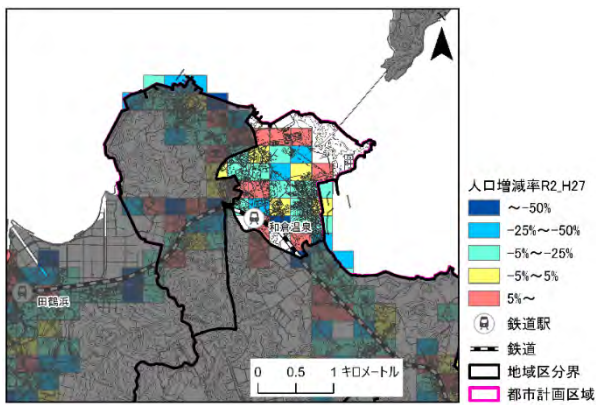
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口分布(令和2年)



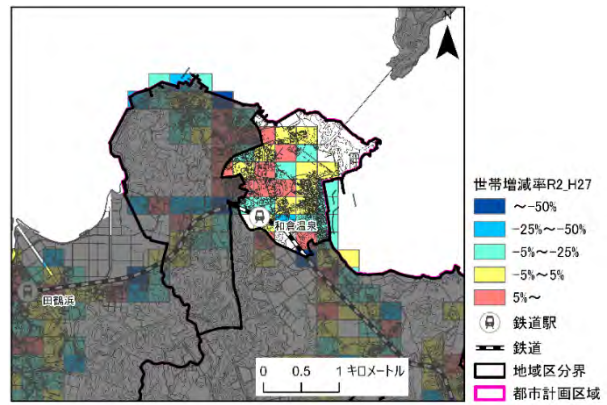
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯分布(令和2年)



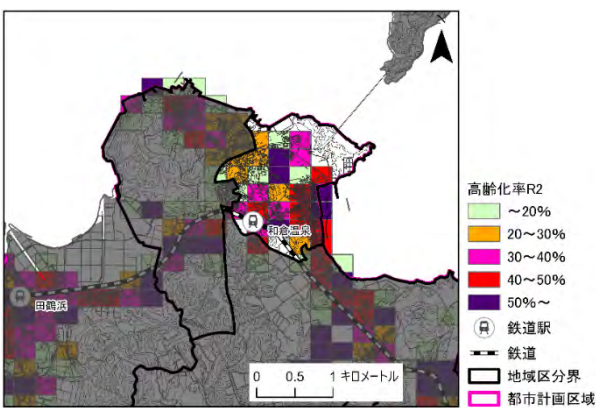
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口増減率(平成 27 年～令和2年)



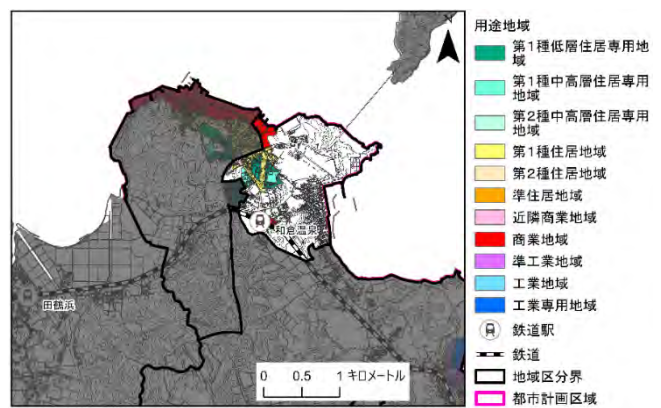
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯数増減(平成 27 年～令和2年)



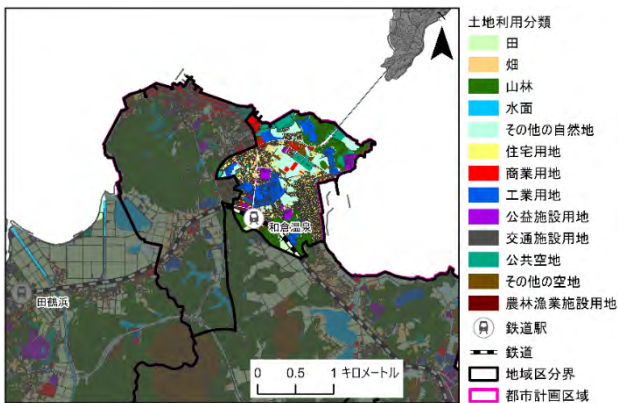
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 高齢化率(令和2年)



【資料：都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料：都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・ 県道七尾輪島線が地域を横断し、田鶴浜方面と七尾市街地を結んでいます。県道七尾能登島公園線、県道和倉停車場線が地域を縦断し、県道七尾能登島公園線は、地域南部の和倉 I C と和倉市街地、能登島を結んでいます。
- ・ 和倉温泉駅を中心にバス路線が設定されています。鉄道に沿う形で、バス交通により周辺市街地との連絡が図られています。

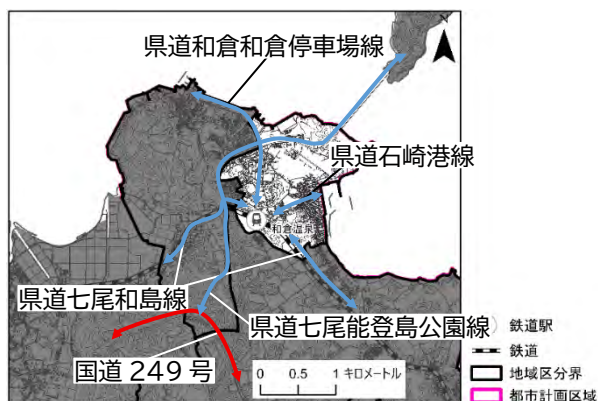
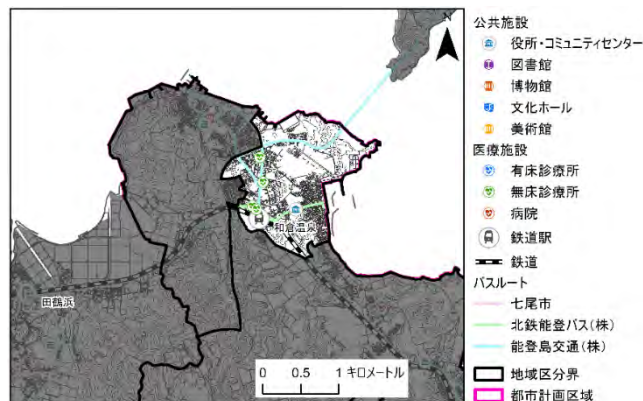


図 地域の幹線道路

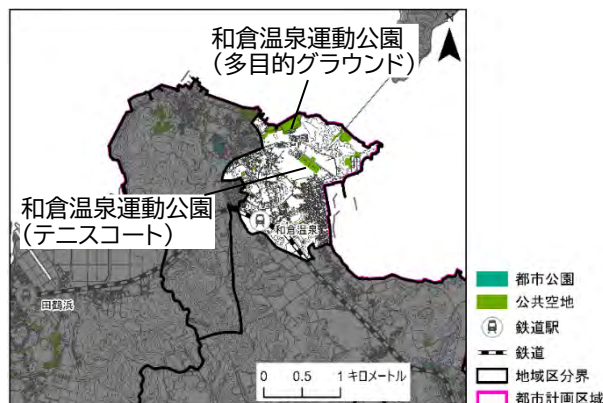


【資料：七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

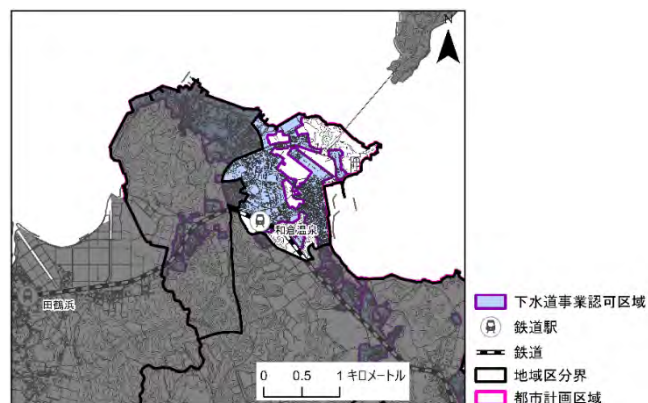
【環境】

- ・ 七尾市を代表する観光地である和倉温泉に隣接しています。
- ・ 和倉温泉運動公園（多目的グラウンド・テニスコート）が地域内に整備されています。
- ・ 能登島大橋周辺地域などの一部地域を除いて、地域の面積の大半が公共下水道の事業認可区域です。



【資料：都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

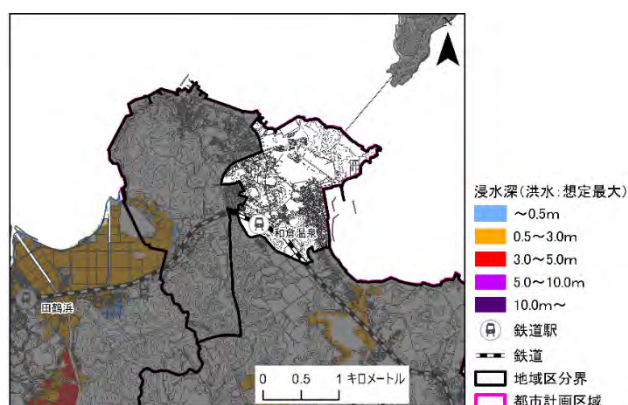


【資料：七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

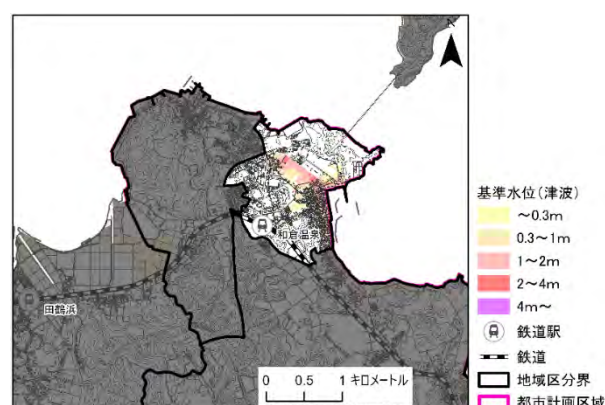
【防災】

- ・令和6年能登半島地震により、被災した住家の約43%が半壊以上の被害を受けました。石崎漁港で広範囲にわたり岸壁に損傷が生じました。
- ・石崎港周辺集落では緊急車両の通行や延焼防止等の安全対策が求められています。
- ・石崎町大鳥浜住宅団地近くに防災多目的広場が整備されています。
- ・洪水による浸水は現時点で想定されていません。
- ・石崎漁港からその西側地域にかけて、津波による浸水が想定されています。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が和倉温泉駅周辺地域においてみられます。
- ・地域内において、ため池浸水想定区域はほとんどみられません。



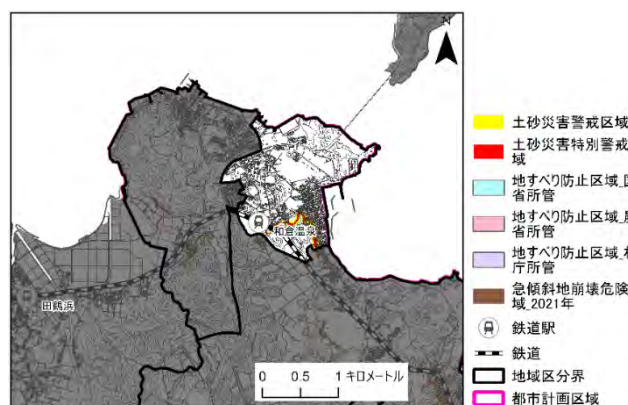
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



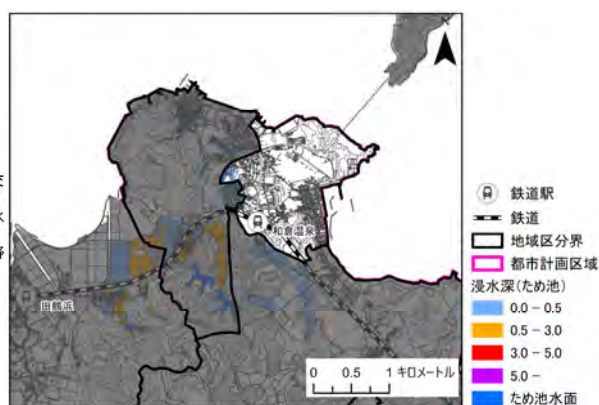
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

石崎地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】和倉温泉駅に近接した立地を活かした暮らしやすい市街地形成

【交通】県道七尾輪島線、県道七尾能登島公園線、県道和倉停車場線を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実

【環境】海に面した自然環境や運動公園を活かした環境形成

【防災】想定される津波による浸水や土砂災害への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けて最優先に取り組みます。
- ・特に復興公営住宅の整備や被災宅地の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保が重要です。また、空き地や空き家の管理面での課題に対して、方針を検討する必要があります。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要であり、近隣の和倉地区や西湊地区の食料品店や飲食店などを活用するなど、周辺地域と連携していくことが重要です。
- ・地区を代表する石崎奉燈祭については継続開催に向けた支援などを今後も検討していきます。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要です。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・将来の大規模な自然災害への備えとして、特に大雨災害時に活用できる避難場所の確保が重要です。護岸機能の強化や河川改修といったハード施策だけでなく、避難場所の確保や避難体制などソフト面でどのように対応を検討するかといった観点も必要であり、民間施設との災害連携協定の締結や避難場所の確保に向けた検討を行います。

<交通 | 交通の考え方>

- ・災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組みます。
- ・本地区では、狭隘道路の拡幅についても検討を行う必要があります。

④地域まちづくりの目標

石崎地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

祭りを中心とした地域の絆を活かした安心して暮らせる活力あるまちづくり

石崎地区には石崎奉燈祭と呼ばれる地区の結束力が強まる行事があることで強固なコミュニティが維持されています。また、和倉温泉駅に近接する公共交通の利便性が高い立地を活かし、定住を促進する良好な住環境を形成します。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・土地区画整理事業による基盤整備が進んでいる地区での良好な市街化の促進、良好な田園環境やまちの背景となる森林の保全などにより、コンパクトな市街地形成を図ります。
- ・既存のコミュニティを活用して生活環境の改善を図ります。
- ・住宅地に隣接して規模の大きな工場が立地しているため、住民が主体となった地区計画の設定などにより、工場と周辺の市街地環境との調和を図ります。

【交通】

- ・(都)湯元和倉温泉駅線は、景観にも配慮したシンボル軸として、無電柱化を促進します。
- ・安全で安心のある生活環境づくりとして、通学路やバス路線の確保を促進するとともに、地域ルールの設定・運用により防災道路を確保し、防災性の向上を図ります。

【環境】

- ・和倉温泉運動公園の再整備を図り、地域住民や市民がスポーツを楽しめる環境を充実します。

【防災】

- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される津波による浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。
- ・浜岡川周辺の浸水被害低減に向けた検討を行います。

地域全体

【都市構造・土地利用関連】

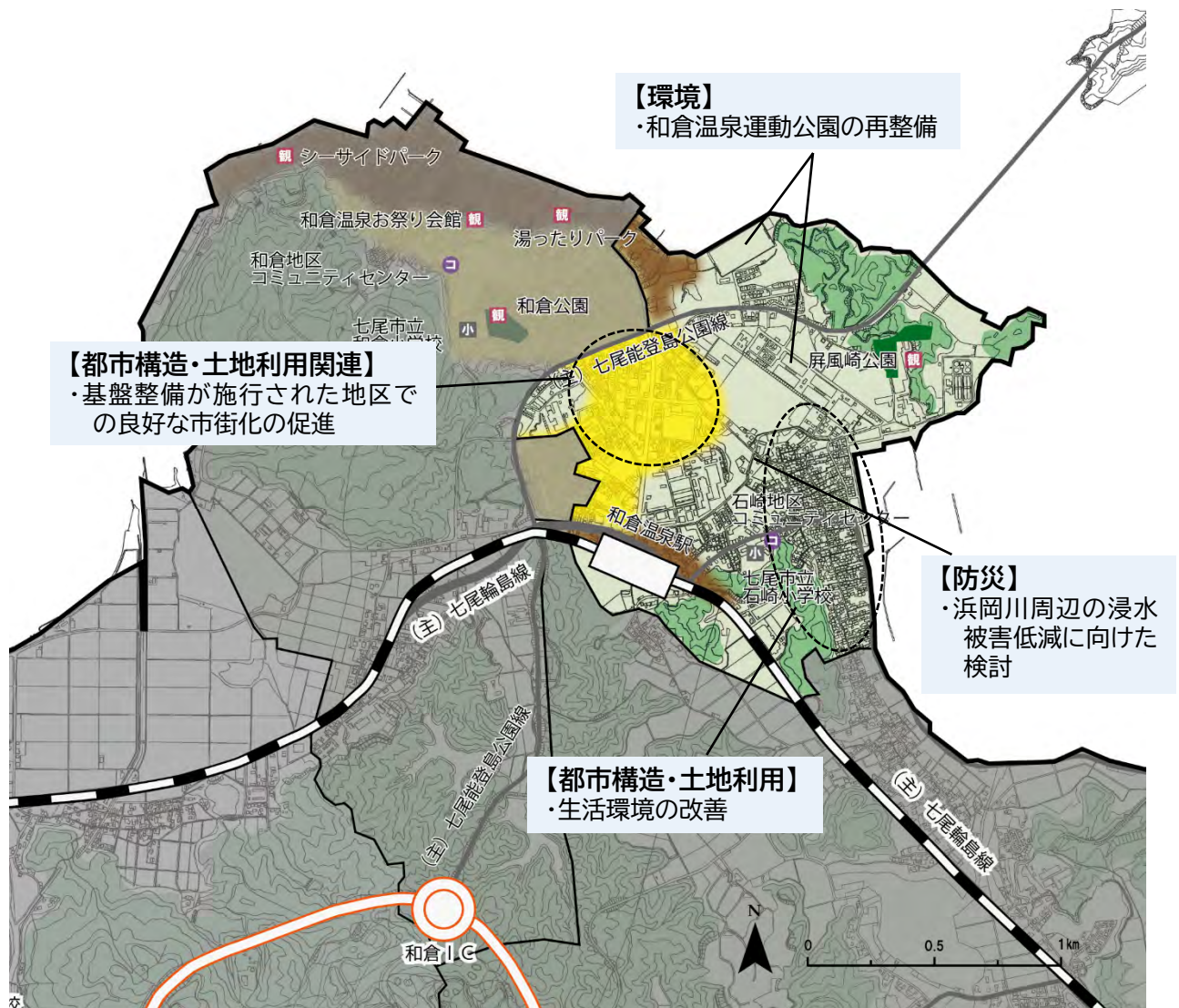
・住民が主体となった地区計画の策定

【交通】

・(都)湯元和倉温泉駅線の無電柱化
・通学路やバス路線確保の促進

【防災】

・浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援



	みなと文化交流ゾーン		まちなかゾーン		田園環境保全ゾーン
	ゆけむり文化交流ゾーン		ゆとりの住宅地ゾーン		森林環境保全ゾーン
	商業・業務ゾーン		複合市街地ゾーン		公園・緑地（近隣公園以上）
	沿道サービスゾーン		工業・生産物流ゾーン		風致地区
	生活文化福祉ゾーン				行政区域

図 石崎地域まちづくり方針図

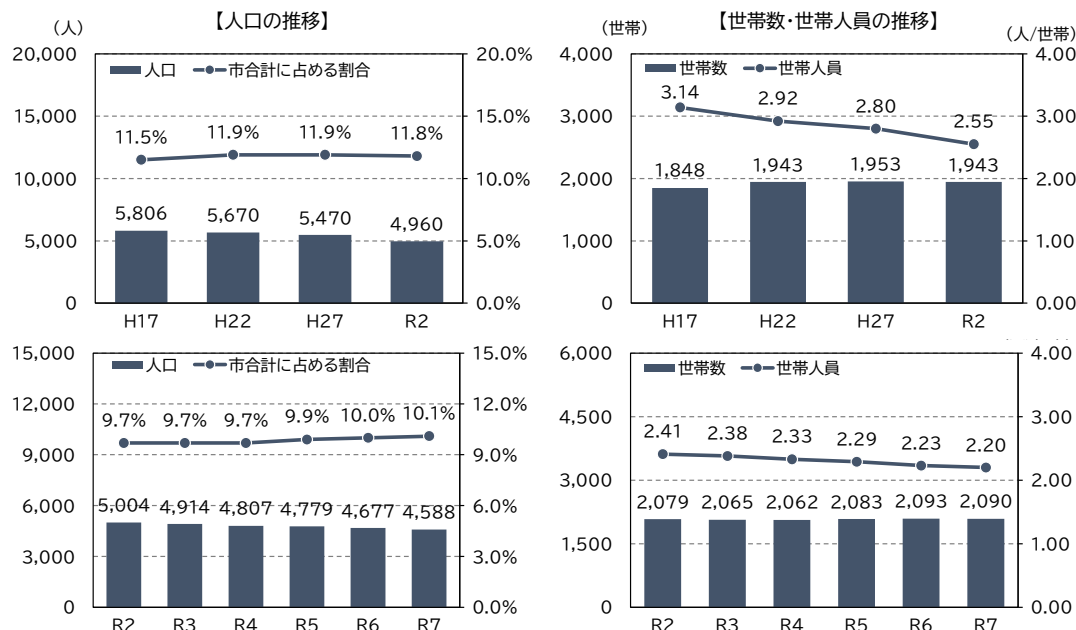
2-8 徳田地域

徳田地域は都市計画区域の南西に位置しています。

①地域の現況

【都市構造・土地利用関連】

- ・国勢調査による令和2年までの人口は減少しています。一方、世帯数は平成17年から平成27年まで増加していましたが、その後減少に転じています。住民基本台帳の人口をみると、減少していますが、世帯数はおおむね横ばいで推移しています。
- ・地域全域で高齢化率50%以上の箇所が多く分布しています。
- ・地域には田園と森林が広がっており、その中に低密度な集落地が分散しています。

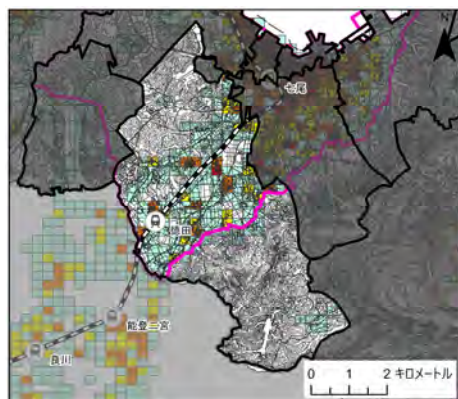


【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 徳田地域の人口の推移

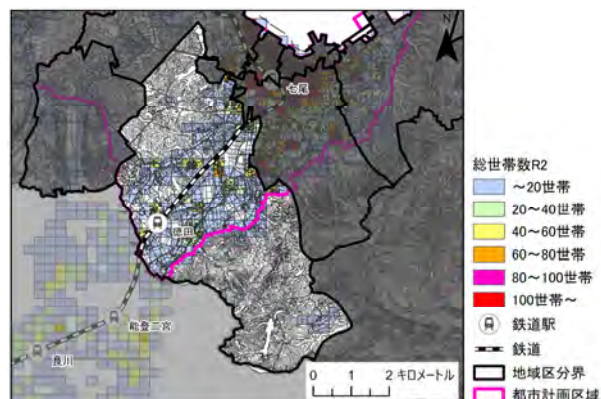
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 徳田地域の世帯数の推移



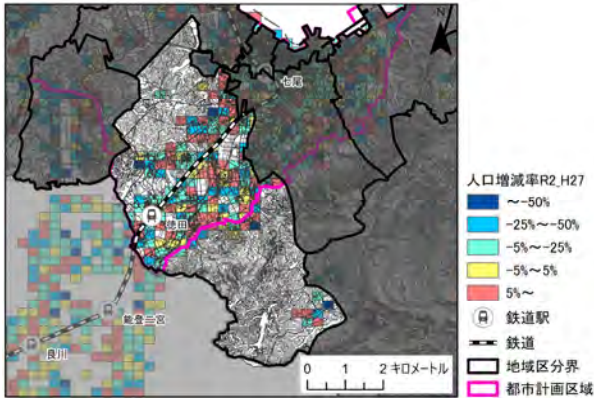
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口分布(令和2年)



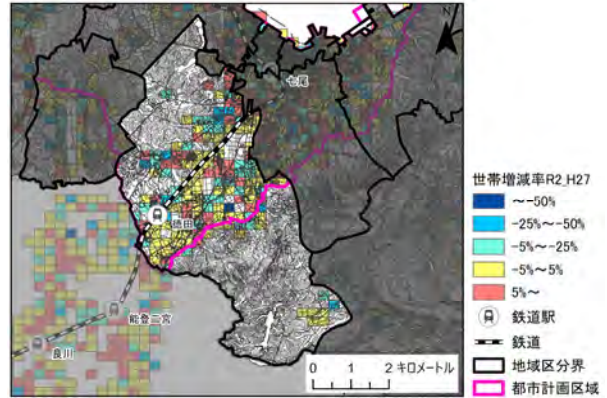
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯分布(令和2年)



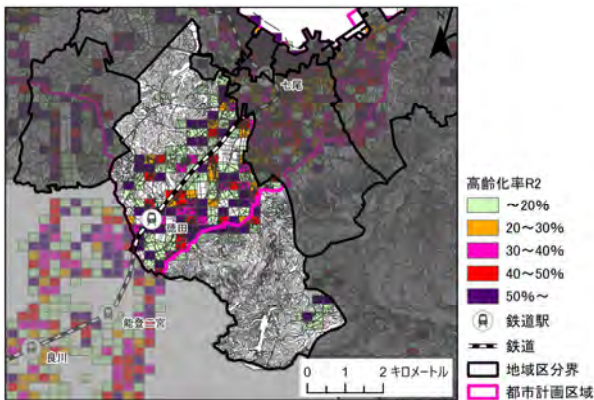
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口増減率(平成 27 年～令和2年)



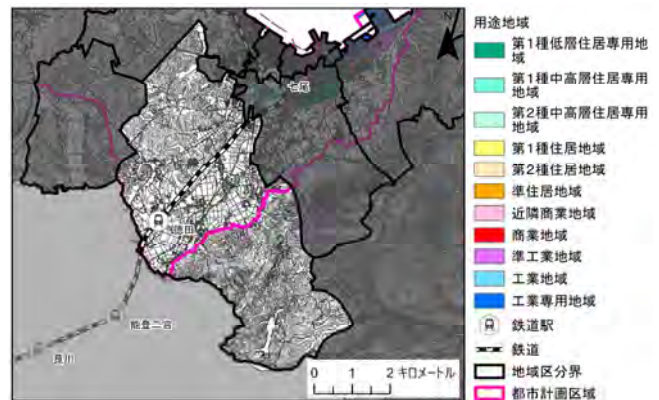
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯数増減(平成 27 年～令和2年)



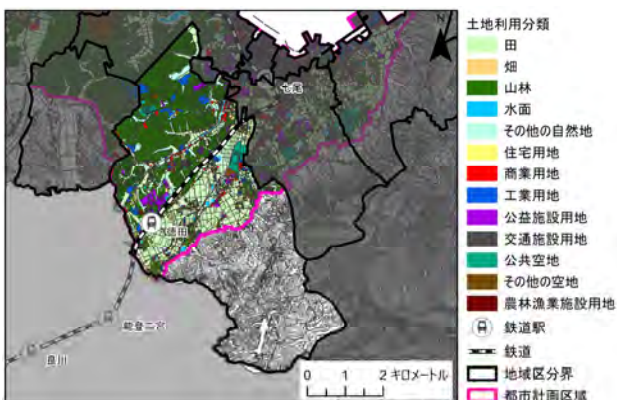
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 高齢化率(令和2年)



【資料：都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料：都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・地域の北東部に、能越自動車道七尾 I C が整備され、国道 159 号と連結しています。国道 159 号と並行して複数の県道が整備されています。地域北部に(都)外環状線が整備されています。
- ・地域に隣接する七尾駅と連結するルートで七尾市によりバスが運行されています。また、路線バスが七尾駅と中能登町方面を結ぶルートで運行されています。

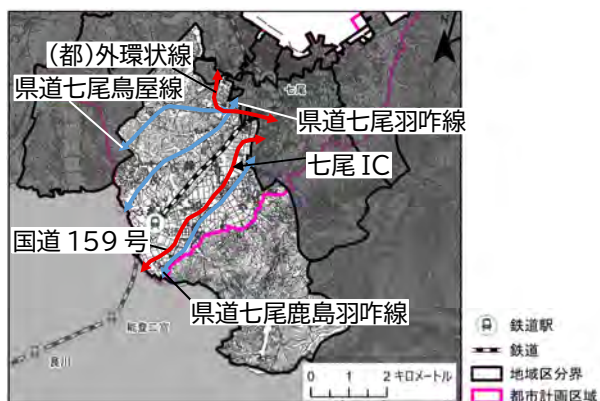
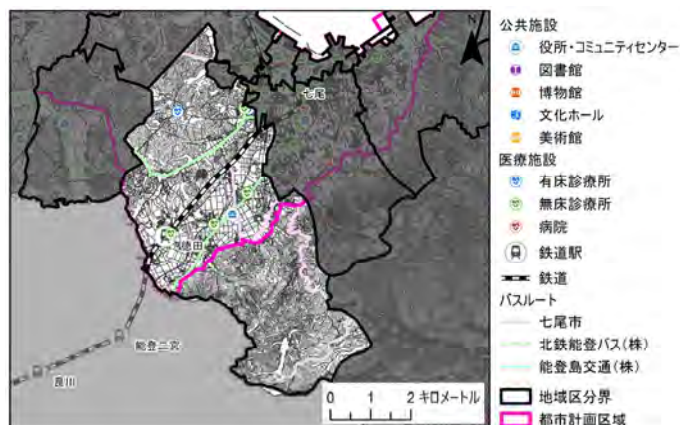


図 地域の幹線道路

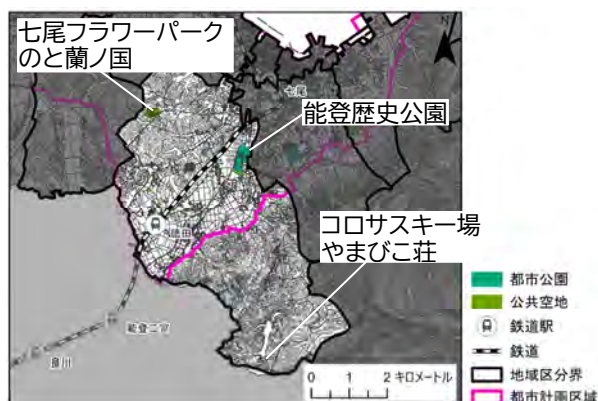


【資料：七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

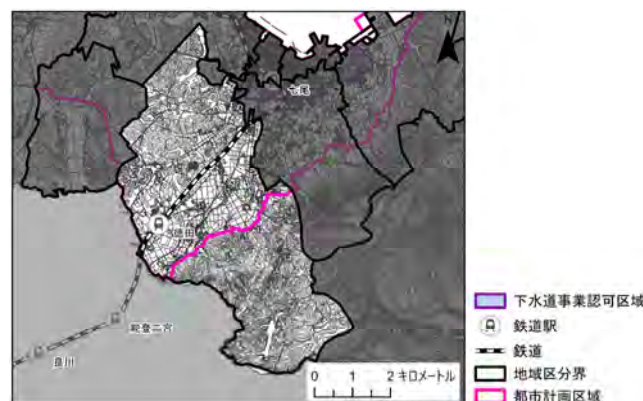
【環境】

- ・歴史的遺産の保全・活用、多様なレクリエーションや防災の拠点となる広域型の都市公園として、能登歴史公園が整備されています。
- ・七尾フラワーパークのと蘭ノ国、地域南部の多根ダム周辺にはコロサスキー場、やまびこ荘があります。
- ・地域の中央付近に J R 徳田駅があり、駅周辺の集落において緑化に関する協定が締結されています。
- ・公共下水道の事業認可区域は地域内にありません。



【資料：都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

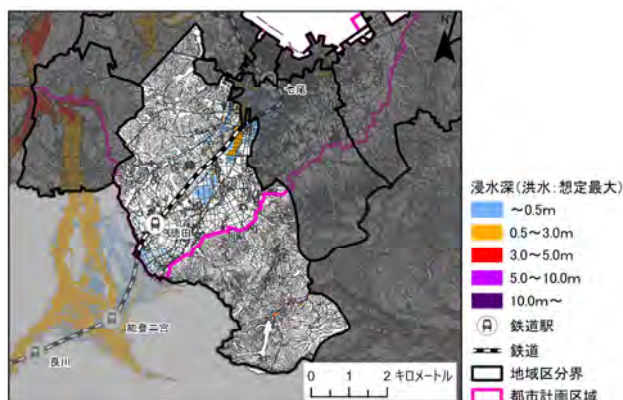


【資料：七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

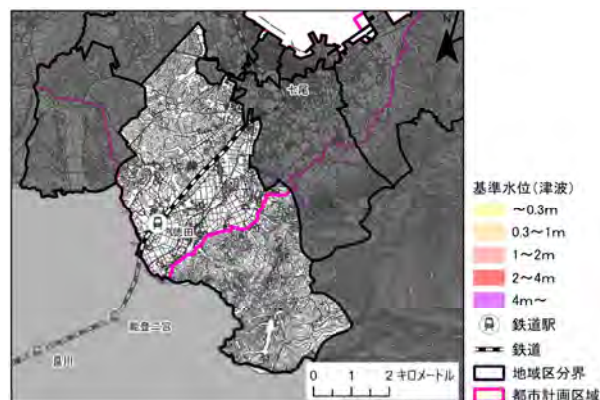
【防災】

- ・令和6年能登半島地震により、被災した住家の約24%が半壊以上の被害を受けました。
- ・また、公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みです。
- ・洪水による浸水が地域中央部で想定されています。
- ・津波による浸水は現時点で想定されていません。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が地域北部や南東部で見られます。
- ・地域中央部の一部でため池浸水想定区域が見られます。



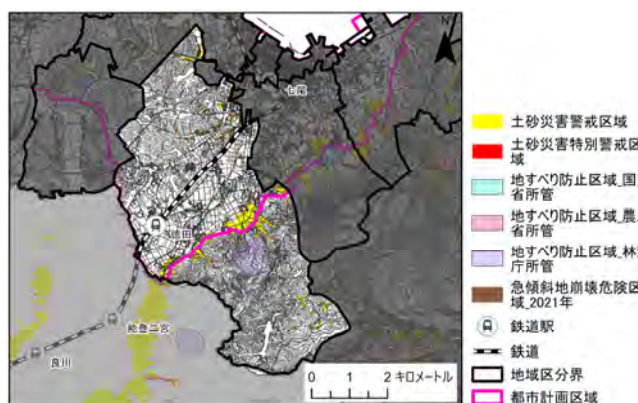
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



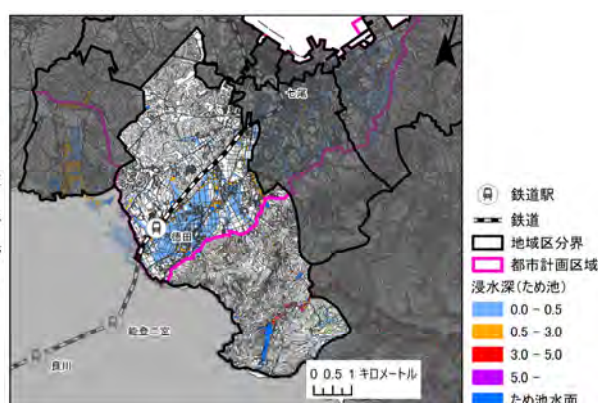
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

徳田地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】田園・自然環境に調和した住宅地形成

【交通】能越自動車道(七尾 IC)、国道 159 号等を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実

【環境】能登歴史公園等の歴史的資源や自然環境を活かした環境形成

【防災】想定される洪水による浸水や土砂災害への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの現状を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けた取り組みを進めていきます。
- ・被災住宅の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保も重要です。今後、空き地・空き家の増加が見込まれることから、地域と行政で連携した空き地や空き家の対策を促進します。
- ・人口減少下において、地区内への定住促進に向けて、徳田駅が立地する公共交通の利便性を活かした新たな住宅地形成や旧農業高校跡地の活用を検討します。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、若者世代などの定住促進や日常生活に必要な生活利便性の向上が必要です。周辺地区と連携しながら、イベントなどの開催や公共施設や食料品店などの生活利便施設の立地検討とともに移動販売や買い物支援サービスの充実など地域のニーズに合った生活利便性の確保を図ります。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧及び継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要です。
- ・農地などの災害復旧を進めるとともに、小規模ほ場など地域の実情に応じた営農支援制度について、国や県との調整を図り、事業化を検討します。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・将来の大規模な自然災害の備えとして、迅速な避難所開設などの地域の初動体制強化や各避難所・集会施設の機能充実などを図ります。また、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保も重要な課題です。
- ・広域交流道路である能越自動車道 IC との連絡の強化や地域間の連携を促進するため、市街地との連絡を強化するとともに、安全性の向上を図ります。
- ・土砂災害の危険性の高いエリアでは、震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組みます。浸水が想定されている河川については、河川改修を促進します。

<交通 | 交通の考え方>

- ・災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組みます。

④地域まちづくりの目標

徳田地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

七尾 IC の広域交通利便性と田園・自然環境が調和した 暮らしやすいまちづくり

能越自動車道七尾 IC や国道 159 号等の広域交通の利便性を活かしながら、田園・自然環境と調和した良好な住宅地形成を進めます。また、能登歴史公園等の歴史的資源や自然環境を活かし、安全な道路網の形成や公共交通の維持・充実等を図ることで、快適で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・良好な田園環境やまちの背景となる森林を保全するとともに、圃場整備による営農環境の維持・向上を図ります。
- ・無秩序な開発を抑制し、点在する既存集落の生活環境を保全します。
- ・(都)外環状線の沿線については、生活サービス施設等の誘導により市民の日常生活の利便性向上、周辺環境との調和を図ります。

【交通】

- ・広域的な交流を促進するため、広域交流道路である能越自動車道 IC との連絡を強化します。また、地域間の連携を促進するため、市街地との連絡を強化するとともに、安全性の向上を図ります。
- ・公共交通サービスや買い物支援などにより、高齢者等の生活利便性確保を図ります。
- ・移動スーパーや商品の共同購入など地域による取り組みを支援します。

【環境】

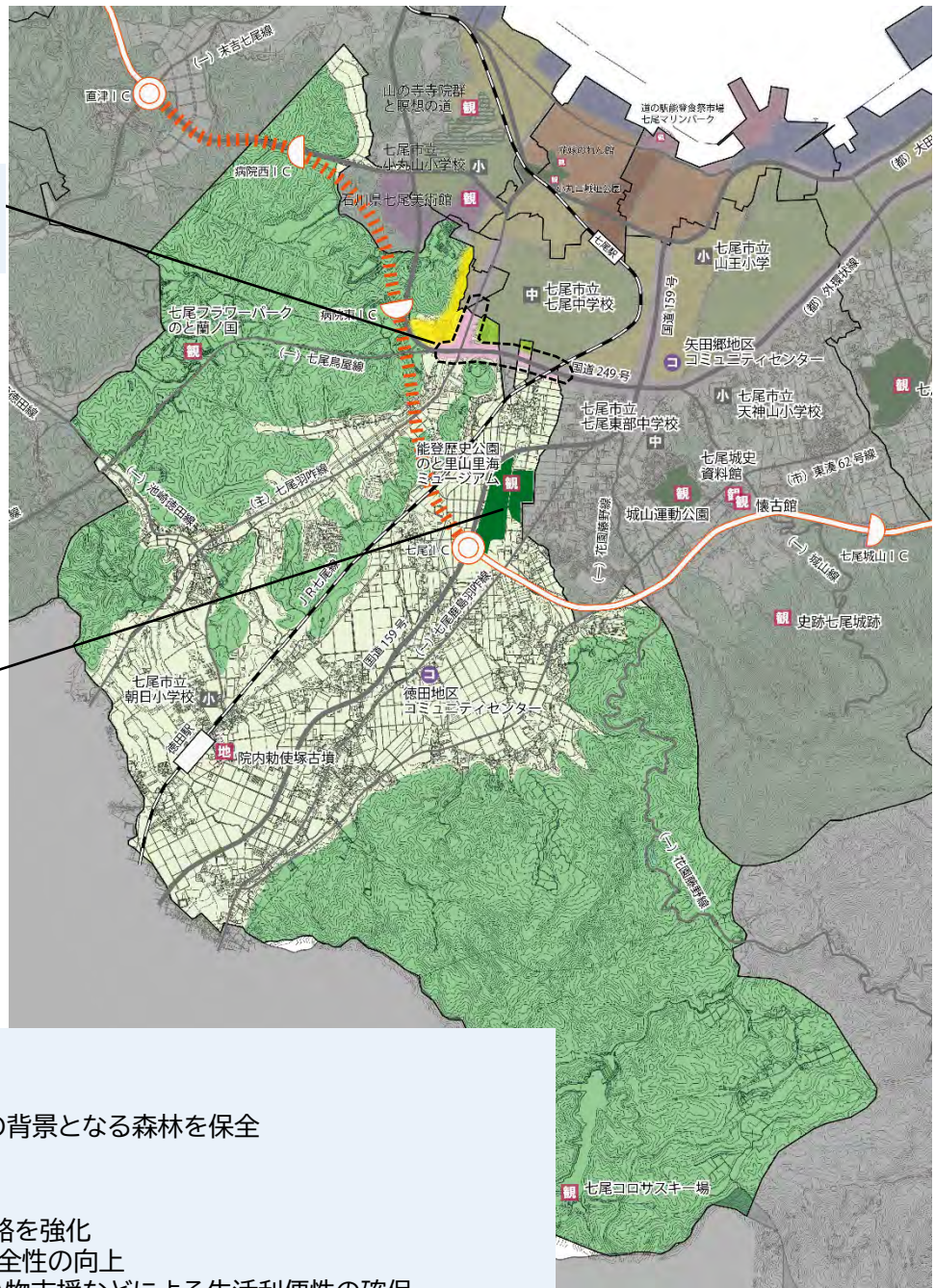
- ・能登歴史公園は、まちの個性となる水と緑の拠点であり、特色を活かした整備により、広域的な観光交流資源としてまちづくりに活用します。
- ・地域の人々が集う公共的な施設は、都市緑化の先導役として積極的に緑化を推進するとともに、子どもが安心して遊ぶことができる場所の充実を図ります。

【防災】

- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される洪水による浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。

【都市構造・土地利用】
・生活サービス施設等の誘導

【環境】
・能登歴史公園の特色を活かした整備によるまちづくりへの活用



地域全体

【都市構造・土地利用】

- ・良好な田園環境やまちの背景となる森林を保全
- ・無秩序な開発の抑制

【交通】

- ・能登自動車道ICとの連絡を強化
- ・市街地との連絡強化・安全性の向上
- ・公共交通サービスや買い物支援などによる生活利便性の確保
- ・移動スーパーや商品の共同購入など地域による取り組みを支援

【環境】

- ・公共的な施設の積極的な緑化推進
- ・子どもが安心して遊ぶことができる場所の充実

【防災】

- ・浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援

みなと文化交流ゾーン	まちなかゾーン	田園環境保全ゾーン
ゆけむり文化交流ゾーン	ゆとりの住宅地ゾーン	森林環境保全ゾーン
商業・業務ゾーン	複合市街地ゾーン	公園・緑地（近隣公園以上）
沿道サービスゾーン	工業・生産物流ゾーン	風致地区
生活文化福祉ゾーン		行政区域

図 徳田地域まちづくり方針図

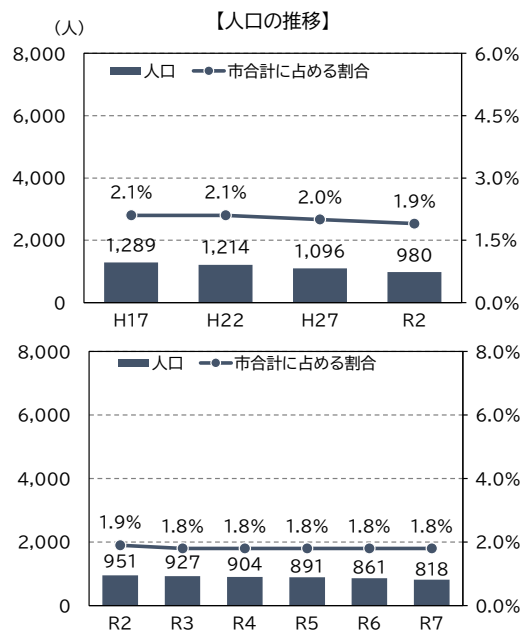
2-9 高階地域

高階地域は都市計画区域の南西に位置しています。

①地域の現況

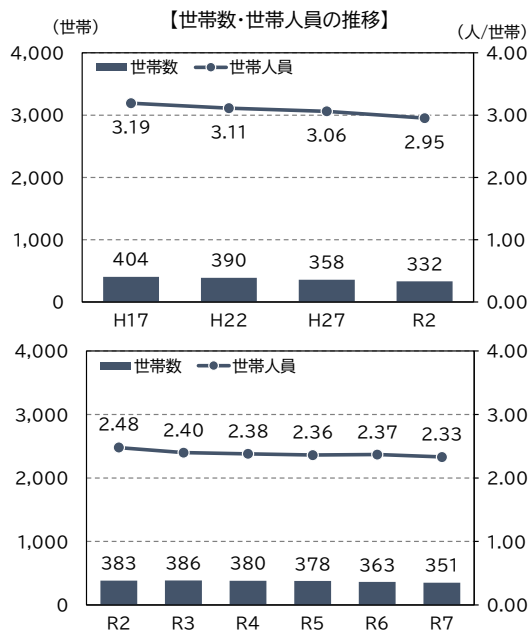
【都市構造・土地利用関連】

- ・ 国勢調査による令和2年までの人口、世帯数は減少しています。住民基本台帳の人口、世帯数をみても令和2年以降、減少しています。
- ・ 高齢化率は、50%以上の箇所が多く分布しています。
- ・ 地域には田園と森林が広がっており、その中に低密度な集落地が分布しています。



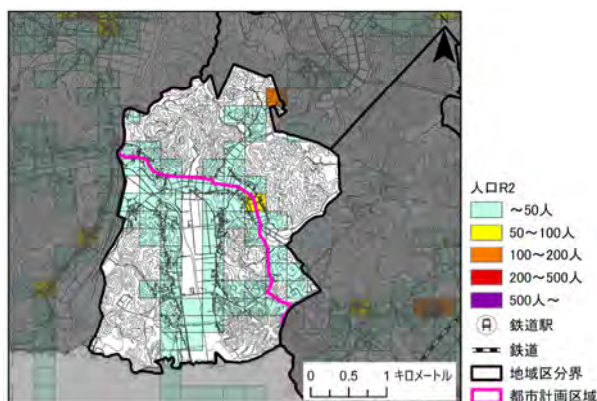
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 高階地域の人口の推移



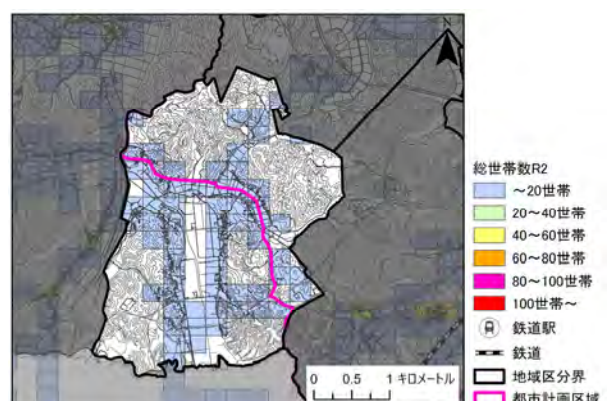
【資料：上段：国勢調査、下段：住民基本台帳】

図 高階地域の世帯数の推移



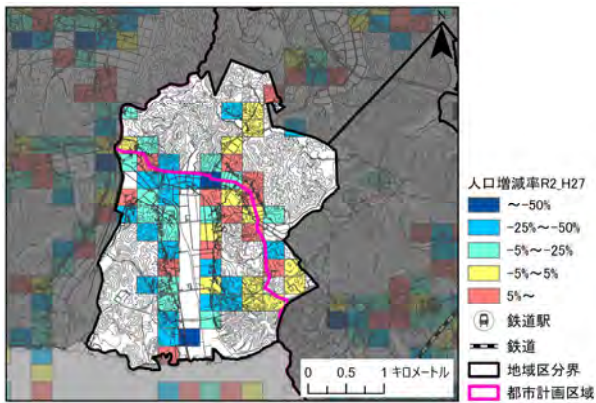
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口分布(令和2年)



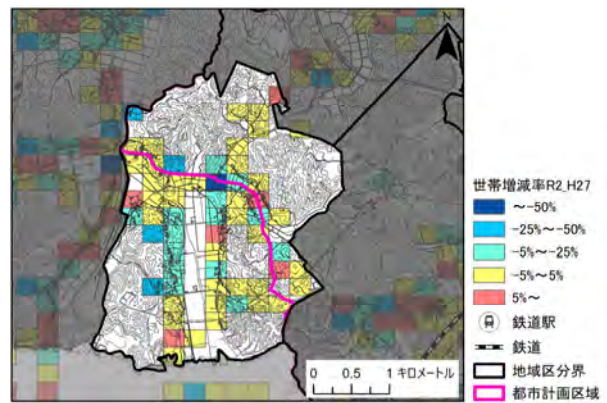
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯分布(令和2年)



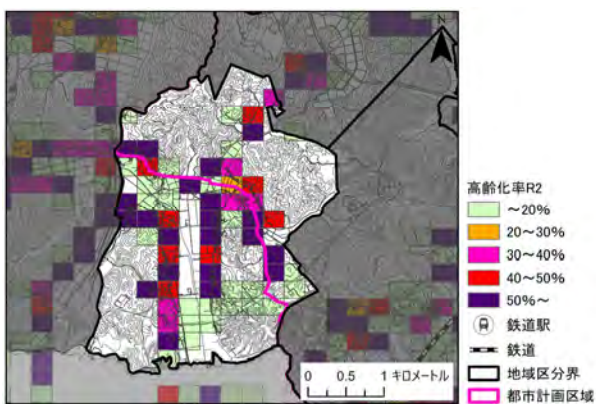
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 人口増減率(平成 27 年～令和2年)



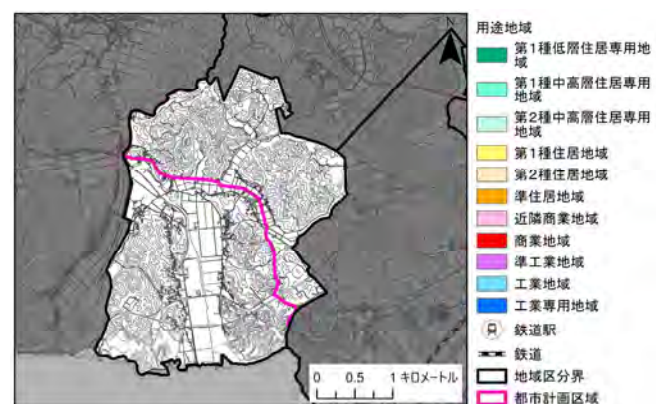
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 世帯数増減(平成 27 年～令和2年)



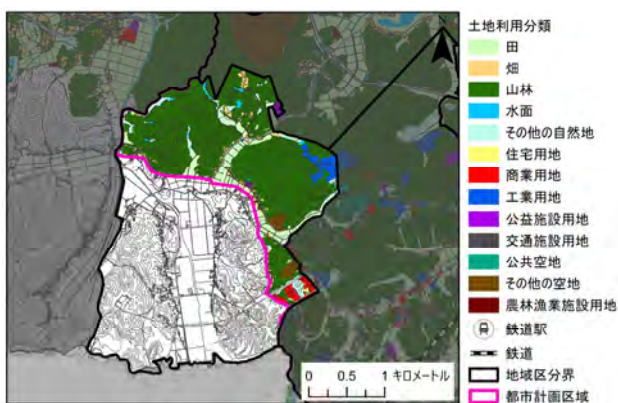
【資料：国勢調査（250mメッシュ）】

図 高齢化率(令和2年)



【資料：都市計画基礎調査】

図 用途地域指定状況



【資料：都市計画基礎調査】

図 土地利用現況

【交通】

- ・ 県道末吉七尾線が地域中央から北部に整備され、能越自動車道直津 IC につながっています。また、県道七尾鳥屋線が地域南部を東西に横断し、中能登方面と七尾市街地を結んでいます。
- ・ 七尾市街地方面と連結するルートで七尾市によりバスが運行されています。また、路線バスが七尾駅と中能登町方面を結ぶルートで運行されています。

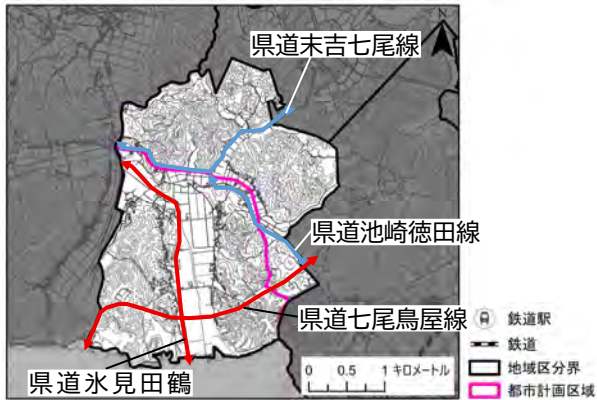
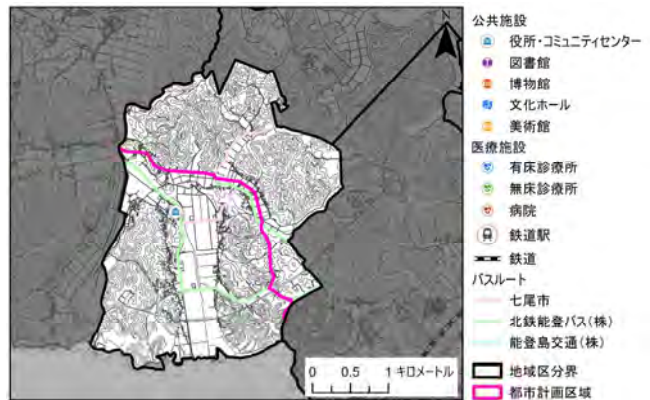


図 地域の幹線道路

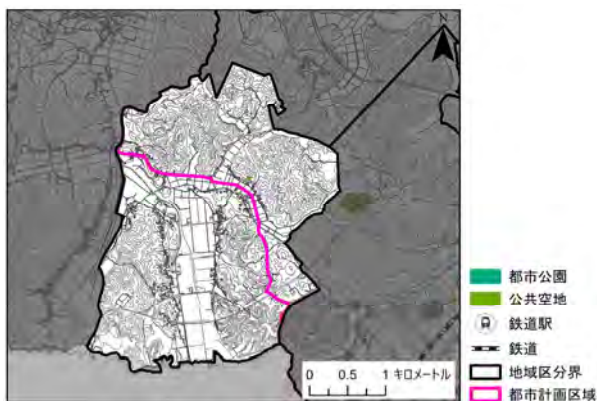


【資料：七尾市資料】

図 公共交通(鉄道・バス)

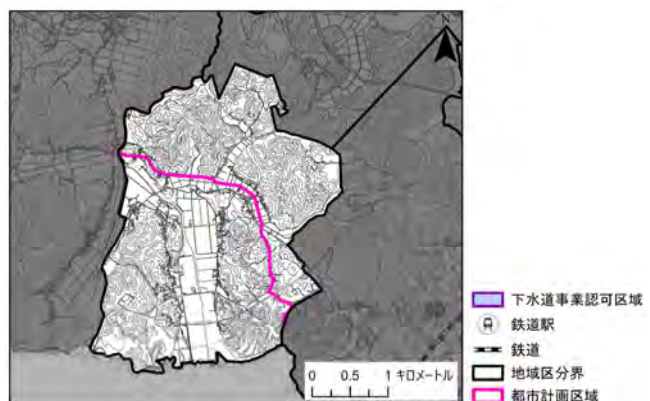
【環境】

- ・ 地域内に整備された都市公園はありません。
- ・ 公共下水道の事業認可区域は地域内にありません。



【資料：都市計画基礎調査】

図 公園・緑地

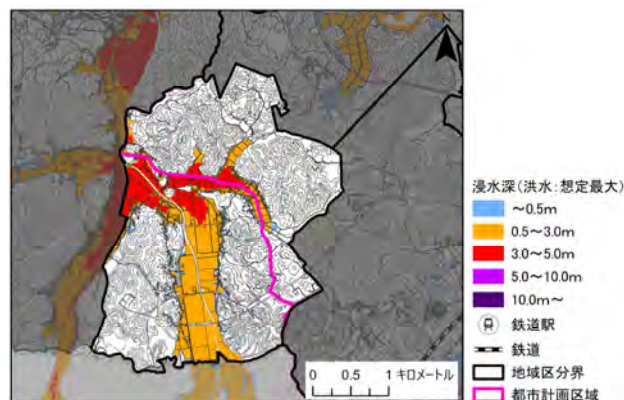


【資料：七尾市資料】

図 下水道事業認可区域

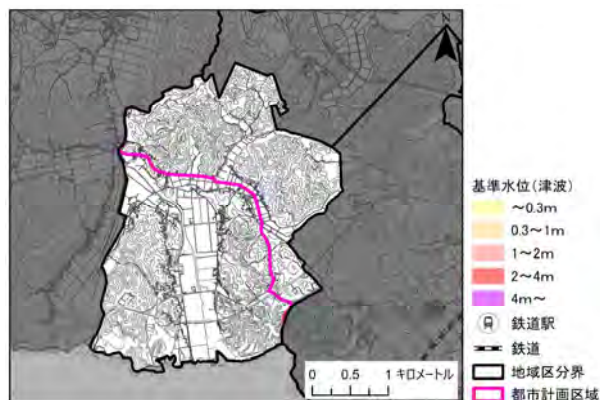
【防災】

- ・令和6年能登半島地震により、被災した住家の約36%が半壊以上の被害を受けました。
- ・また、公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地が増加する見込みです。
- ・洪水による浸水が地域中央部の農地が広がる地域で、床上浸水相当とされる浸水深0.5m以上及び2階への垂直避難が困難とされる浸水深3.0m以上の浸水が想定されています。
- ・津波による浸水は現時点で想定されていません。
- ・土砂災害の発生が想定される地域が集落地周辺等でみられます。
- ・主に地域内の農地でため池浸水想定区域がみられます。



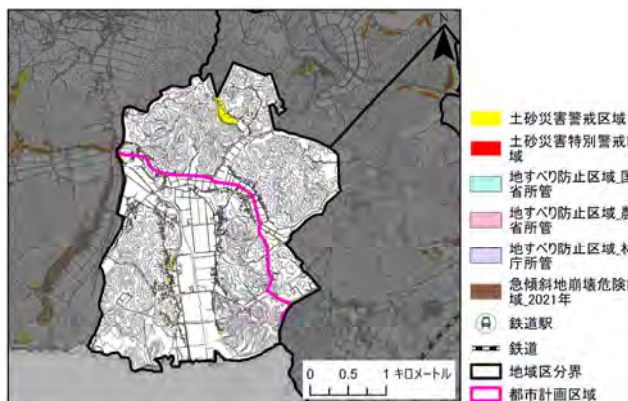
【資料：石川県資料】

図 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



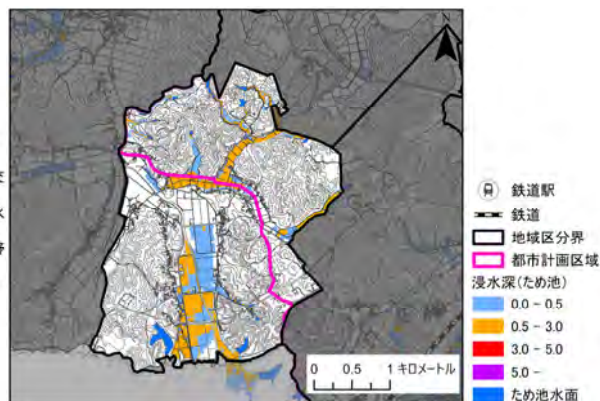
【資料：石川県資料】

図 津波災害警戒区域(基準水位)



【資料：石川県資料】

図 土砂災害のハザード情報



【資料：七尾市資料】

図 ため池浸水想定区域

②地域の課題

高階地域の現況を踏まえ、全体構想の将来目標や将来都市構造の実現の観点から、地域の課題を以下のように整理します。

【都市構造・土地利用関連】田園・自然環境に調和した集落地形成

【交通】県道七尾鳥屋線、県道末吉七尾線等を骨格とした安全な道路網の形成と公共交通の維持・充実

【環境】地域内の田園・自然環境を活かした環境形成

【防災】想定される洪水による浸水や土砂災害への対応

③復興まちづくりの基本方針【地区別復興構想から抜粋】

<住宅 | 居住の考え方>

- ・被災世帯は高齢世帯、単身世帯など様々であったため、一人ひとりの状況を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻るよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けた取り組みを進めていきます。また、増加している空き家の活用も求められています。

<くらし | 生活利便性向上の考え方>

- ・地域に人が住み続けるためには、日常生活に必要な生活利便性の向上が必要であり、移動販売や買い物支援サービスなど地域の実情に沿った施策の実現を目指します。また、子どもが安心して遊べ、教育を受けられる環境整備に努めます。

<仕事 | 産業の考え方>

- ・震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧および継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要です。
- ・主要産業である農業については、営農維持に向けた補助などを活用して、担い手不足や耕作放棄などの問題解決に努めます。

<インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方>

- ・将来の大規模な自然災害への備えとして、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保が必要です。
- ・本地区において特に土砂災害や洪水の危険性の高いエリアでは、震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組みます。

<交通 | 交通の考え方>

- ・災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組みます。
- ・ななおコミュニティバス「ぐるっとセブン」の継続運行に向けた運行形態の検討に取り組みます。

④地域まちづくりの目標

高階地域における地域まちづくりの目標を以下のように設定します。

田園・自然環境に包まれた居住環境で安心して 暮らすことができるまちづくり

地域内に広がる田園・自然環境を保全・活用しながら、自然と調和した集落地形成を進めます。
また、道路網形成や公共交通の維持・充実等により、安心して住み続けられるまちづくりを進めます。

⑤地域まちづくりの方針

地域の課題に対応する地域まちづくりの方針を以下に定めます。

【都市構造・土地利用関連】

- ・良好な田園環境やまちの背景となる森林を保全するとともに、圃場整備による営農環境の維持・向上を図ります。
- ・無秩序な開発を抑制し、点在する既存集落の生活環境を保全します。

【交通】

- ・広域的な交流を促進するため、広域交流道路である能越自動車道 I C との連絡を強化します。また、地域間の連携を促進するため、市街地との連絡を強化するとともに、安全性の向上を図ります。
- ・ななおコミュニティバス「ぐるっとセブン」の継続運行に向けた運行形態について検討します。
- ・公共交通サービスや買い物支援などにより、高齢者等の生活利便性確保を図ります。

【環境】

- ・地域の人々が集う公共的な施設は、都市緑化の先導役として積極的に緑化を推進するとともに、子どもが安心して遊ぶことができる場所の充実を図ります。
- ・地域の人々が安心して生活できるよう、関係機関と連携し巡視等を行い地域の防犯力を高めます。

【防災】

- ・能登半島地震により被災した施設の早急な復旧を図ります。
- ・想定される洪水による浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援します。
- ・能登半島地震の経験を活かした避難所の充実を図ります。

地域全体

【都市構造・土地利用】

- ・良好な田園環境やまちの背景となる森林を保全
- ・無秩序な開発の抑制

【交通】

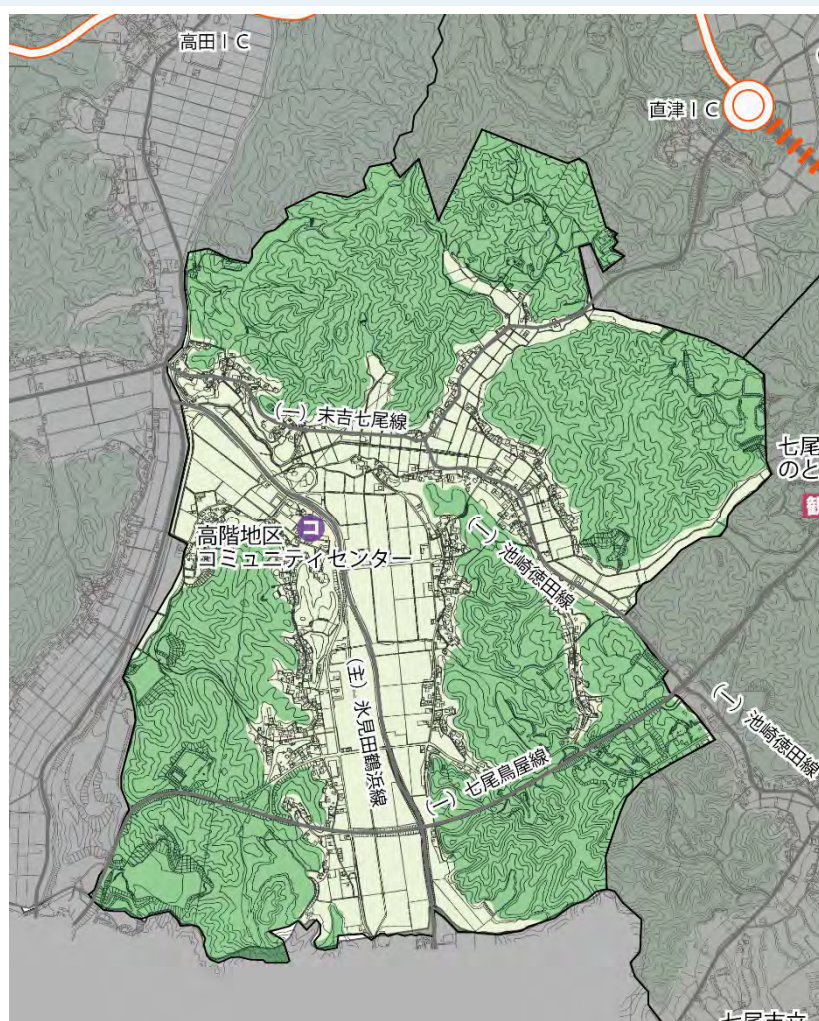
- ・能越自動車道ICとの連絡を強化
- ・市街地との連絡強化・安全性の向上
- ・「ぐるっとセブン」の継続運行に向けた運行形態の検討
- ・公共交通サービスや買い物支援などによる生活利便性の確保

【環境】

- ・子どもが安心して遊ぶことができる場所の充実
- ・関係機関と連携し巡視等を行い地域の防犯力の向上

【防災】

- ・浸水や土砂災害を想定した自助・共助による緊急避難体制の構築を支援



みなと文化交流ゾーン	まちなかゾーン	田園環境保全ゾーン
ゆけむり文化交流ゾーン	ゆとりの住宅地ゾーン	森林環境保全ゾーン
商業・業務ゾーン	複合市街地ゾーン	公園・緑地（近隣公園以上）
沿道サービスゾーン	工業・生産物流ゾーン	風致地区
生活文化福祉ゾーン		行政区域

図 高階地域まちづくり方針図

6章. まちづくりの実現に向けて

1. まちづくりの推進方針

以下のような取り組みを推進することにより、本計画の実現を図っていきます。

<震災を契機とした事業の推進>

七尾市は、令和6年能登半島地震により甚大な被害が生じましたが、復旧・復興に向けて道路や下水道等の各種ハード事業が順次進められています。こうしたハード事業を引き続き推進するとともに、ハード事業の効果を市民等が十分に享受できるようまちづくりを推進します。

<立地適正化計画等と連携した事業の推進>

立地適正化計画は、都市再生特別措置法の規定により都市計画マスタープランの一部とみなされるものであり、本計画に位置づける方針の実現に向けては、立地適正化計画における都市再生整備事業等の国制度を活用した誘導施策の実施、届出制度の適切な運用など、立地適正化計画と連携して事業を推進します。

<本計画の方針に基づいた都市計画などの決定・変更>

都市計画マスタープランは、土地利用、道路、公園、下水道など個々の都市計画の指針となるものであり、本計画に基づきながら、必要に応じて都市計画の決定・変更や関連計画の策定・見直しを行うとともに、個別の事業を推進します。

<民間活力を活かした事業の推進>

効果的かつ効率的なまちづくりの推進にあたっては、道路や公園をはじめとする公共空間を活用した民間主体のエリアマネジメント活動の取り組みや民間の資金・ノウハウをいかしたPPP／PFIの導入、新たな技術の活用などについて検討します。

2. 地域・市民が主体のまちづくりの推進方針

七尾市では、合併経緯等を踏まえた市内15地区にコミュニティセンターを配置し、各地区の地域運営組織である「地域づくり協議会」が、指定管理者としてコミュニティセンターを管理・運営しており、町会等とも連携しながら、地域主体のまちづくり活動を行っています。

こうした市内15地区の地域づくり協議会等による地域主体のまちづくりを支援するとともに、先進的・モデルとなる取り組みをはじめとする地域の活動については、情報共有を行い、こうした取り組みの市全体への波及を促進します。

3. 計画の進行管理の方針

以下のような取り組みにより、本計画の進行管理を図っていきます。

<PDCA サイクル>

計画の進行管理においては、計画（Plan）から実行（Do）、その効果や成果を適時評価・点検（Check）し、必要な改善（Action）を講じるという「PDCAサイクル」の考えを用いながら、実効性のある計画として推進します。

関係法令や上位計画の変更、社会経済情勢に大きな変化が生じた場合などの適切な時期に、計画に定めた方針や取り組みの達成状況の評価・点検を行います。

<都市計画マスタープランの見直し>

社会情勢の変化や計画に定めた方針や取り組みの達成状況の評価結果等を踏まえ、必要に応じて本計画の見直しを行います。